

那智勝浦町第9次高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画策定のための

在宅介護実態調査

報告書

令和2年3月

那智勝浦町

目次

I	調査概要	1
	1. 調査の目的	1
	2. 調査の手法	1
	3. 配布・回収状況	2
	4. 数値等の基本的な取り扱いについて	2
II	調査結果	3
	属性 調査対象者について	4
	A票 認定調査員が、概況調査票等と並行して記載する項目	8
	B票 主な介護者様、もしくはご本人様にご回答・ご記入頂く項目	41

I 調査概要

1. 調査の目的

本調査は、那智勝浦町にお住まいの要支援及び要介護認定を受けている65歳以上の住民を対象に、日常の在宅介護の様子をお伺いして現状や課題等を把握し、令和2年度から始まる「那智勝浦町第9次老人福祉計画及び第8期介護保険事業計画」策定の基礎資料とさせていただくために実施しました。

2. 調査の手法

(1) 調査地域

那智勝浦町全域

(2) 調査対象

要支援・要介護認定を受けている在宅の高齢者

(3) 調査方法

聞き取り調査

(4) 調査時期

令和元年8月～令和2年2月

(5) 調査内容

国（厚生労働省）が示した「在宅介護実態調査」の設問を基本とした調査内容となっています。

3. 配布・回収状況

調査内容	配布数	有効回収者数	有効回収率
在宅介護実態調査	152人	152人	100%

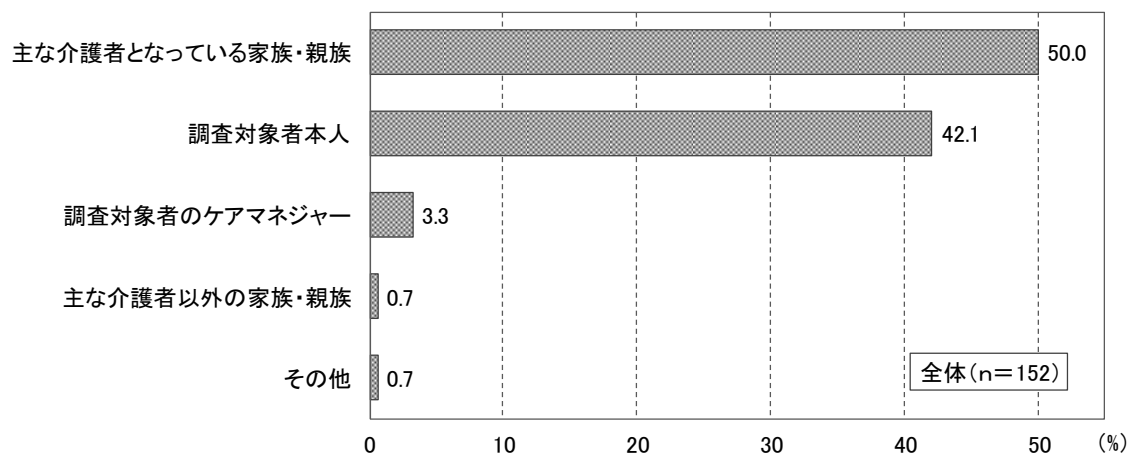
4. 数値等の基本的な取り扱いについて

- ・比率は全て百分率（%）で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。従って、合計が100%を上下する場合があります。
- ・基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出しています。（回答者総数または該当者数）
- ・質問の終わりに【MA】（multiple answer：複数回答）とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出してもよい質問であるため、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
- ・文中、グラフ中のカテゴリー（選択肢）の文言や数値等は、一部略してあります。
- ・文中、グラフ中のクロス集計の数字・グラフの一部では、無回答者を除いてあります。
- ・質問の選択肢は、基本的に「 」で表していますが、選択肢を2つ以上合わせて数値を示す場合は“ ”で表してあります。

II 調査結果

A票の聞き取りを行った相手の方は、どなたですか。

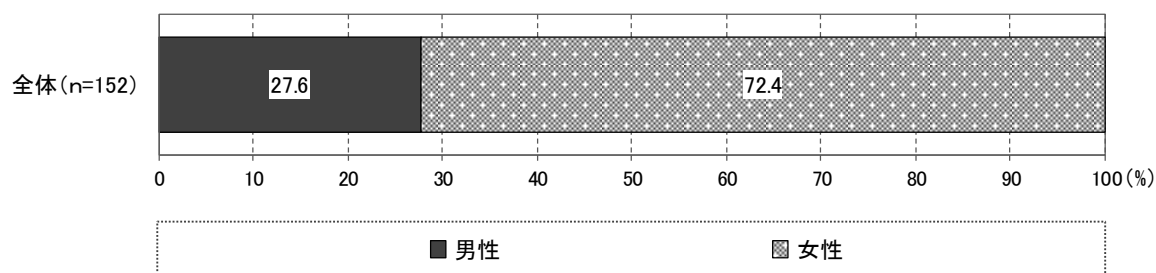
「主な介護者となっている家族・親族」が50.0%と最も高く、次いで、「調査対象者本人」(42.1%)となっています。



属性 調査対象者について

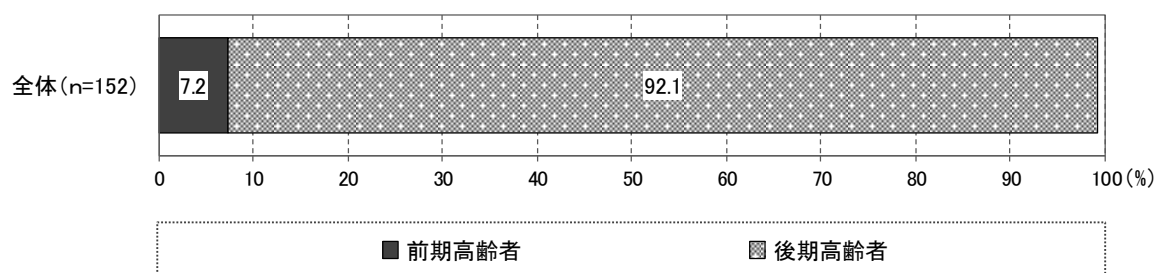
(1) 性別

性別は、「男性」が27.6%、「女性」が72.4%となっています。



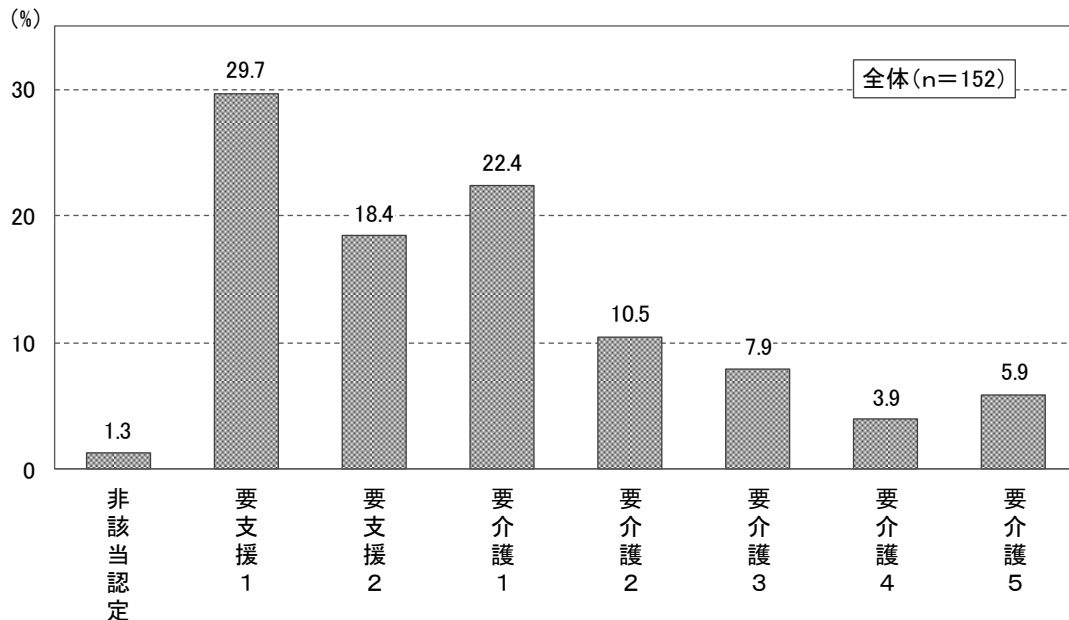
(2) 年齢

年齢は、「前期高齢者」が7.2%、「後期高齢者」が92.1%となっています。



(3) 要介護度（要介護状態等区分）

要介護度は、「要支援1」が29.7%と最も高く、次いで、「要介護1」（22.4%）、「要支援2」（18.4%）の順となっています。



※ 介護保険制度では、寝たきりや認知症等で常時介護を必要とする状態（要介護状態）になった場合や、家事や身支度等の日常生活に支援が必要になった状態（要支援状態）になった場合に、介護サービスを受けることができます。

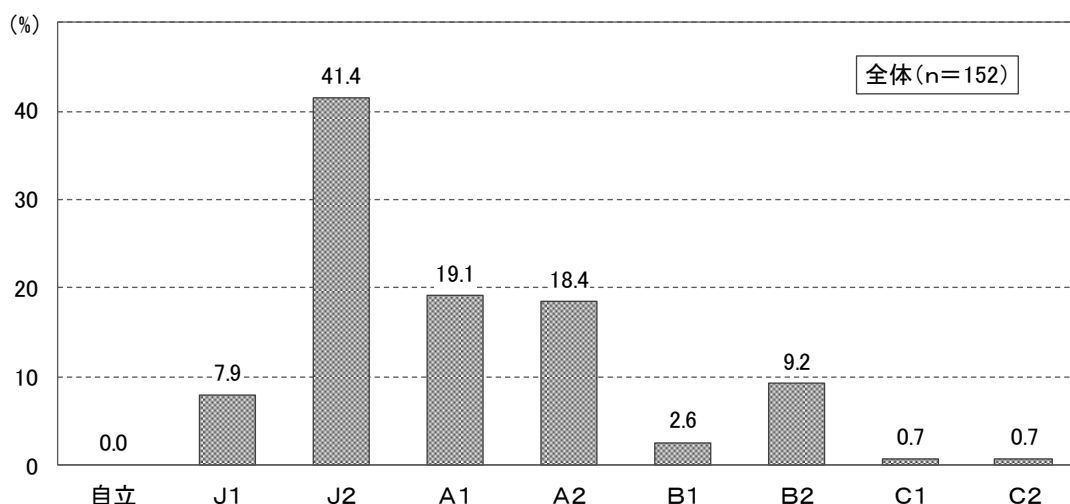
この判定を行うのが要介護認定であり、保険者である市町村に設置される介護認定審査会で要支援1・2、要介護1～5の7段階に判定されます。

【参考】

介護度	本人の状態
要支援1	日常生活上の基本的動作は自分で行うことが可能であるが、日常生活動作（ADL：着替え、移動、食事、トイレ、入浴等）の介助や現在の状態の防止により要介護状態となることの予防に資するよう手段的日常生活動作（IADL：買い物、家事、移動、外出、服薬の管理、金銭の管理等）について何らかの支援を要する状態。
要支援2	要支援1の状態から、手段的日常生活動作を行う能力がさらに低下し、部分的な介護が必要となる状態。
要介護1	要介護1の状態に加え、日常生活動作についても部分的な介護が必要となる状態。
要介護2	要介護2の状態と比較して、日常生活動作及び手段的日常生活動作の両方の観点からも著しく低下し、ほぼ全面的な介護が必要となる状態。
要介護3	要介護3の状態に加え、さらに動作能力が低下し、介護なしには日常生活を営むことが困難となる状態。
要介護4	要介護4の状態よりさらに動作能力が低下しており、介護なしには日常生活を営むことがほぼ不可能な状態。

(4) 障害高齢者の日常生活自立度

障害高齢者の日常生活自立度は、「J 2」が41.4%と最も高く、次いで、「A 1」(19.1%)、「A 2」(18.4%)の順となっています。

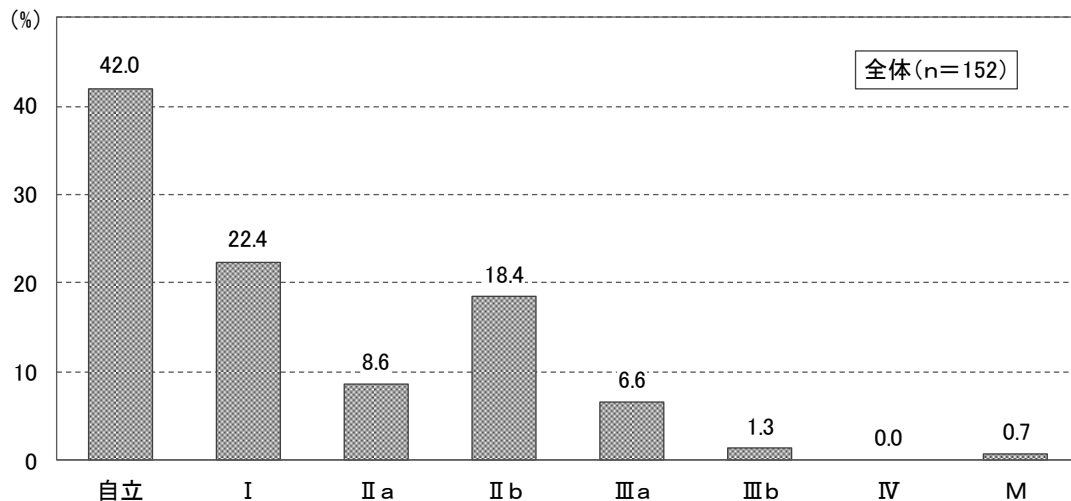


※ 障害高齢者の日常生活自立度（「寝たきり度」とも言われることがあります）とは、高齢者の日常生活自立度の程度を表すものです。ランクには、「J・A・B・C」の4段階があり、それぞれのランク内の状態によって、さらに1または2の2段階に区分しています。また、障害等を有していない方は「自立」となります。

ランク		判断基準
生活自立	J	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する 1. 交通機関等を利用して外出する 2. 隣近所へなら外出する
準寝たきり	A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない 1. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 2. 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
寝たきり	B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ 1. 車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う 2. 介助により車いすに移乗する
	C	一日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する 1. 自力で寝返りをうつ 2. 自力では寝返りもうてない

(5) 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症高齢者の日常生活自立度は、「自立」が42.0%と最も高く、次いで、「I」(22.4%)、「II b」(18.4%)の順となっています。



※ 「認知症高齢者の日常生活自立度」とは、認知症の方にかかる介護の度合いや大変さをランクで分類したものです。ランクには「I・II・III・IV・M」の5段階があります。また、認知症の症状が見られない方は「自立」となります。

ランク	判断基準
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している
II	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる a. 家庭外で上記の状態が見られる b. 家庭内でも上記の状態が見られる
III	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする a. 日中を中心として上記の状態が見られる b. 夜間を中心として上記の状態が見られる
IV	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする

A票 認定調査員が、概況調査票等と並行して記載する項目

問1 世帯類型について、ご回答ください。

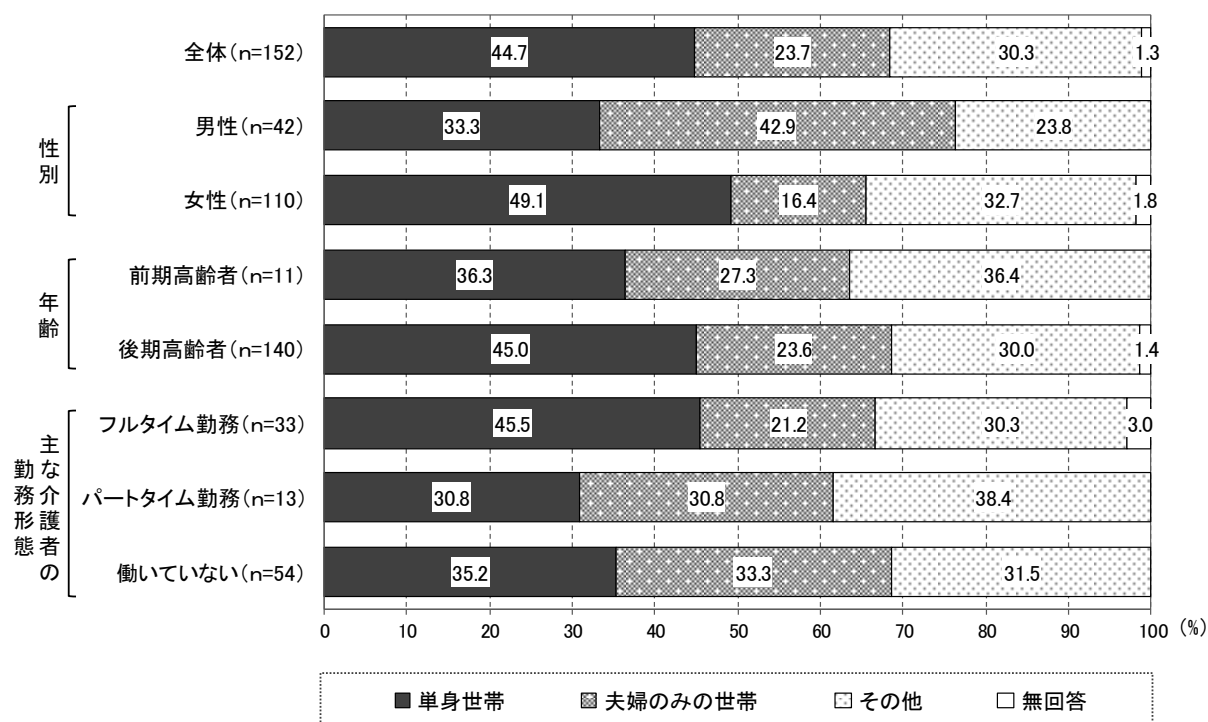
全体では、「単身世帯」が44.7%と最も高く、次いで、「その他」(30.3%)、「夫婦のみの世帯」(23.7%)の順となっています。

性別で見ると、「単身世帯」では、女性が49.1%と男性(33.3%)より高くなっています。

年齢層別で見ると、「単身世帯」では、後期高齢者が45.0%と前期高齢者(36.3%)より高くなっています。

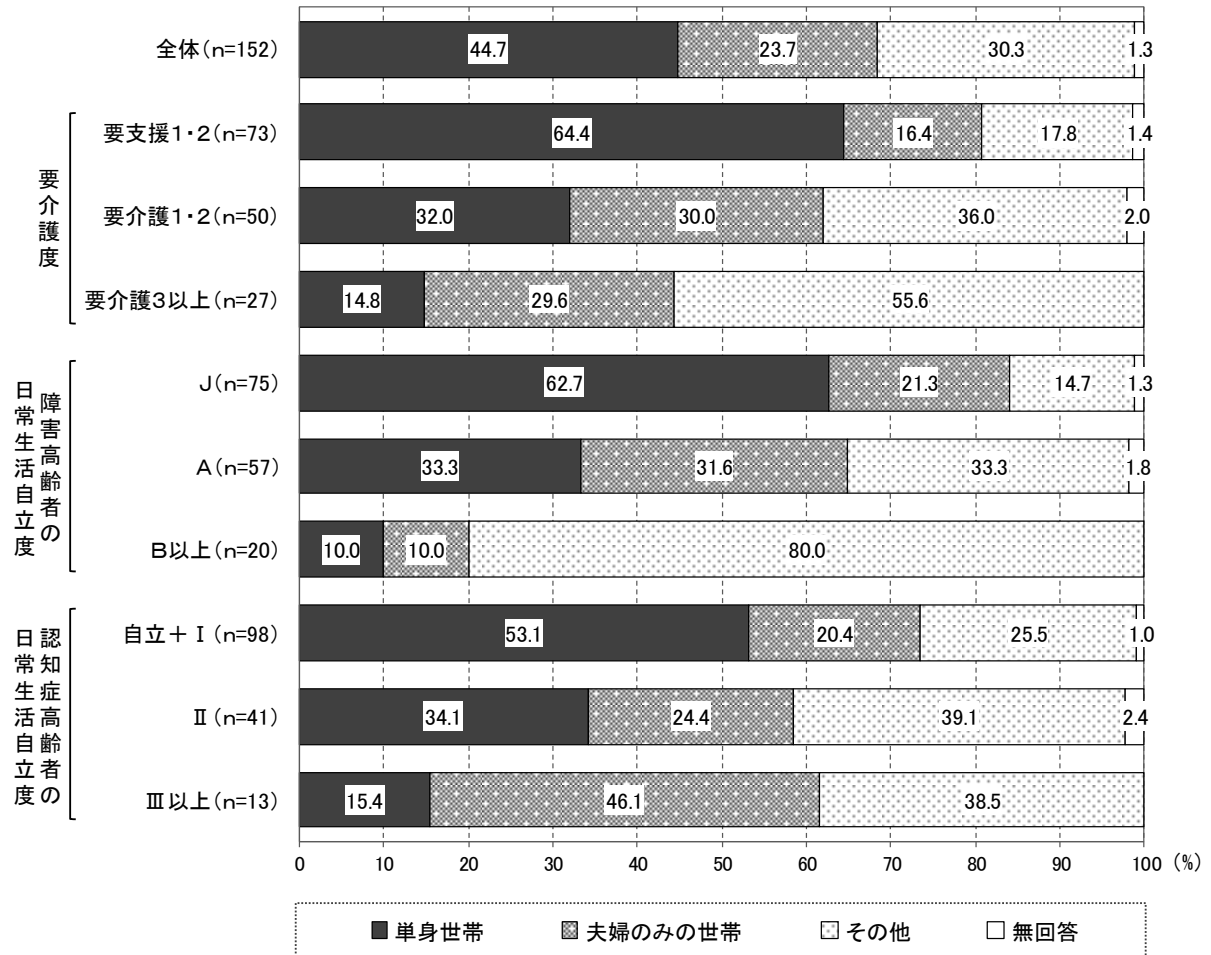
主な介護者の勤務形態別で見ると、フルタイム勤務で「単身世帯」の割合が高く、パートタイム勤務で「その他」の割合が高く、働いていないで「夫婦のみの世帯」の割合が高くなっています。

◆ A票・問1 (全体/性別/年齢/主な介護者の勤務形態) ◆



要介護度、障害高齢者の日常生活自立度、認知症高齢者の日常生活自立度のそれぞれを見ると、軽度から重度になるにつれて、「単身世帯」の割合が低くなっています。

◆ A票・問1（要介護度／障害高齢者の日常生活自立度／認知症高齢者の日常生活自立度）◆



問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか。

全体では、「ほぼ毎日ある」が51.9%と最も高く、次いで、「ない」(17.8%)、「週に1～2日ある」(13.2%)となっています。

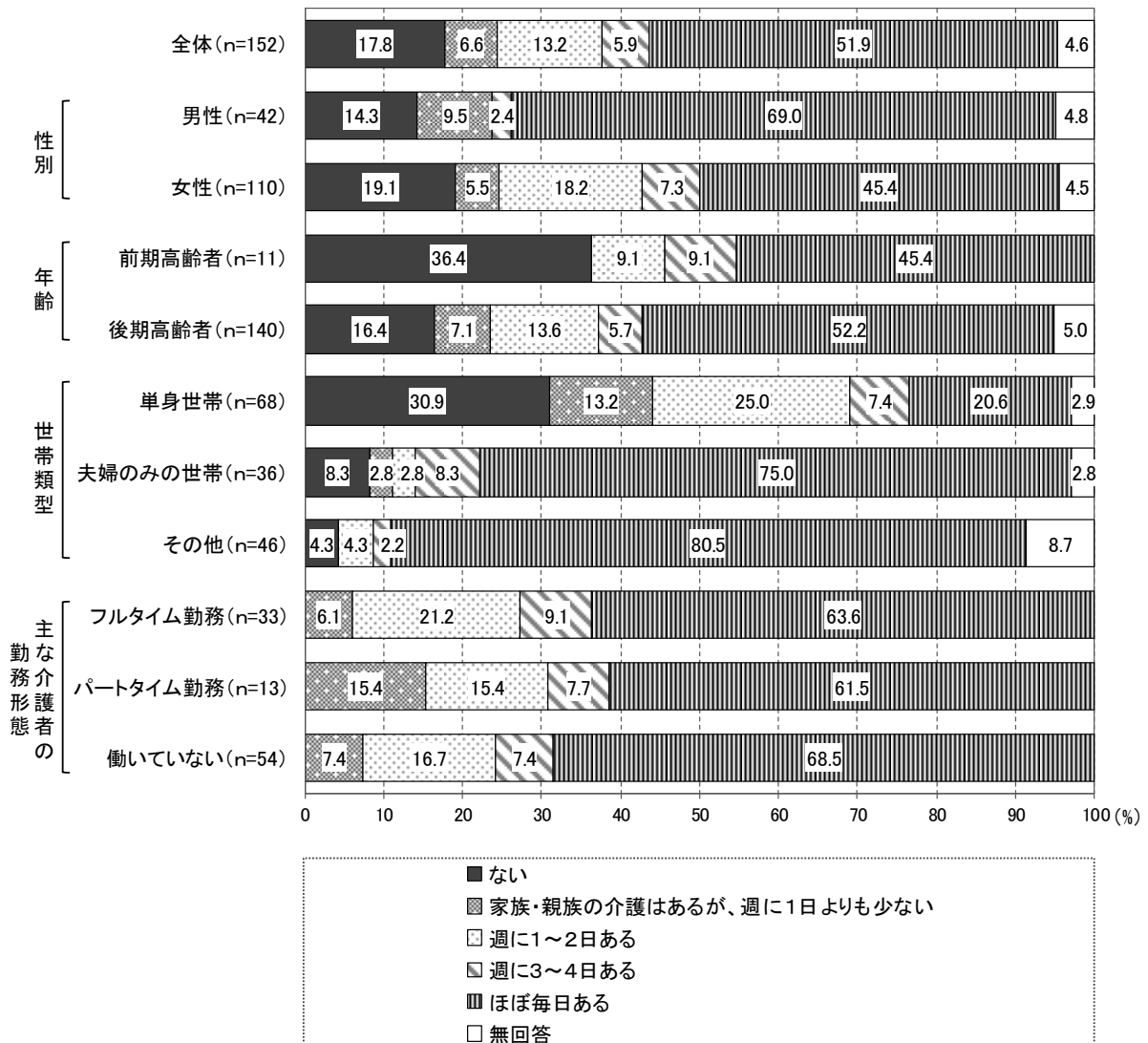
性別で見ると、「ほぼ毎日ある」では、男性が69.0%と女性(45.4%)より高くなっています。

年齢層別で見ると、「ほぼ毎日ある」では、後期高齢者が52.2%と前期高齢者(45.4%)より高くなっています。

世帯類型別で見ると、他の世帯類型と比べて、単身世帯で「ない」の割合が高くなっています。

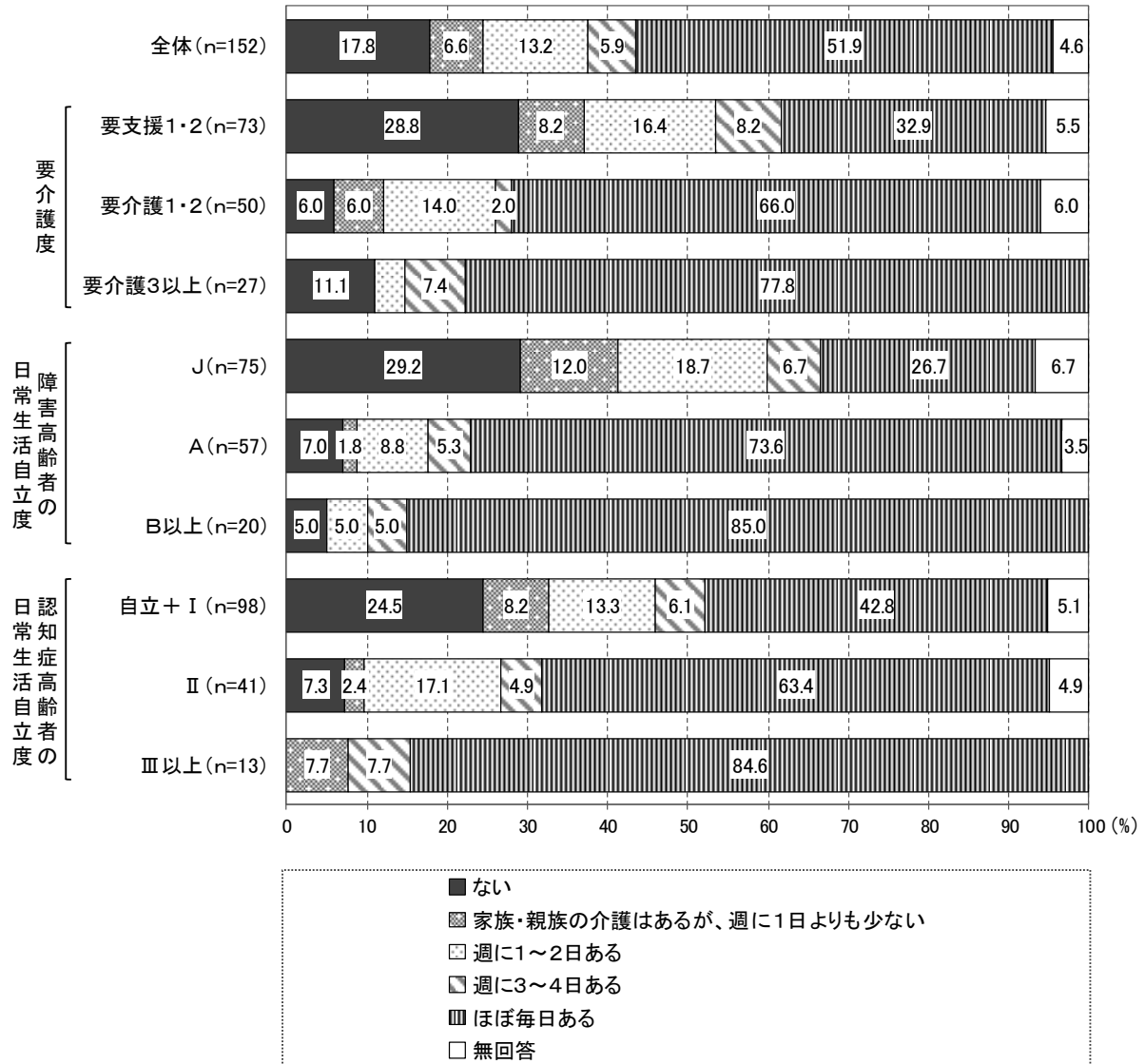
主な介護者の勤務形態別で見ると、他の勤務形態と比べて、パートタイム勤務で「ほぼ毎日ある」の割合が低く「家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない」の割合が高くなっています。

◆ A票・問2 (全体／性別／年齢／世帯類型／主な介護者の勤務形態) ◆



要介護度、障害高齢者の日常生活自立度、認知症高齢者の日常生活自立度のそれぞれを見ると、軽度から重度になるにつれて、「ほぼ毎日ある」の割合が高くなっています。

◆ A票・問2（要介護度／障害高齢者の日常生活自立度／認知症高齢者の日常生活自立度） ◆



【問2において「1. ない」以外の方のみ】

問3 主な介護者の方は、どなたですか。

全体では、「子」が55.1%と最も高く、次いで、「配偶者」(26.3%)、「その他」(8.5%)となっています。

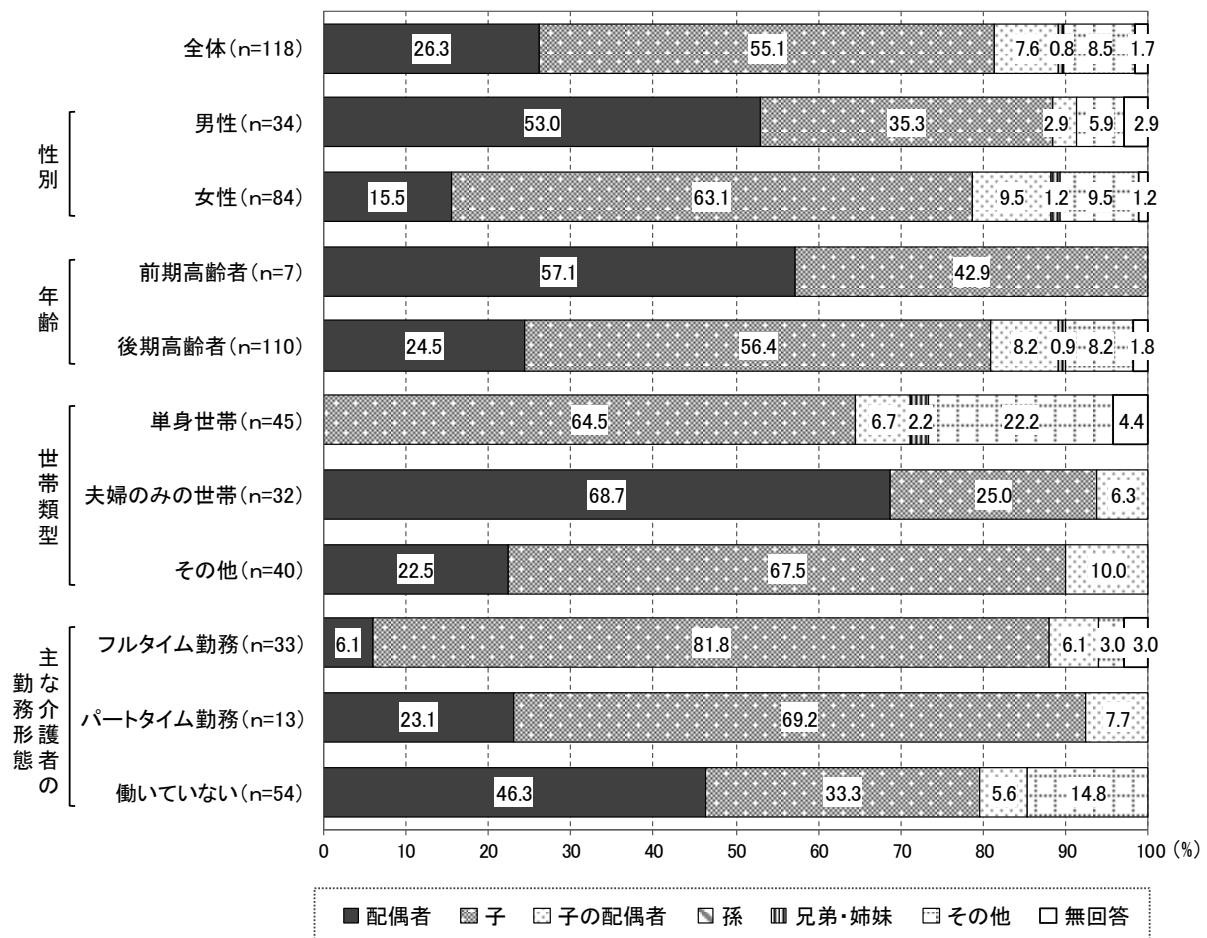
性別で見ると、「配偶者」では、男性が53.0%と女性(15.5%)より高く、「子」では、女性が63.1%と男性(35.3%)より高くなっています。

年齢層別で見ると、「配偶者」では、前期高齢者が57.1%と後期高齢者(24.5%)より高く、「子」では、後期高齢者が56.4%と前期高齢者(42.9%)より高くなっています。

世帯類型別で見ると、他の世帯類型と比べて、単身世帯で「その他」の割合が高く、夫婦のみの世帯で「配偶者」の割合が高くなっています。

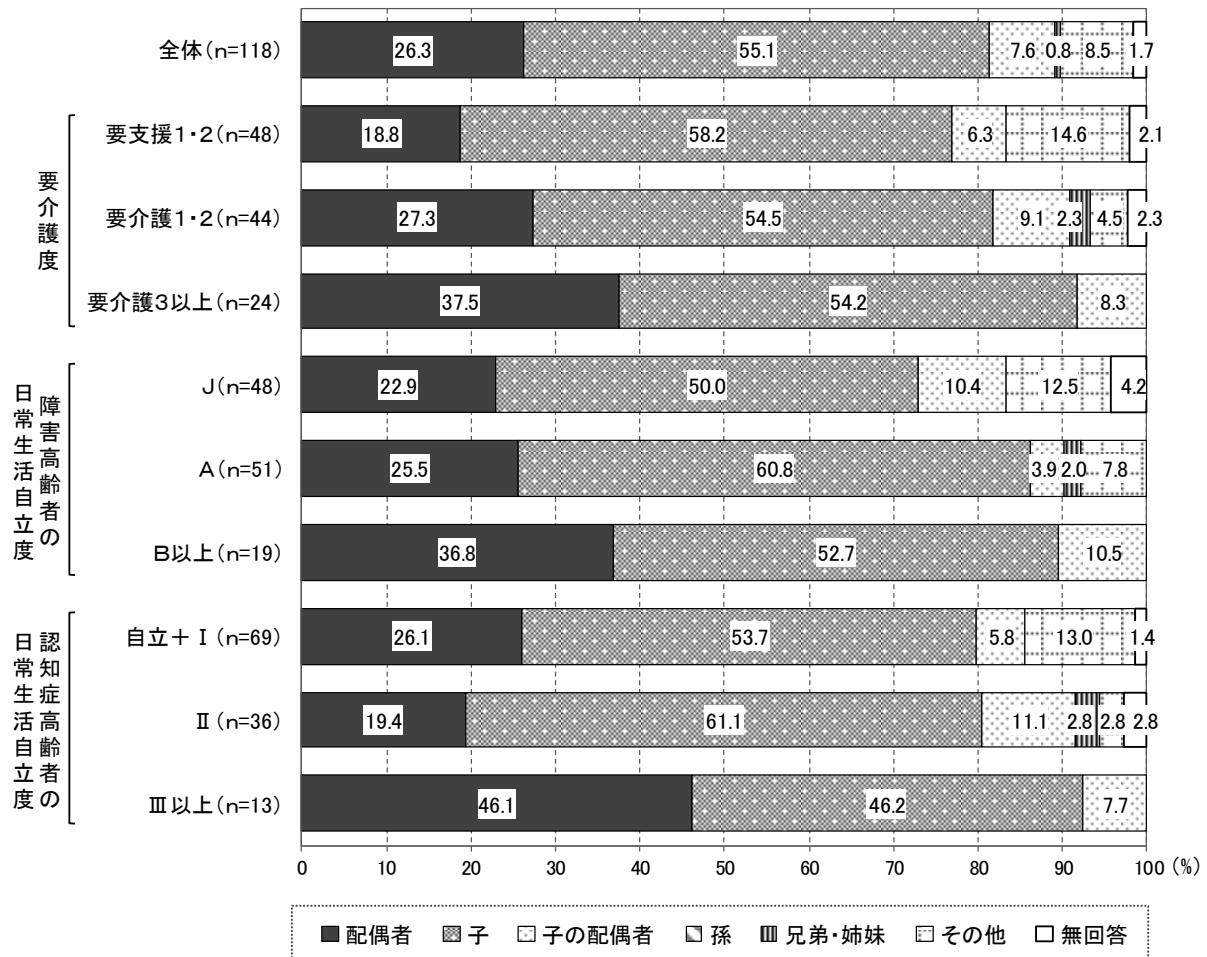
主な介護者の勤務形態別で見ると、フルタイム勤務→パートタイム勤務→働いていないとなるにつれて、「配偶者」の割合が高く「子」の割合が低くなっています。

◆ A票・問3 (全体/性別/年齢/世帯類型/主な介護者の勤務形態) ◆



要介護度、障害高齢者の日常生活自立度、認知症高齢者の日常生活自立度のそれぞれを見ると、軽度から重度になるにつれて、「配偶者」の割合が高く「その他」の割合が低くなる傾向にあります。

◆ A票・問3（要介護度／障害高齢者の日常生活自立度／認知症高齢者の日常生活自立度）◆



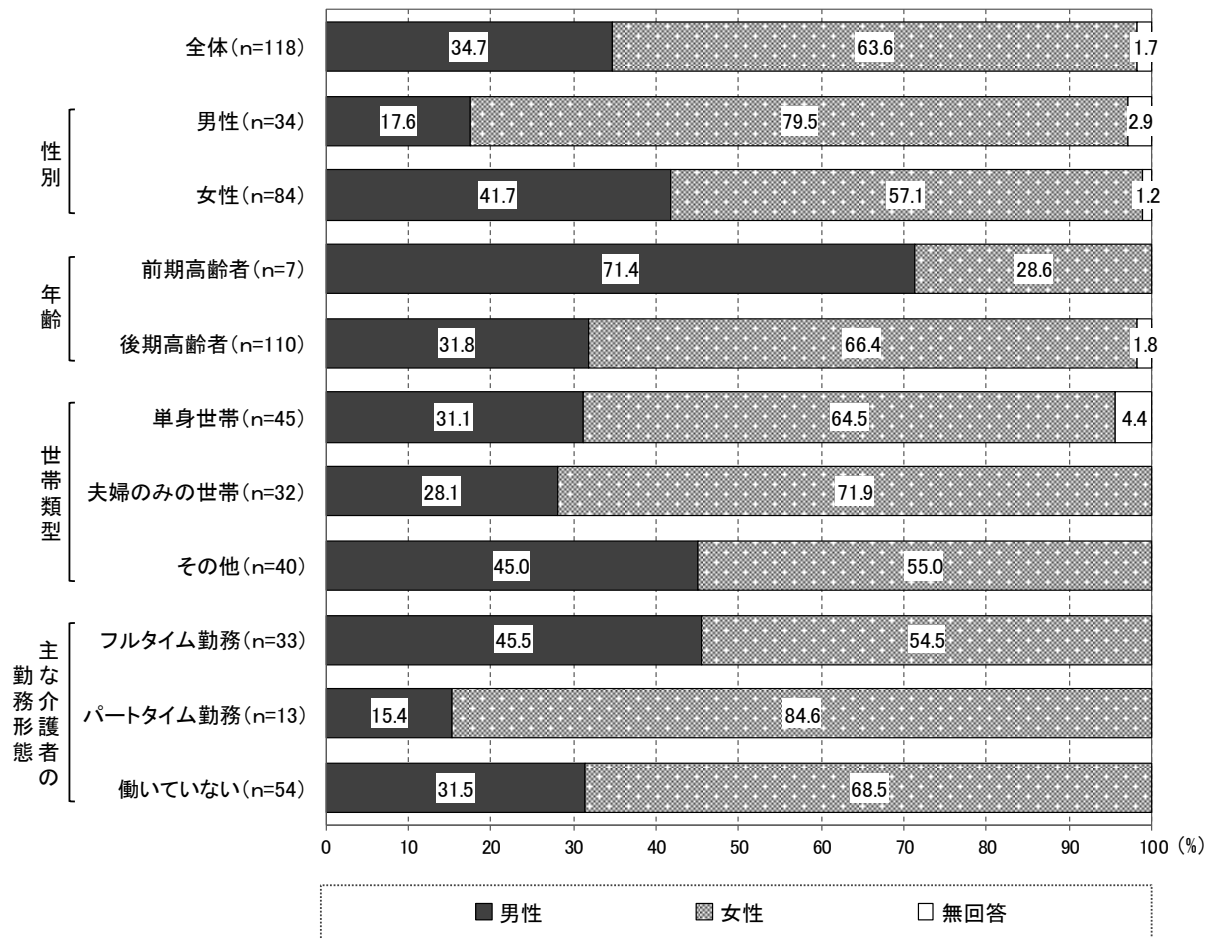
【問2において「1. ない」以外の方のみ】

問4 主な介護者の方の性別について、ご回答ください。

全体では、「女性」が63.6%と高く、男性が34.7%となっています。

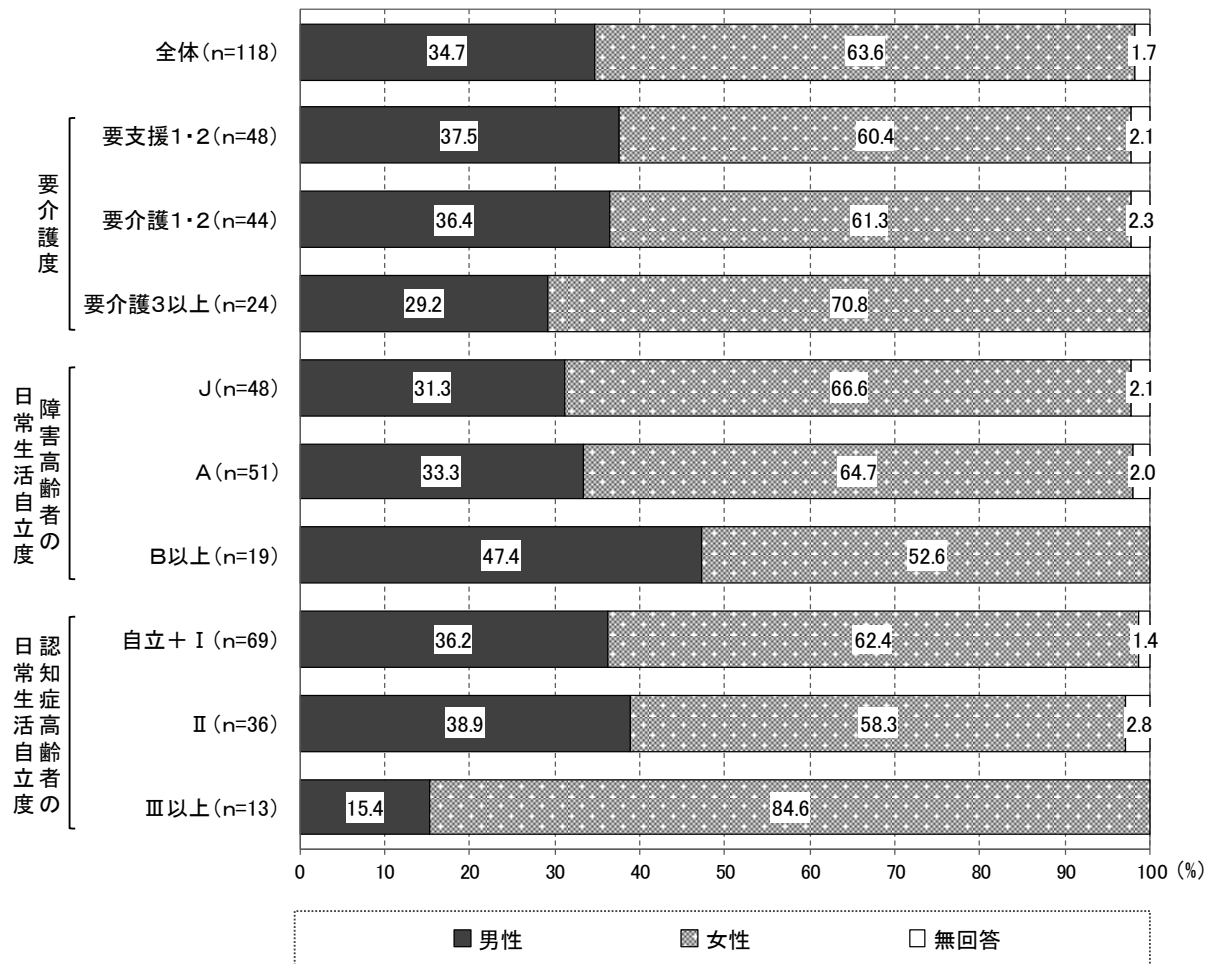
性別、年齢層、世帯類型、主な介護者の勤務形態のそれぞれの結果を見ると、年齢別の前期高齢者以外は女性の方が男性より高くなっています。

◆ A票・問4（全体／性別／年齢／世帯類型／主な介護者の勤務形態）◆



要介護度、障害高齢者の日常生活自立度、認知症高齢者の日常生活自立度のそれぞれの結果からは、障害高齢者の日常生活自立度（B以上）で男性の割合が高く、認知症高齢者の日常生活自立度（Ⅲ以上）で男性の割合が低くなっている以外は、特段の傾向を見つけることはできません。

◆ A票・問4（要介護度／障害高齢者の日常生活自立度／認知症高齢者の日常生活自立度）◆



【問2において「1. ない」以外の方のみ】

問5 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。

全体では、「60代」が29.6%と最も高く、次いで、「50代」(28.0%)、「80歳以上」(15.3%)となっています。

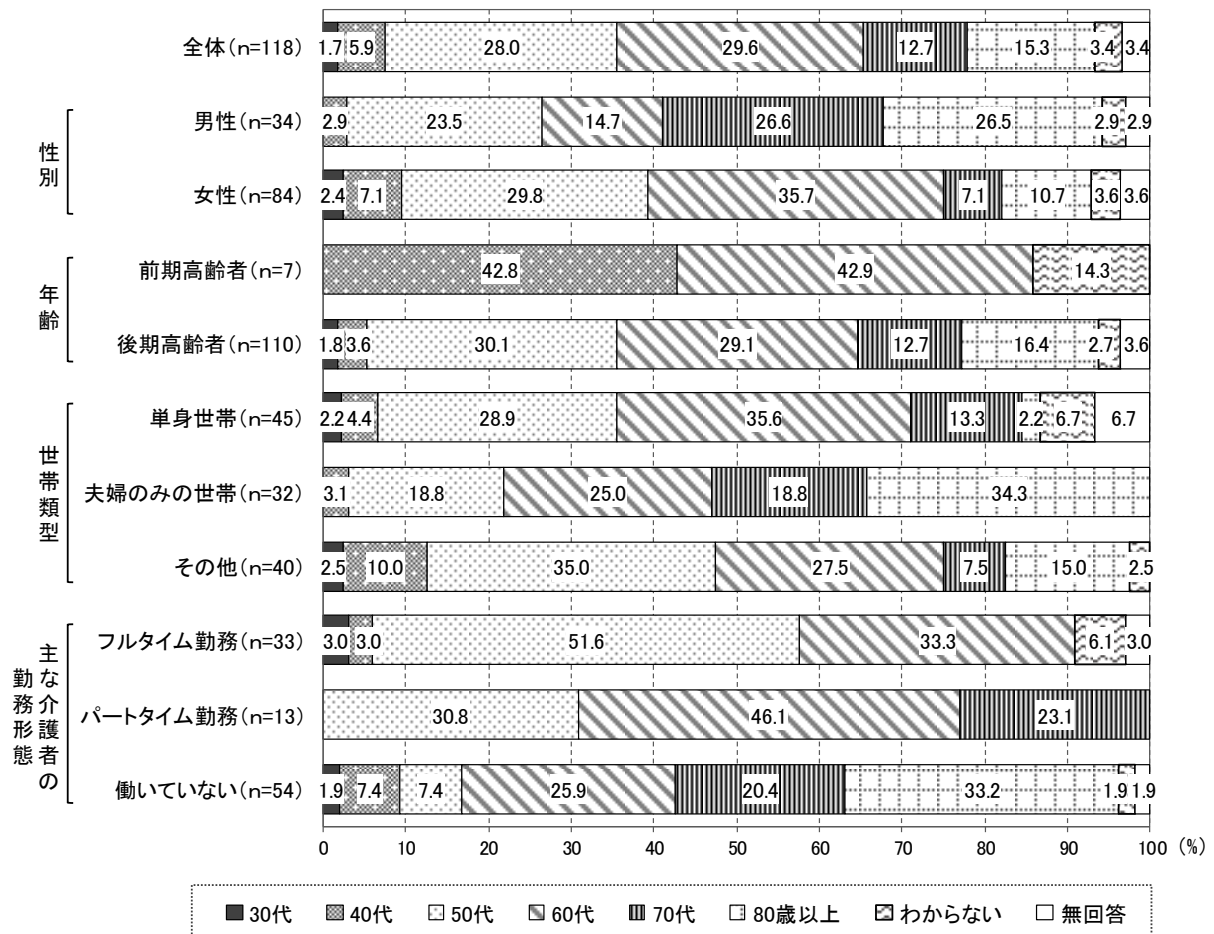
性別で見ると、主な介護者が「70代」と「80歳以上」を合わせた“70歳以上”では、男性が53.1%と女性(17.8%)より高くなっています。

年齢層別で見ると、主な介護者が「30代」～「60代」を合わせた“70歳未満”では、前期高齢者が85.7%と後期高齢者(64.6%)より高くなっています。

世帯類型別で見ると、他の世帯類型と比べて、夫婦のみの世帯で、主な介護者が“70歳以上”の割合が高くなっています。

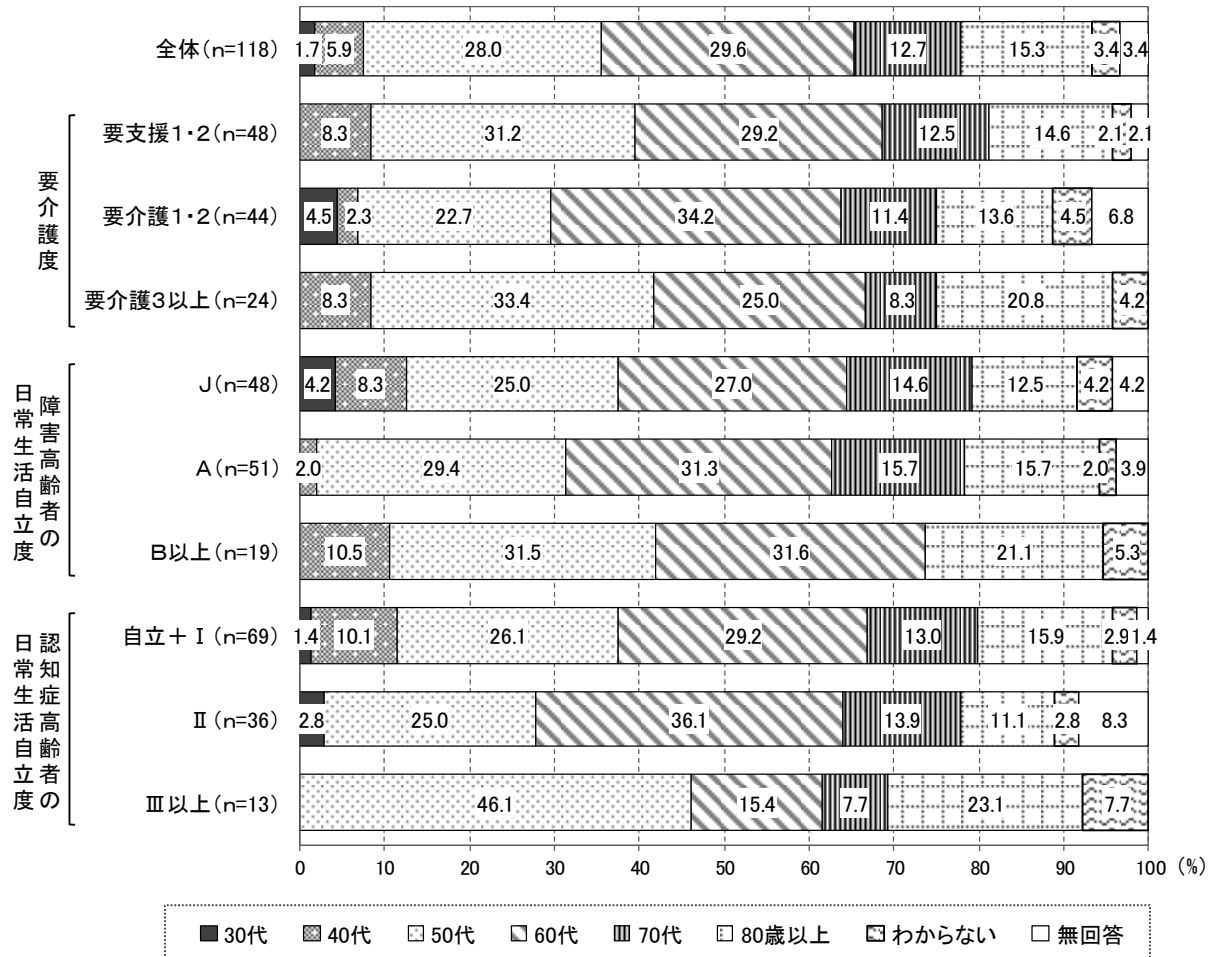
主な介護者の勤務形態別で見ると、他の勤務形態と比べて、働いていない方で、主な介護者が“70歳以上”の割合が高くなっています。

◆ A票・問5 (全体／性別／年齢／世帯類型／主な介護者の勤務形態) ◆



要介護度、障害高齢者の日常生活自立度、認知症高齢者の日常生活自立度のそれぞれの結果からは、特段の傾向を見つけることはできません。

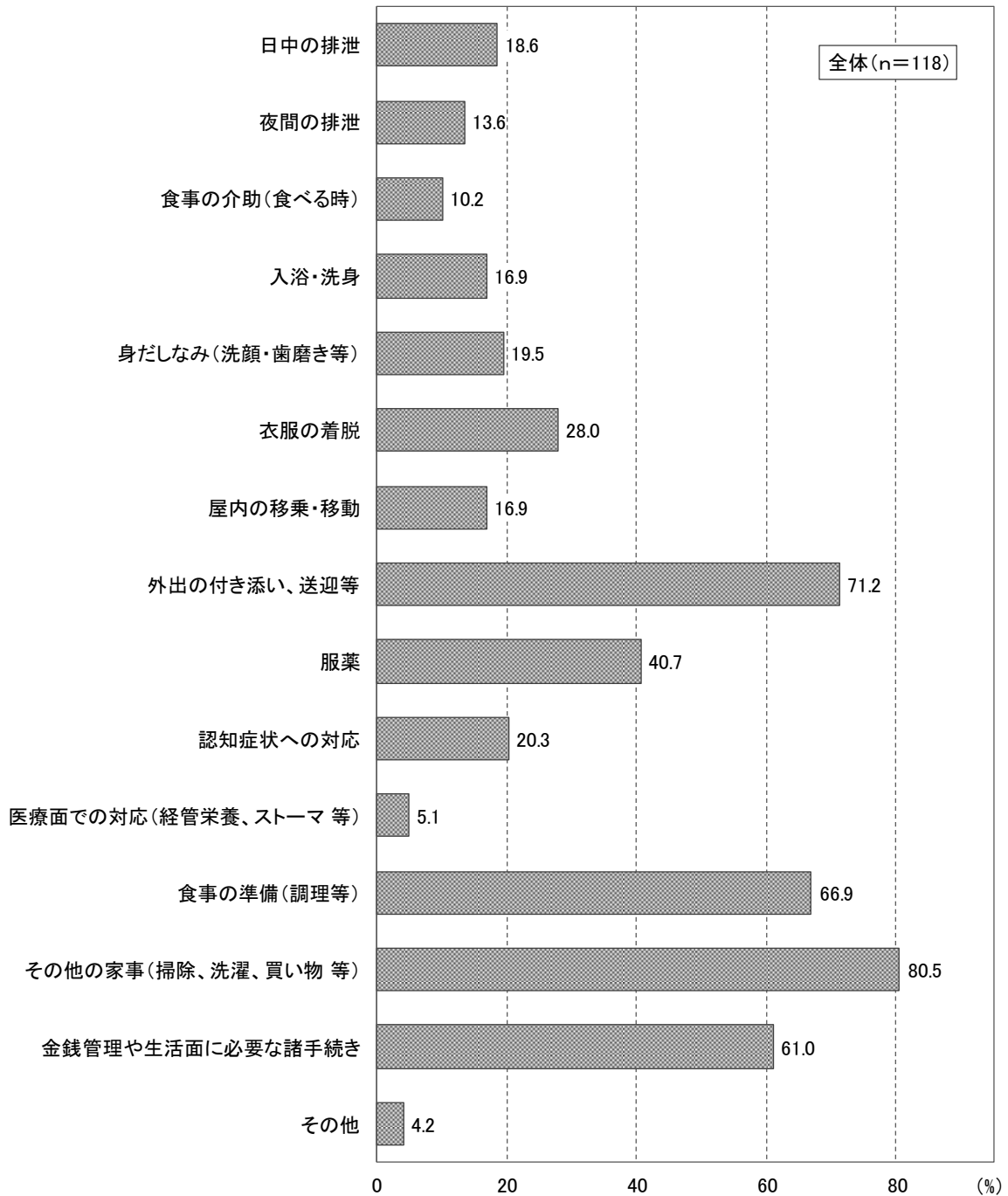
◆ A票・問5（要介護度／障害高齢者の日常生活自立度／認知症高齢者の日常生活自立度）◆



【問2において「1. ない」以外の方のみ】

問6 主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください。【MA】

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が80.5%と最も高く、次いで、「外出の付き添い、送迎等」（71.2%）、「食事の準備（調理等）」（66.9%）の順となっています。

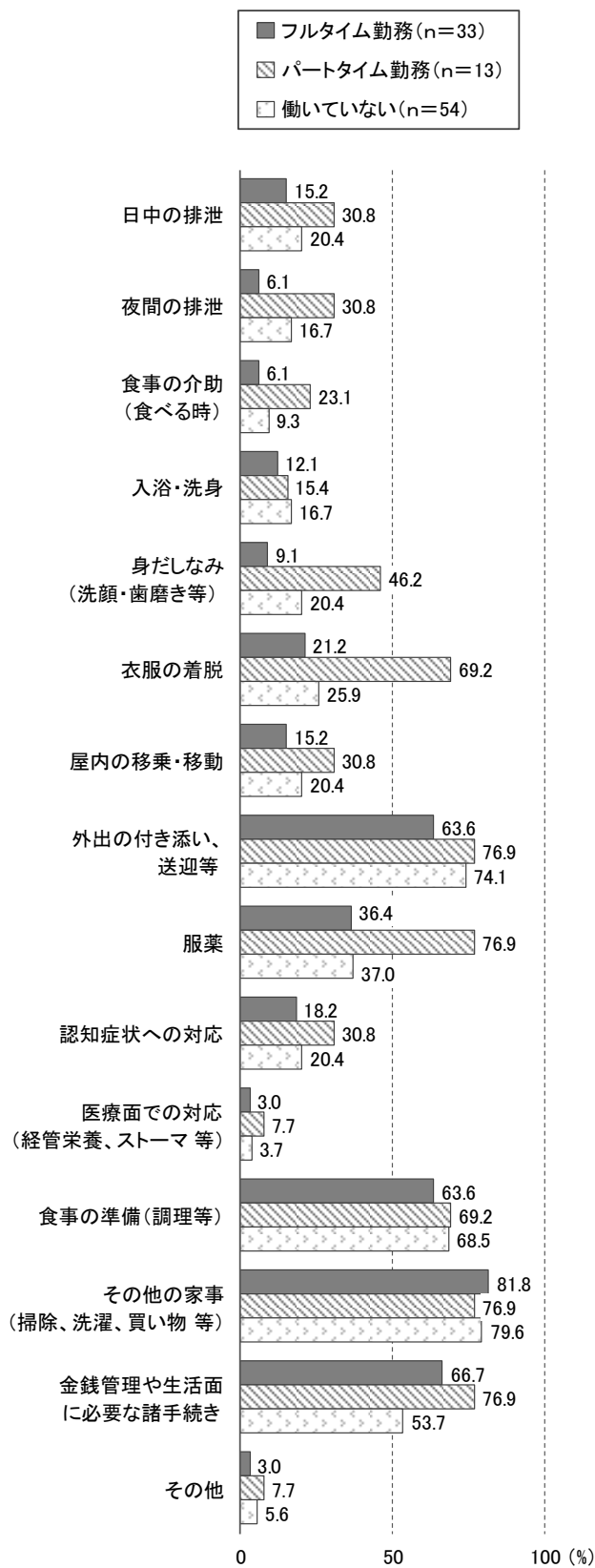


その他意見

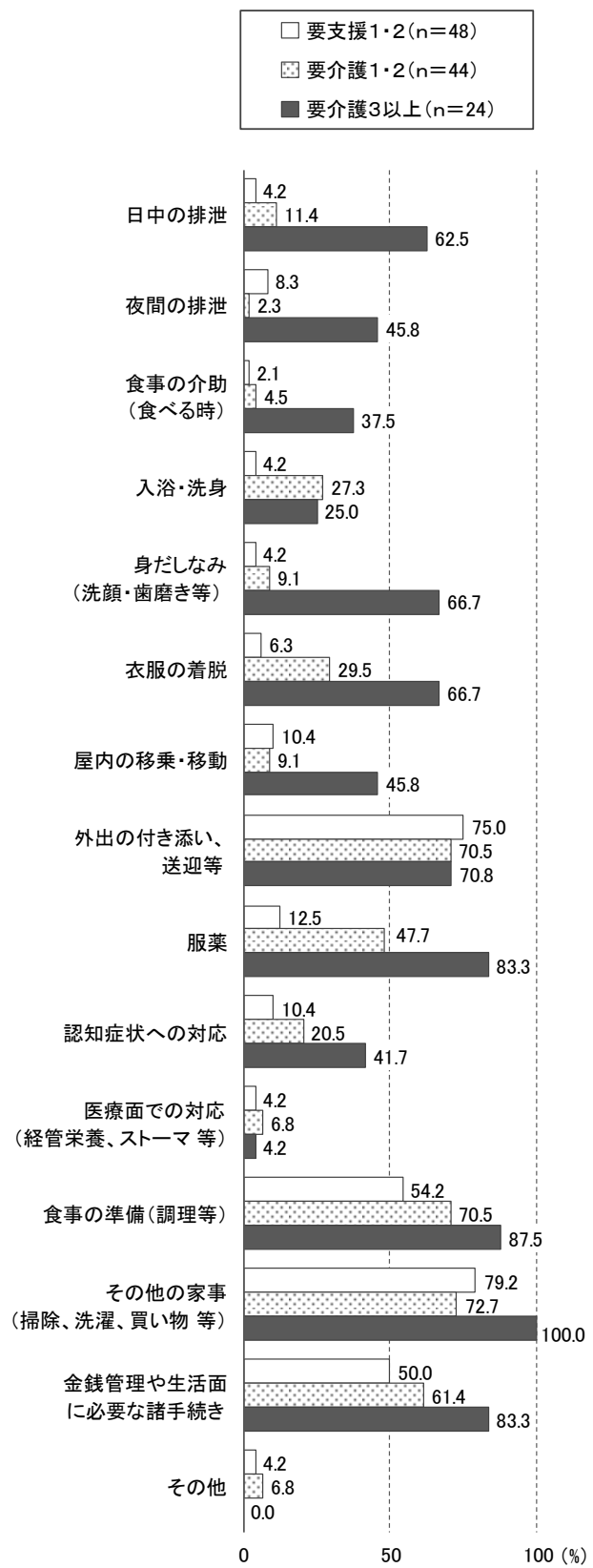
電話の確認。車いすの介助。見守り。

A票・問6の参考クロス

《主な介護者の勤務形態 × A票・問6》

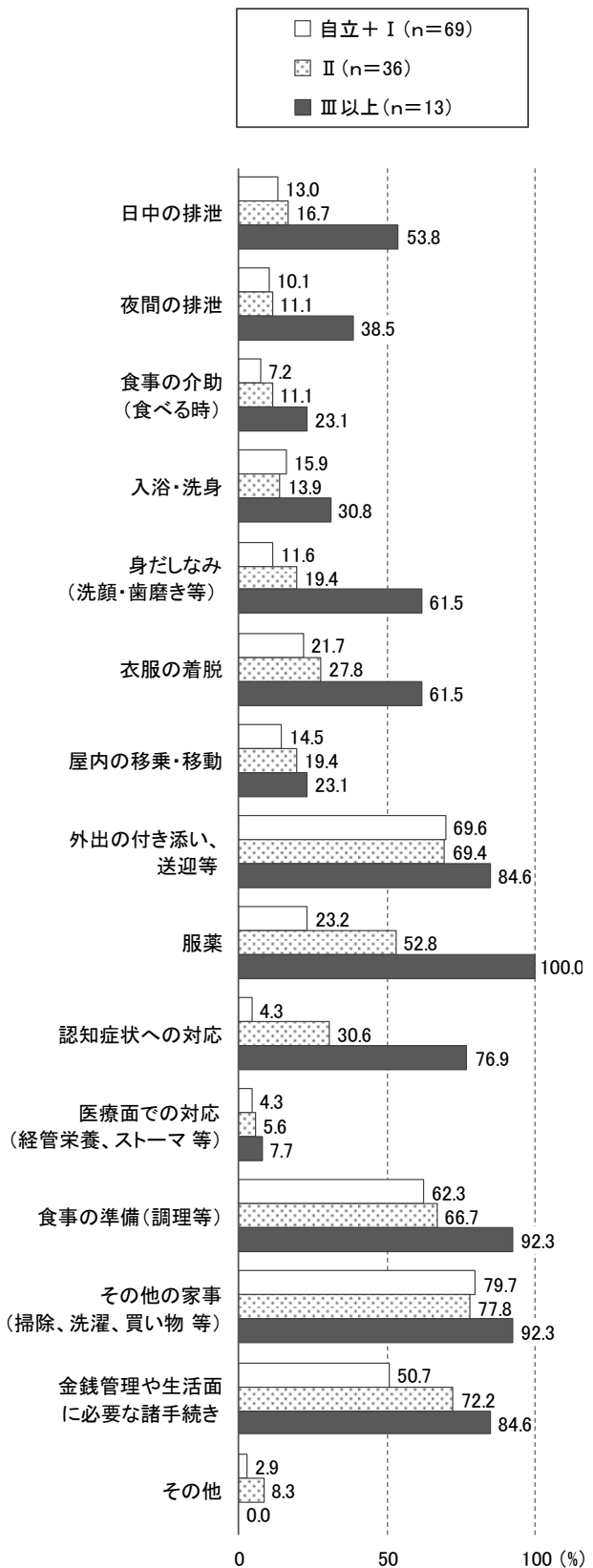
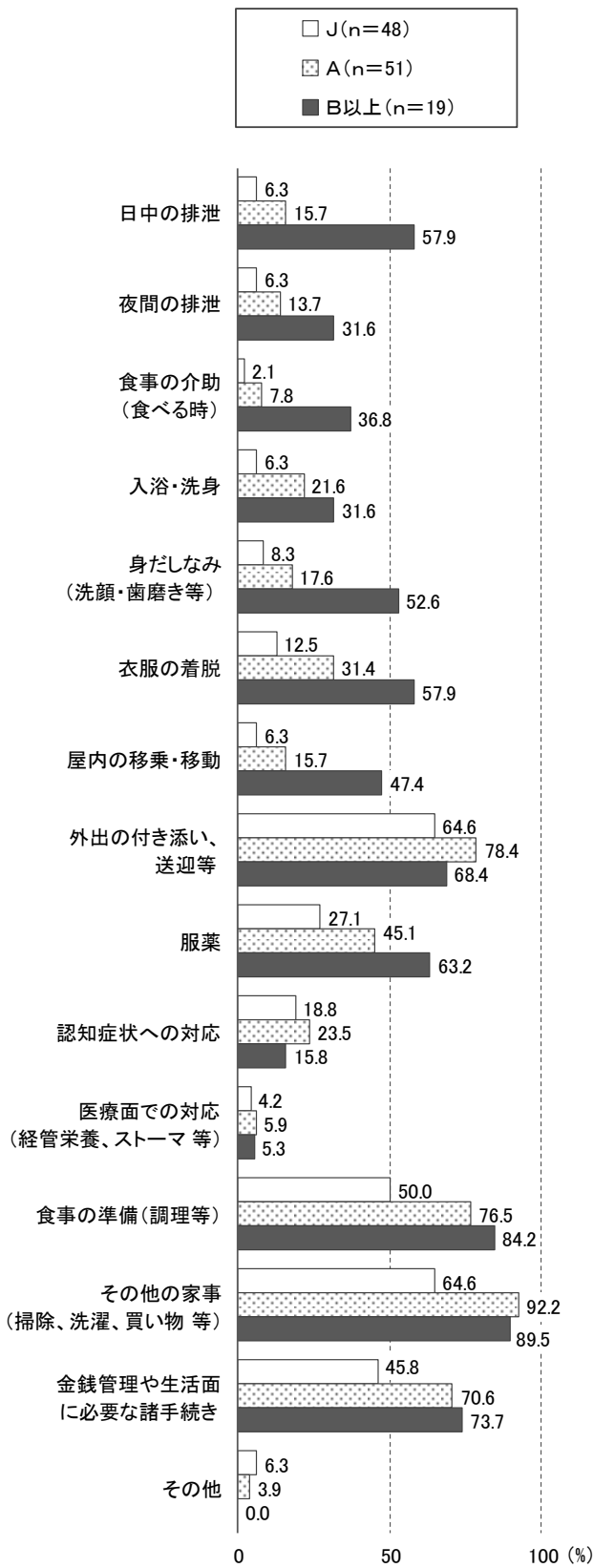


《要介護度 × A票・問6》



《障害高齢者の日常生活自立度×A票・問6》

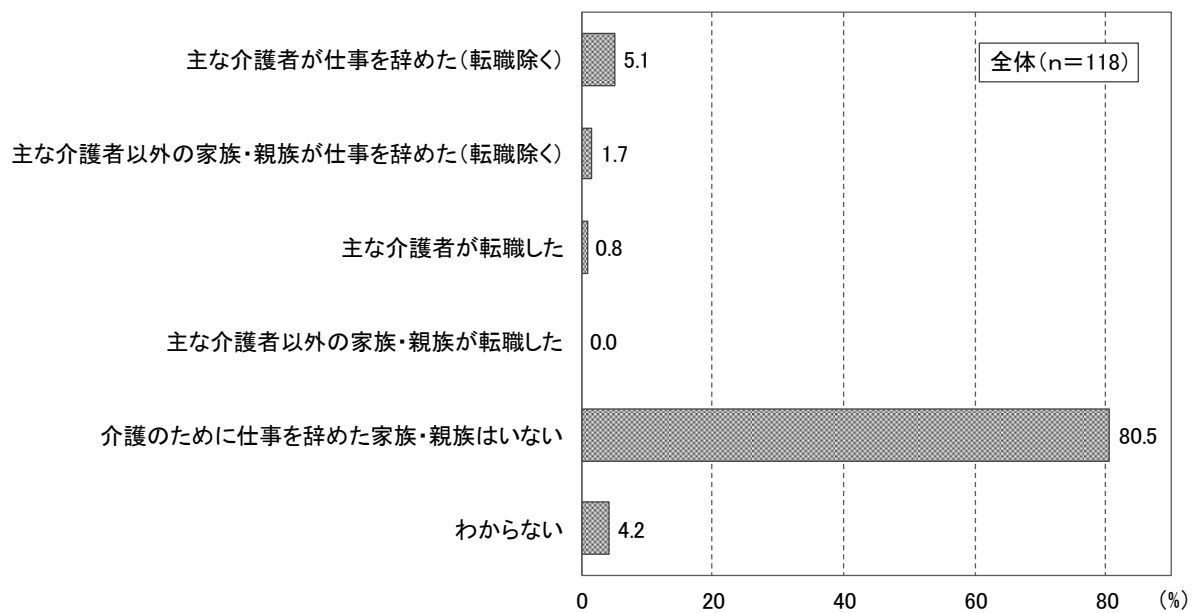
《認知症高齢者の日常生活自立度×A票・問6》



【問2において「1. ない」以外の方のみ】

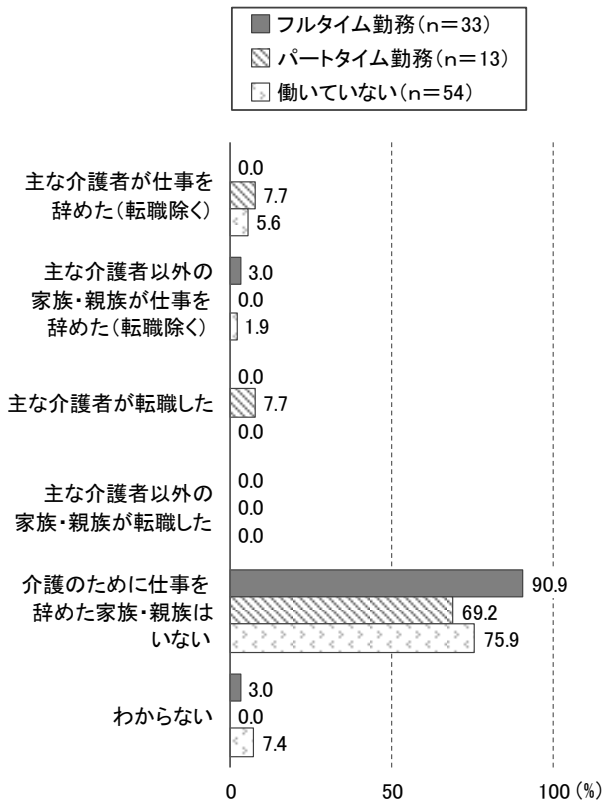
問7 ご家族やご親族の中で、ご本人の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか。【MA】

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が80.5%と最も高く、次いで、「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」(5.1%)、「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた(転職除く)」(1.7%)の順となっています。

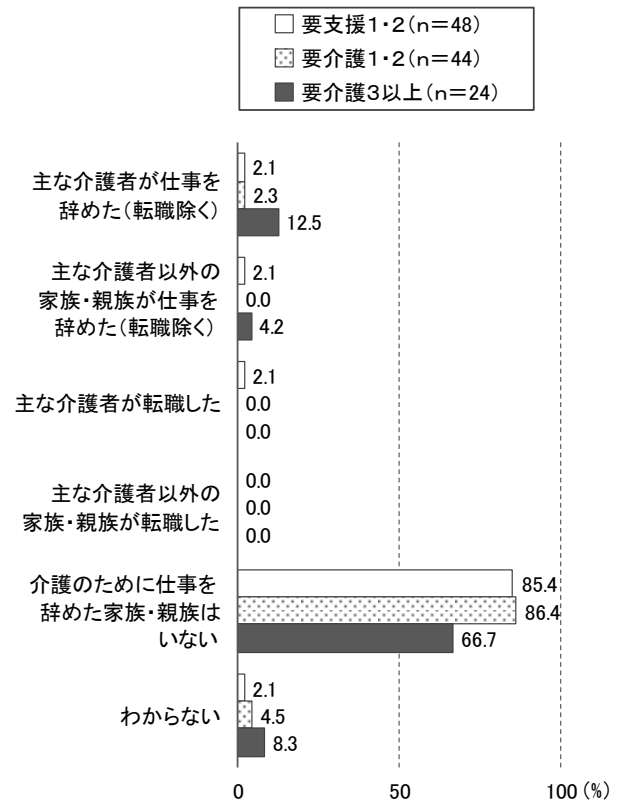


A票・問7の参考クロス

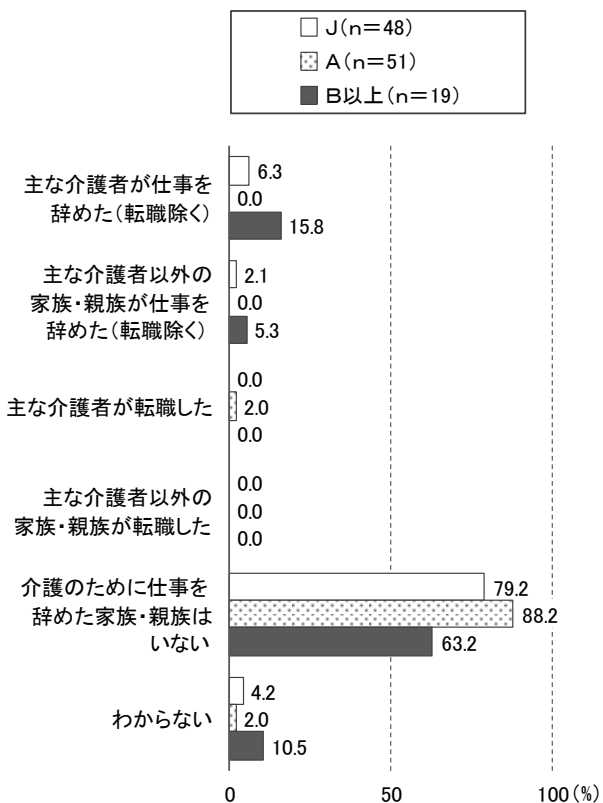
《主な介護者の勤務形態 × A票・問7》



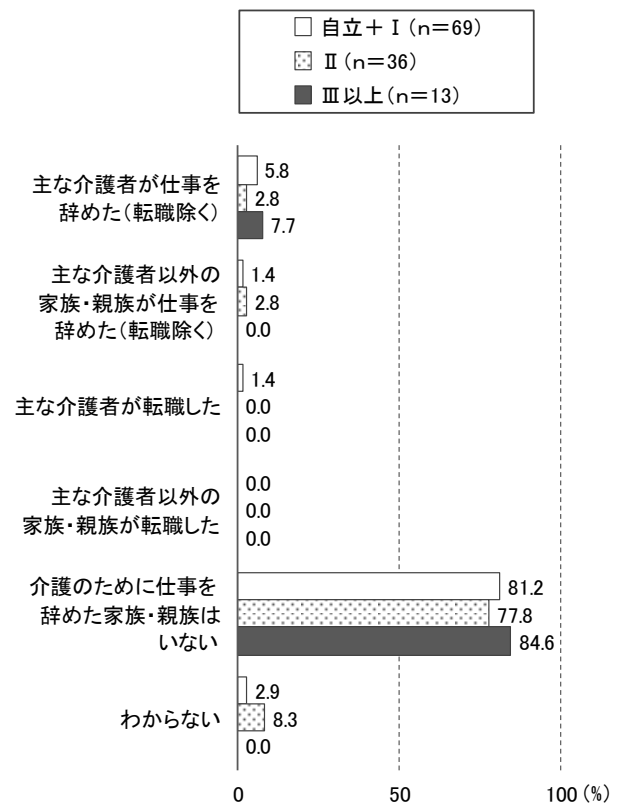
《要介護度 × A票・問7》



《障害高齢者の日常生活自立度 × A票・問7》

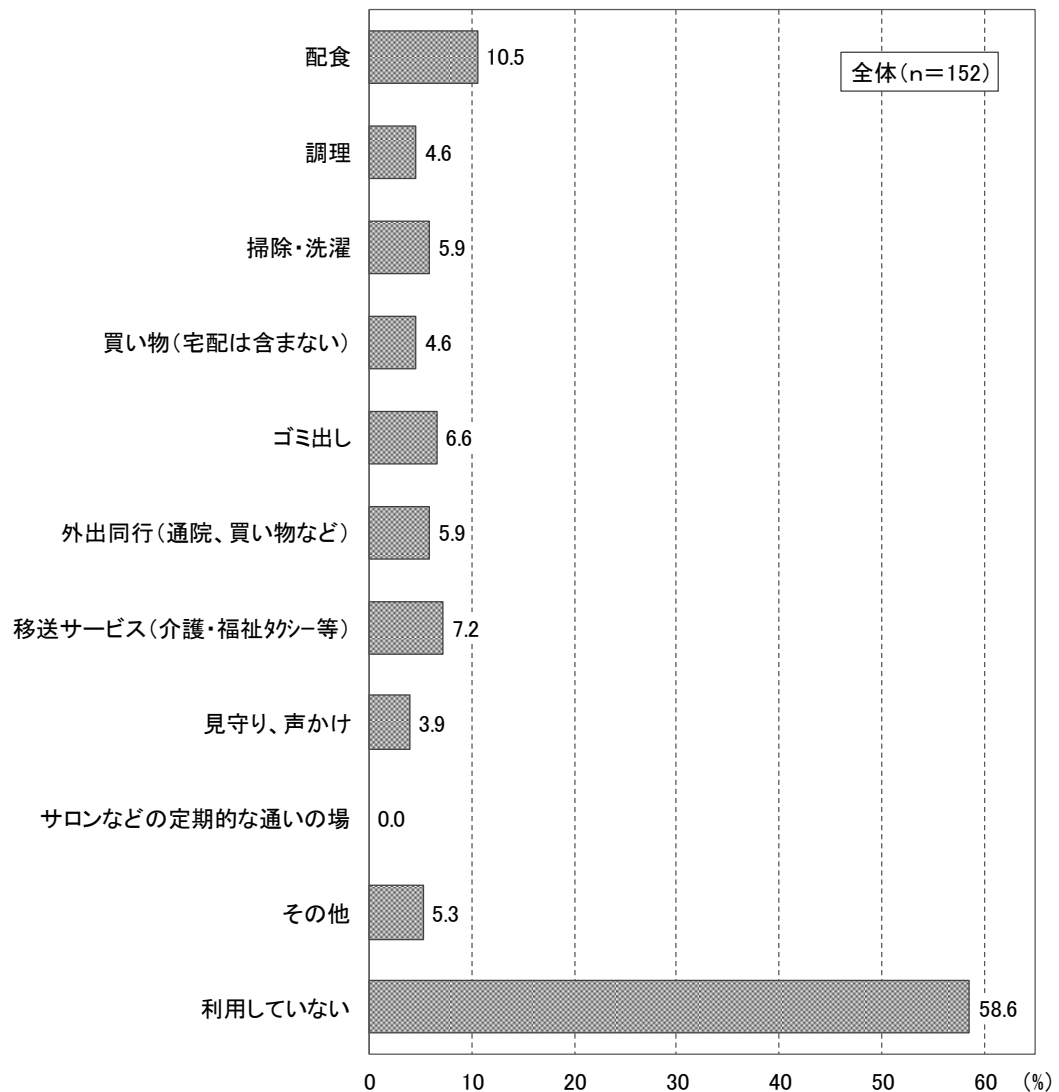


《認知症高齢者の日常生活自立度 × A票・問7》



**問8 現在利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、
ご回答ください【MA】**

「利用していない」が58.6%となっていますが、利用している方で見ると、「配食」が10.5%と最も高く、次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（7.2%）、「ゴミ出し」（6.6%）の順となっています。

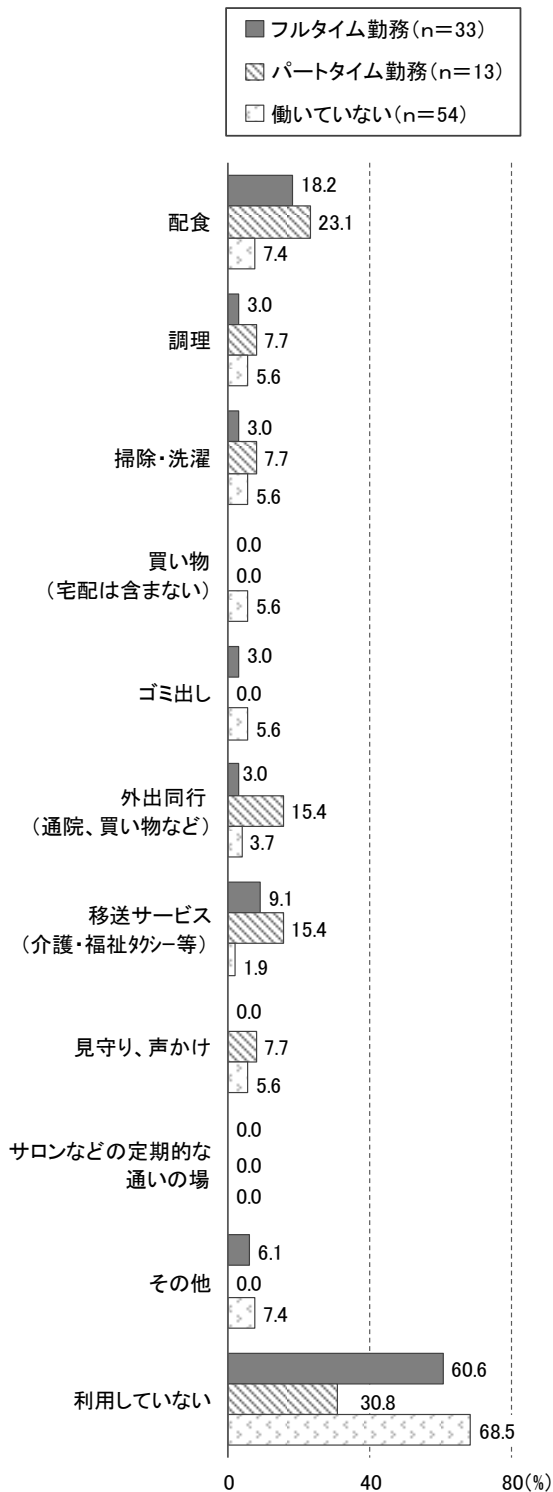


その他意見

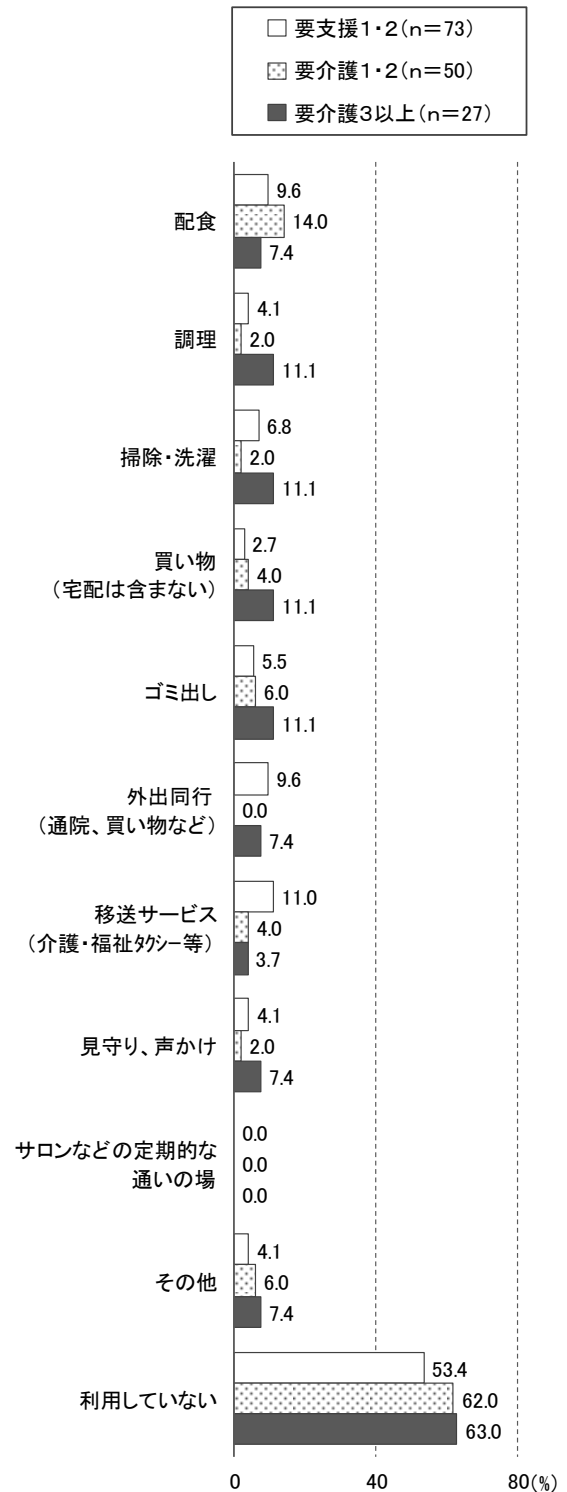
ベッドレンタル。車いすの貸出。訪問看護。ショートステイ。デイサービス。

A票・問8の参考クロス

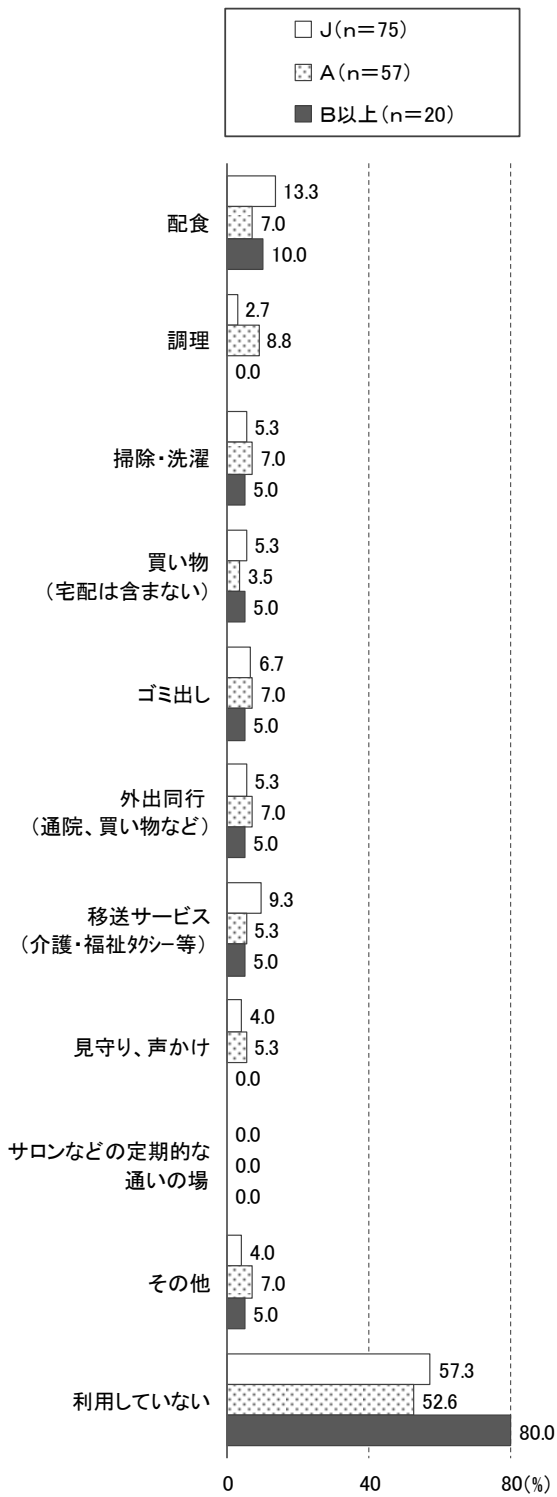
《主な介護者の勤務形態×A票・問8》



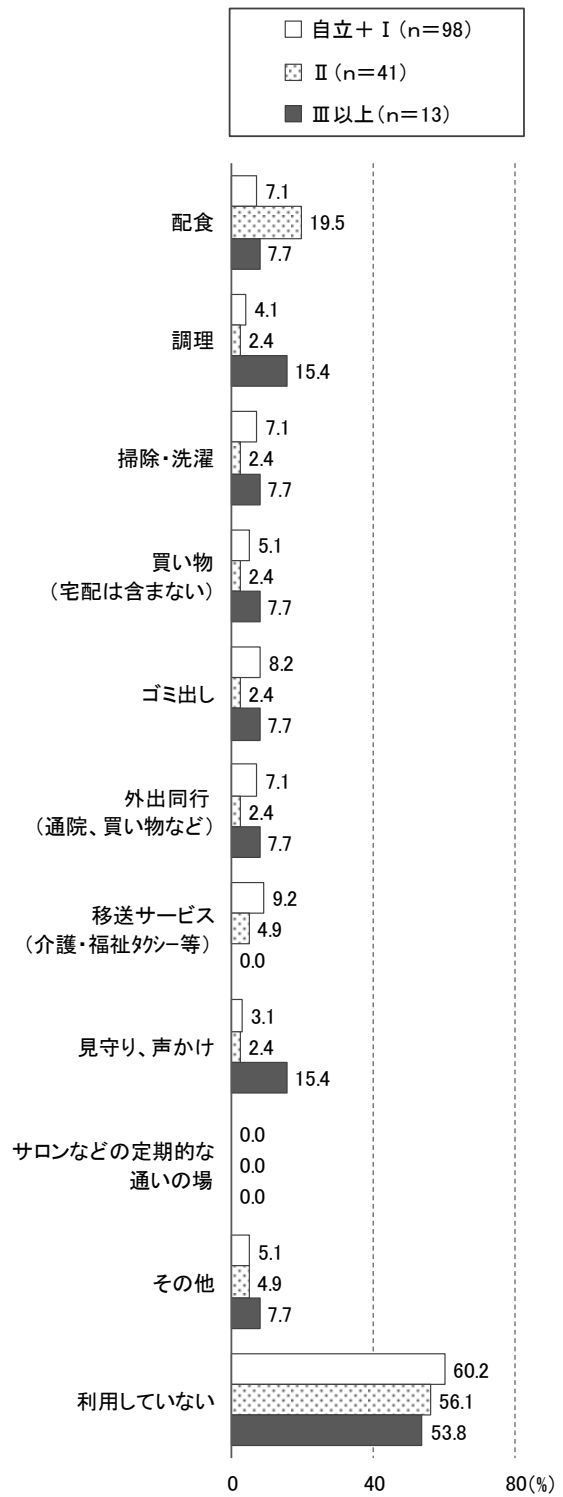
《要介護度×A票・問8》



《障害高齢者の日常生活自立度×A票・問8》

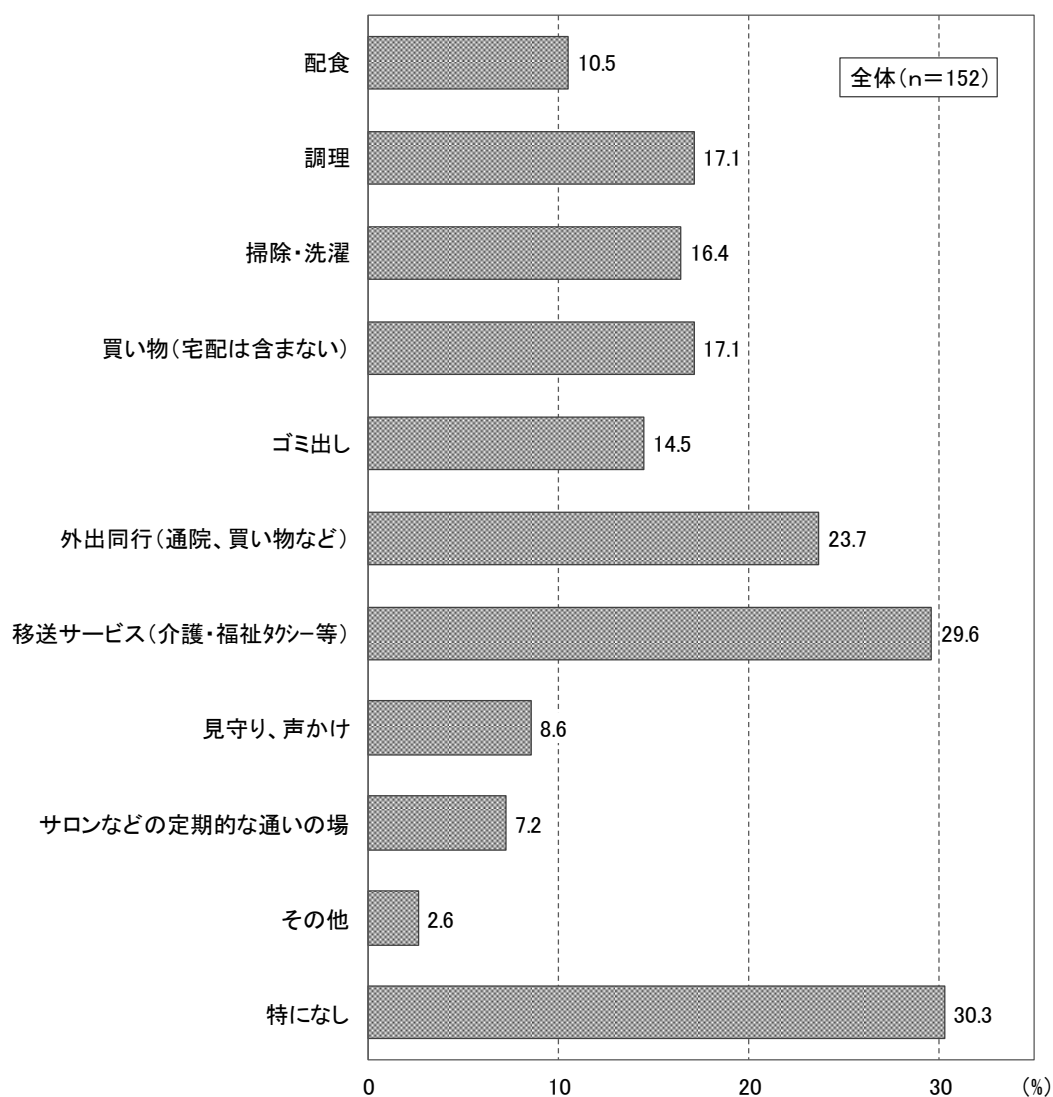


《認知症高齢者の日常生活自立度×A票・問8》



問9 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください。【MA】

「特になし」が30.3%となっていますが、必要と感じる支援・サービスで見ると、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が29.6%と最も高く、次いで、「外出同行（通院・買い物など）」（23.7%）、「調理」・「買い物（宅配は含まない）」（17.1%で同率）の順となっています。

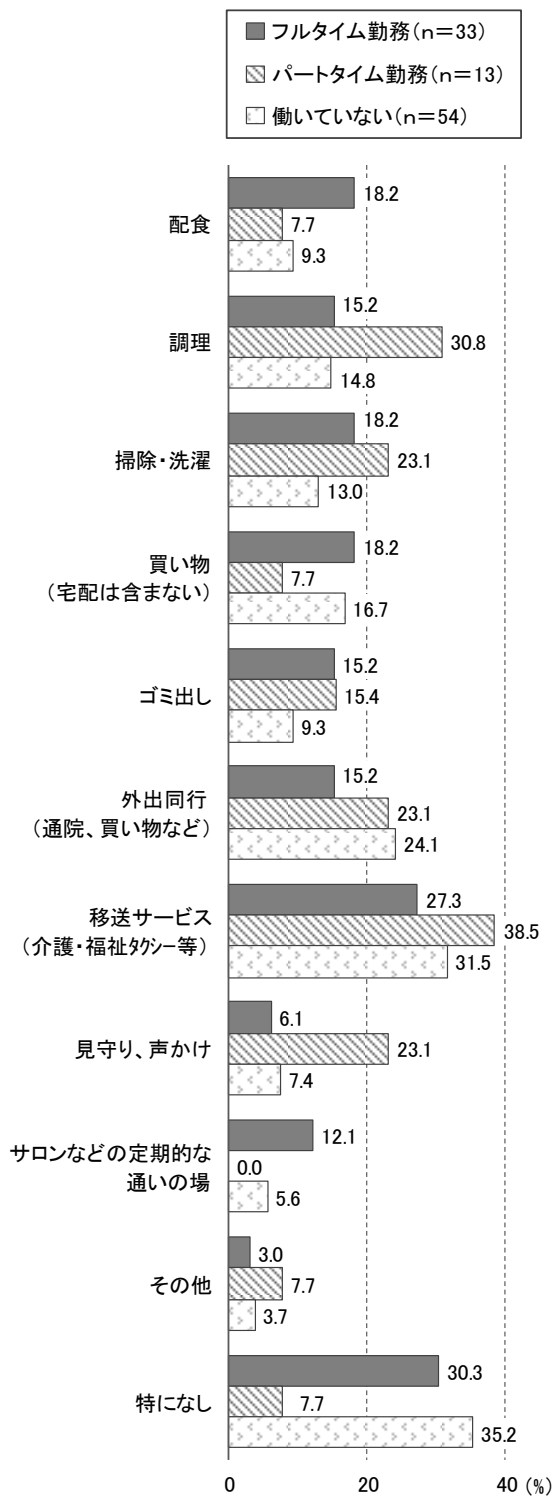


その他意見

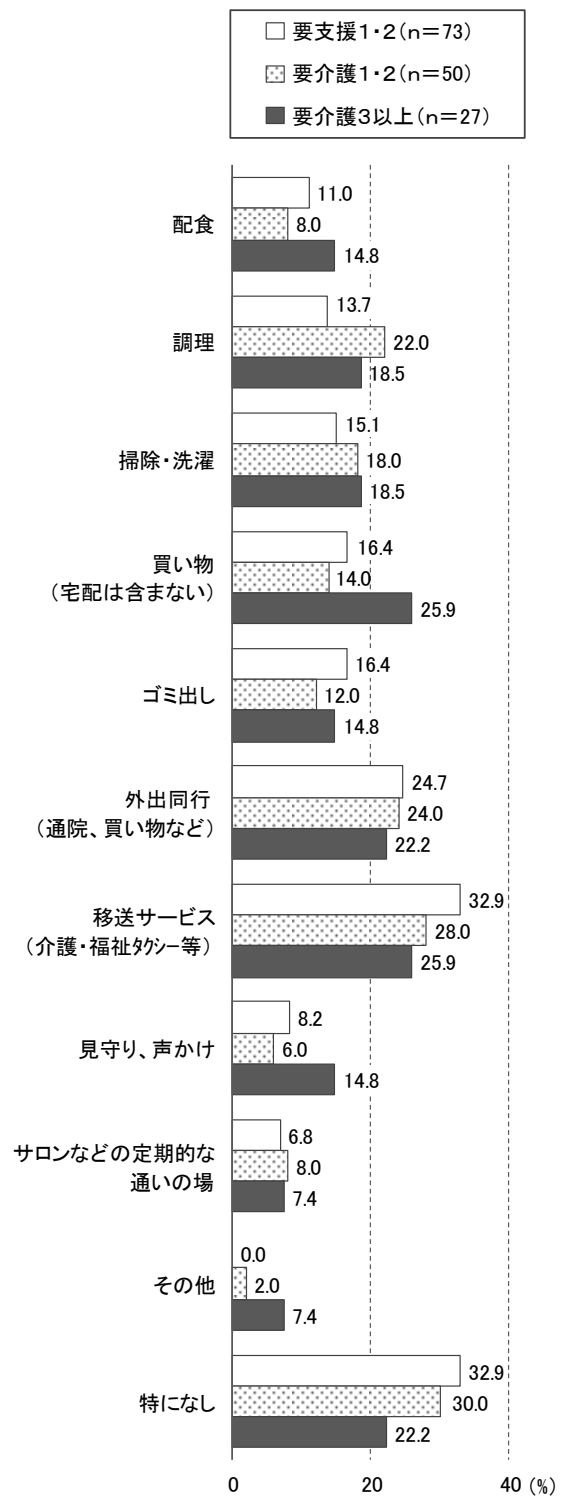
散髪。訪問リハビリ。入浴。

A票・問9の参考クロス

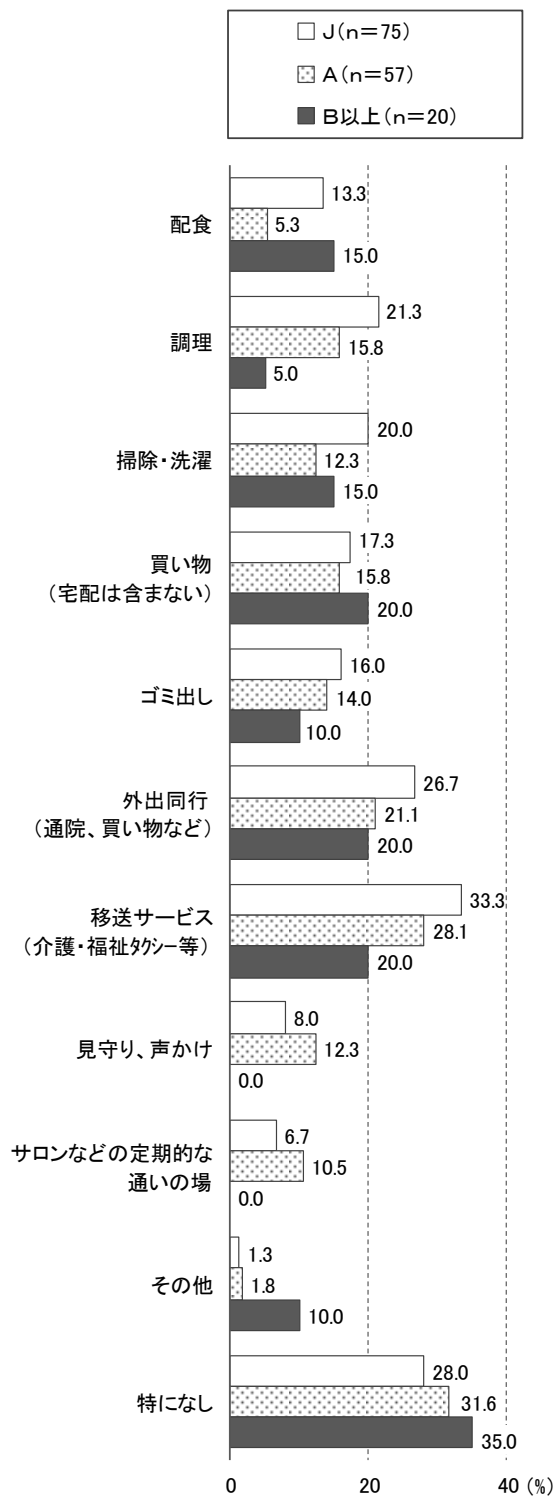
《主な介護者の勤務形態 × A票・問9》



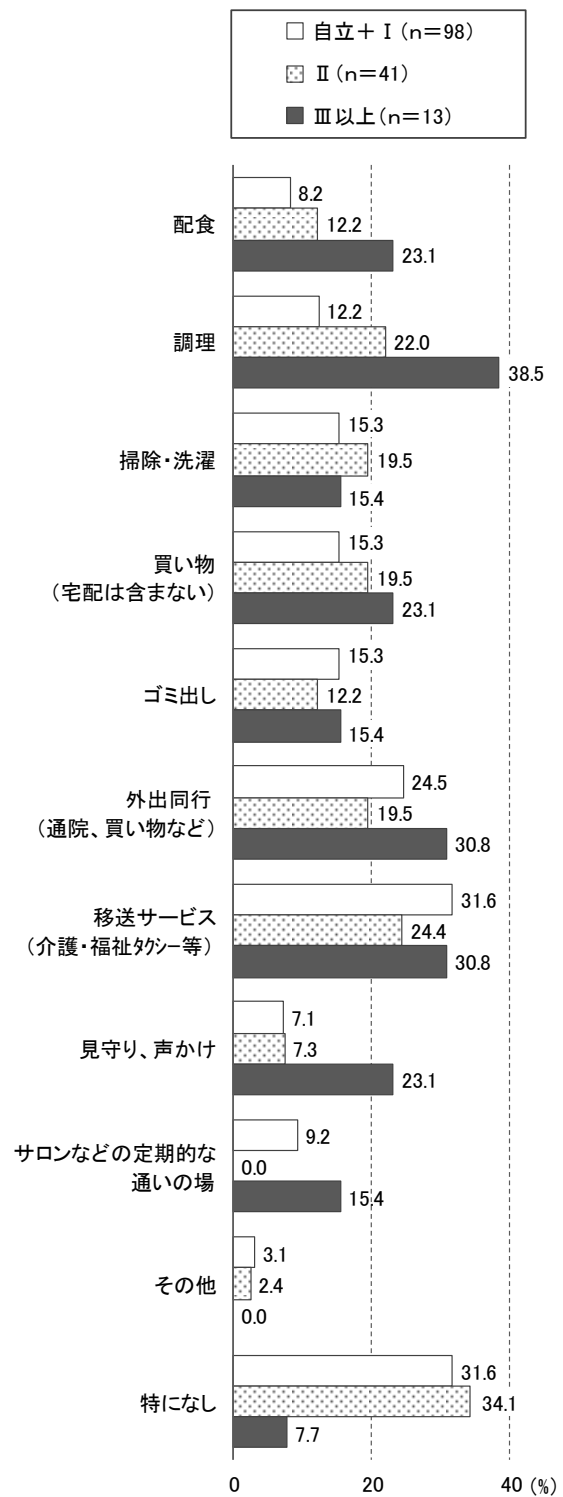
《要介護度 × A票・問9》



《障害高齢者の日常生活自立度×A票・問9》



《認知症高齢者の日常生活自立度×A票・問9》



**問10 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答
ください。【MA】**

全体では、「入所・入居は検討していない」が82.2%と最も高く、次いで、「入所・入居を検討している」(13.8%)、「すでに入所・入居申し込みをしている」(0.7%)となっています。

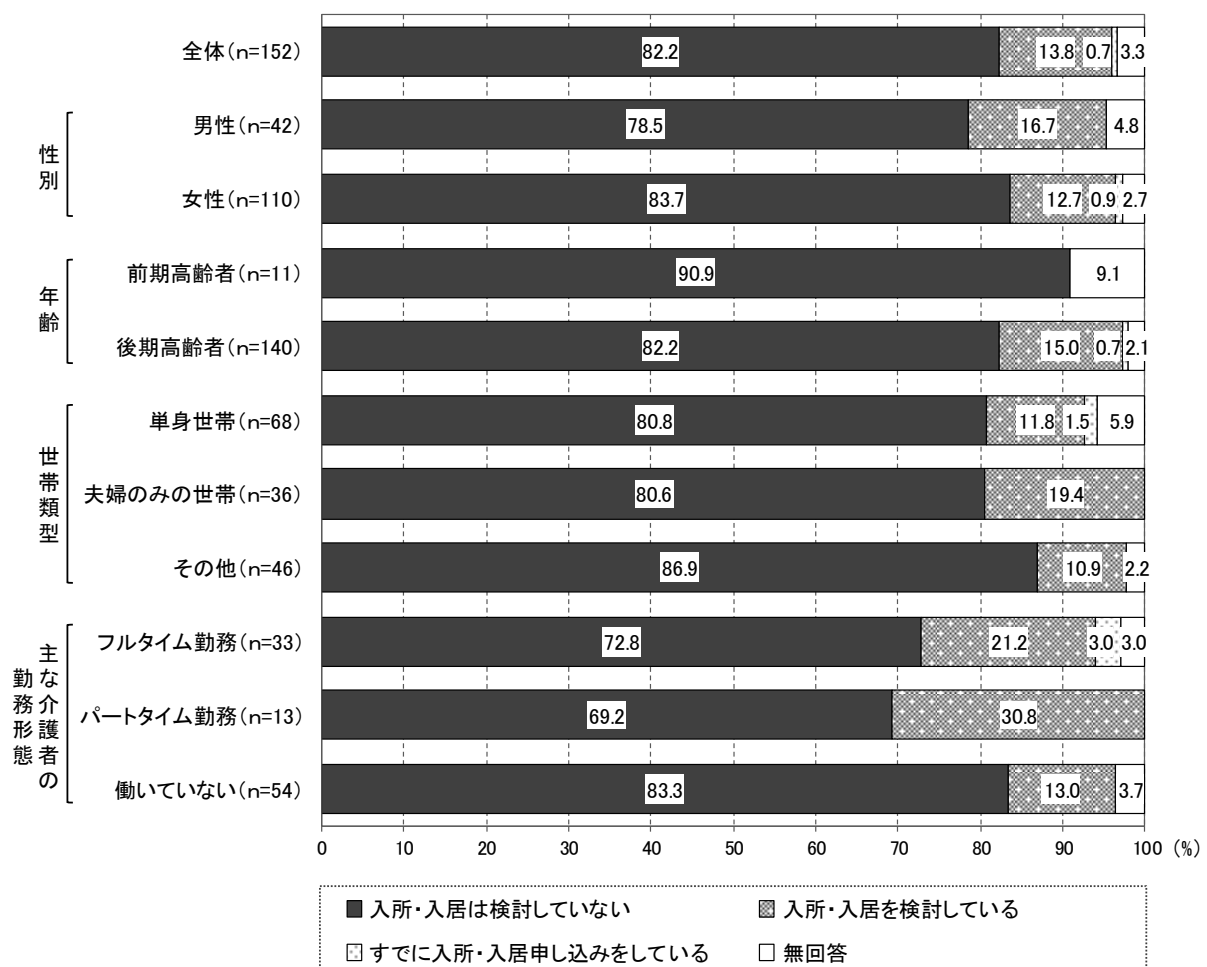
性別で見ると、「入所・入居は検討していない」では、女性が83.7%と男性(78.5%)より高くなっています。

年齢層別で見ると、「入所・入居は検討していない」では、前期高齢者が90.9%と後期高齢者(82.2%)より高くなっています。

世帯類型別で見ると、「入所・入居は検討していない」では、他の世帯類型と比べて、その他で高くなっています。

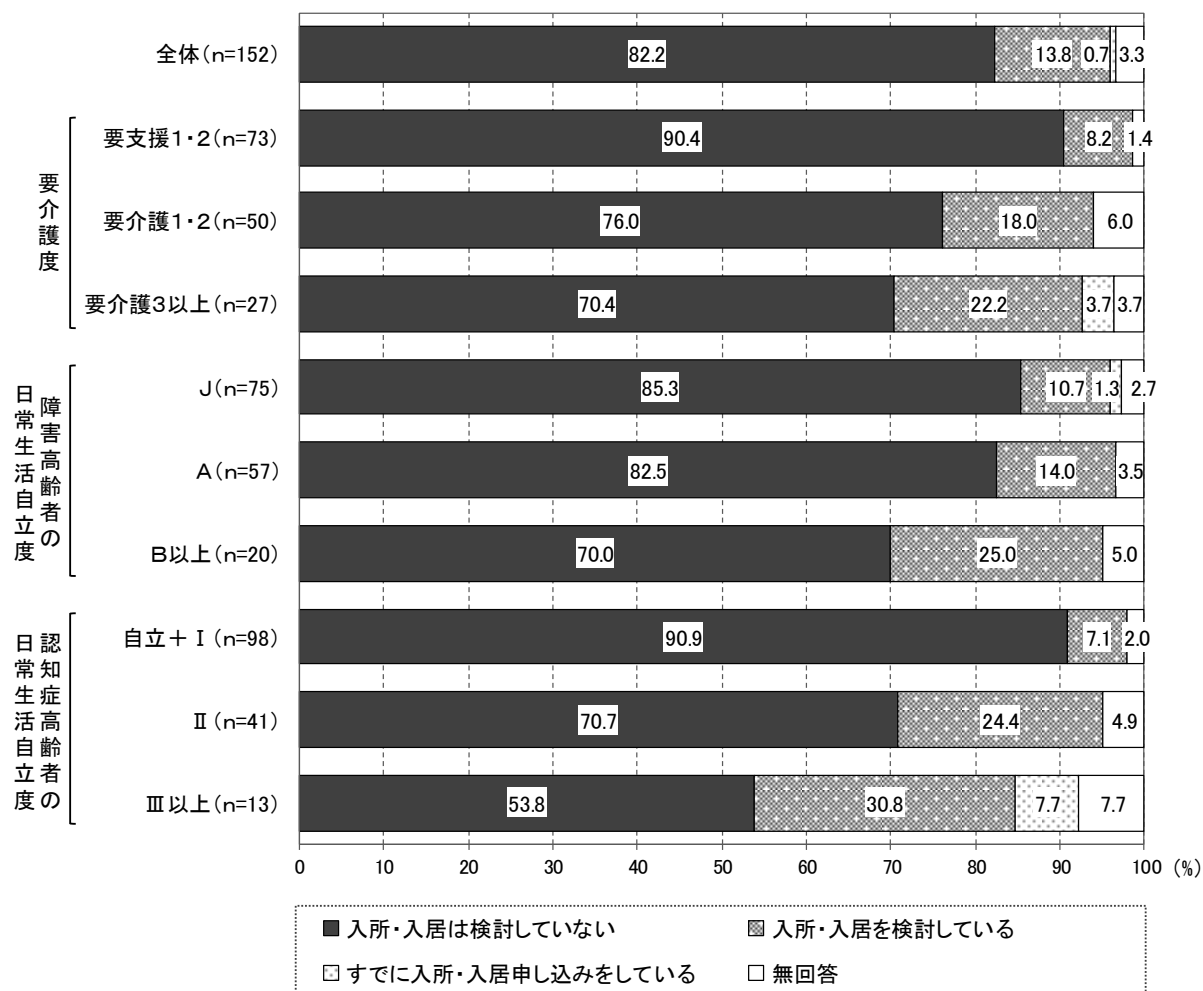
主な介護者の勤務形態別で見ると、他の勤務形態と比べて、働いていない方で「入所・入居は検討していない」が高くなっています。

◆ A票・問10 (全体／性別／年齢／世帯類型／主な介護者の勤務形態) ◆



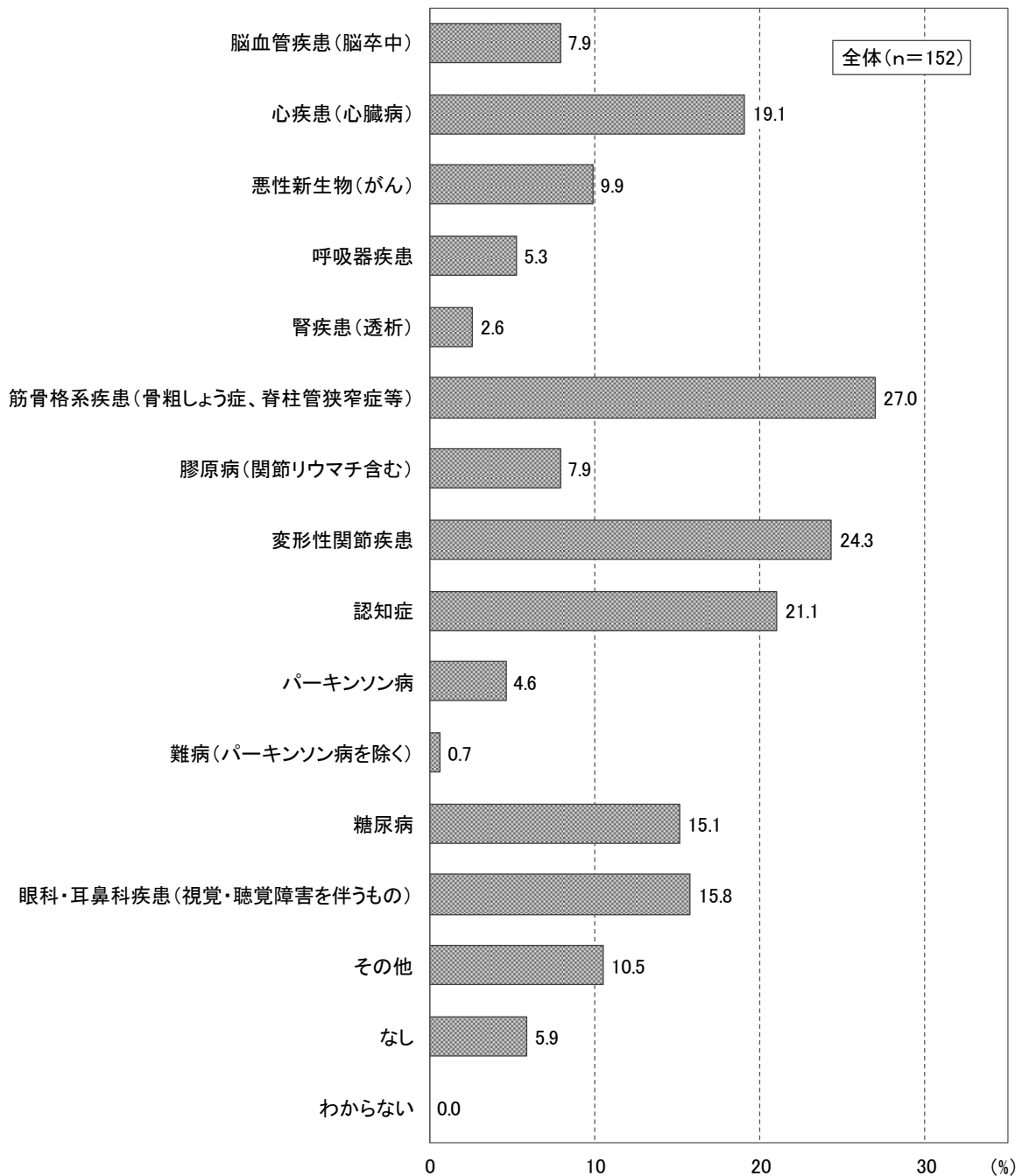
要介護度、障害高齢者の日常生活自立度、認知症高齢者の日常生活自立度のそれぞれを見ると、いずれも重度になるほど、「入所・入居を検討している」の割合が高くなっています。

◆ A票・問10（要介護度／障害高齢者の日常生活自立度／認知症高齢者の日常生活自立度）◆



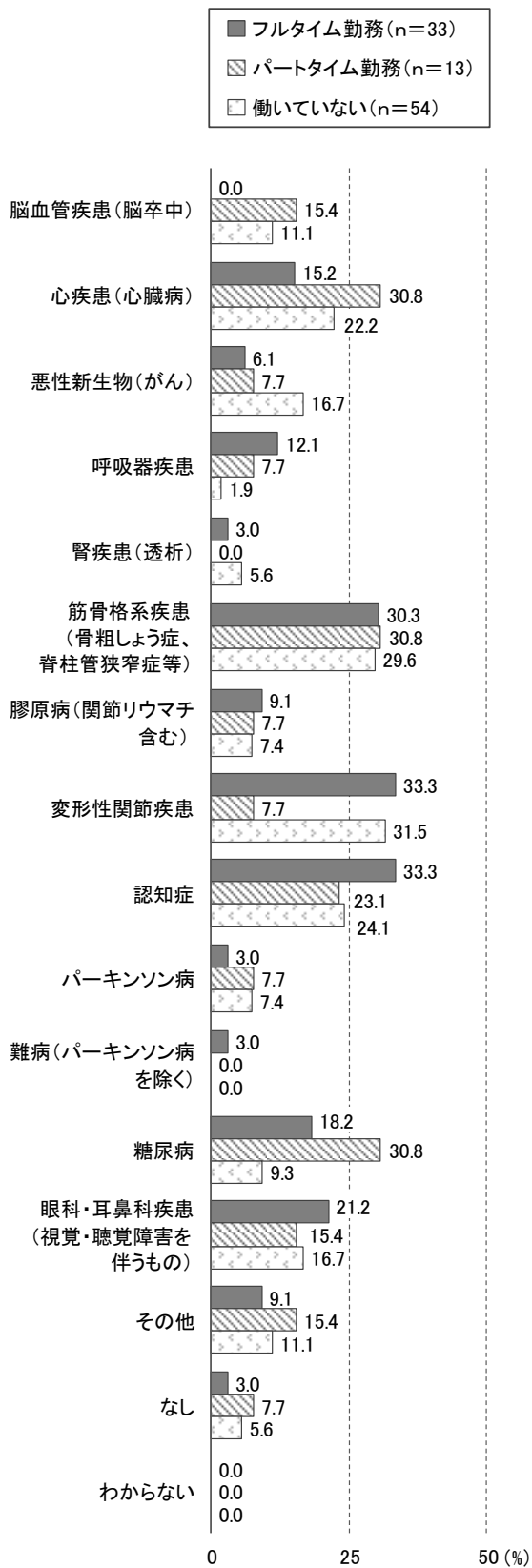
問 11 ご本人が、現在抱えている傷病について、ご回答ください。【MA】

「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が27.0%と最も高く、次いで、「変形性関節疾患」（24.3%）、「認知症」（21.1%）の順となっています。

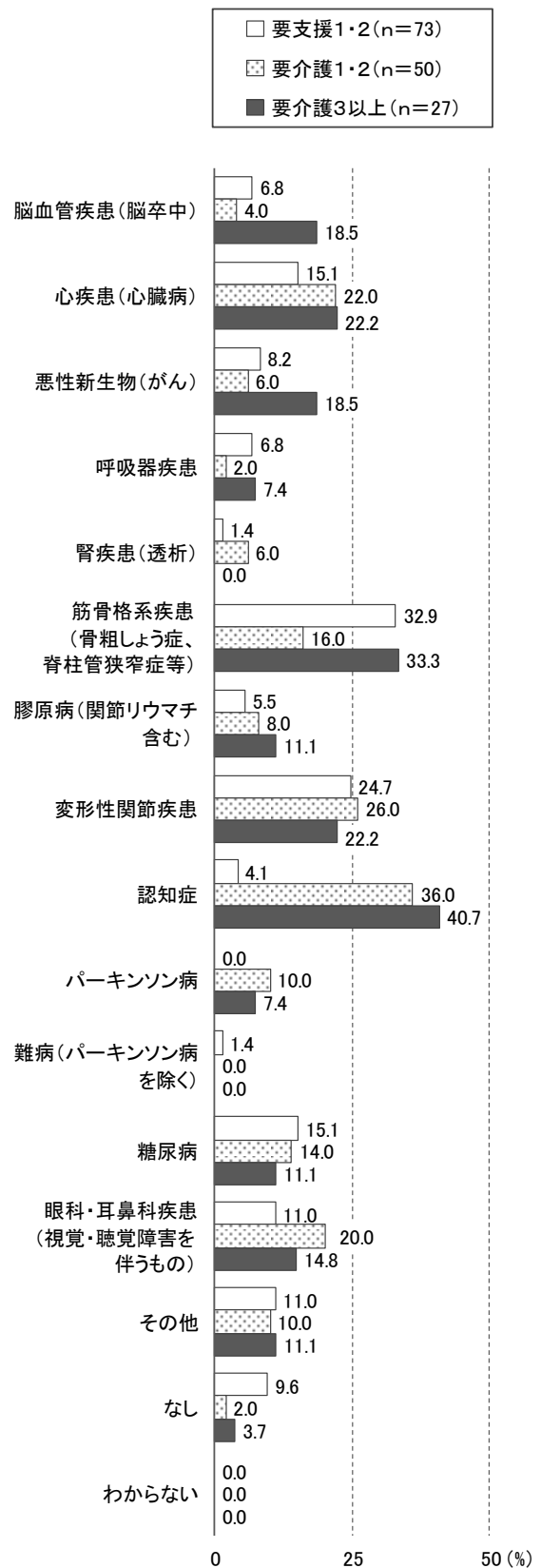


A票・問11の参考クロス

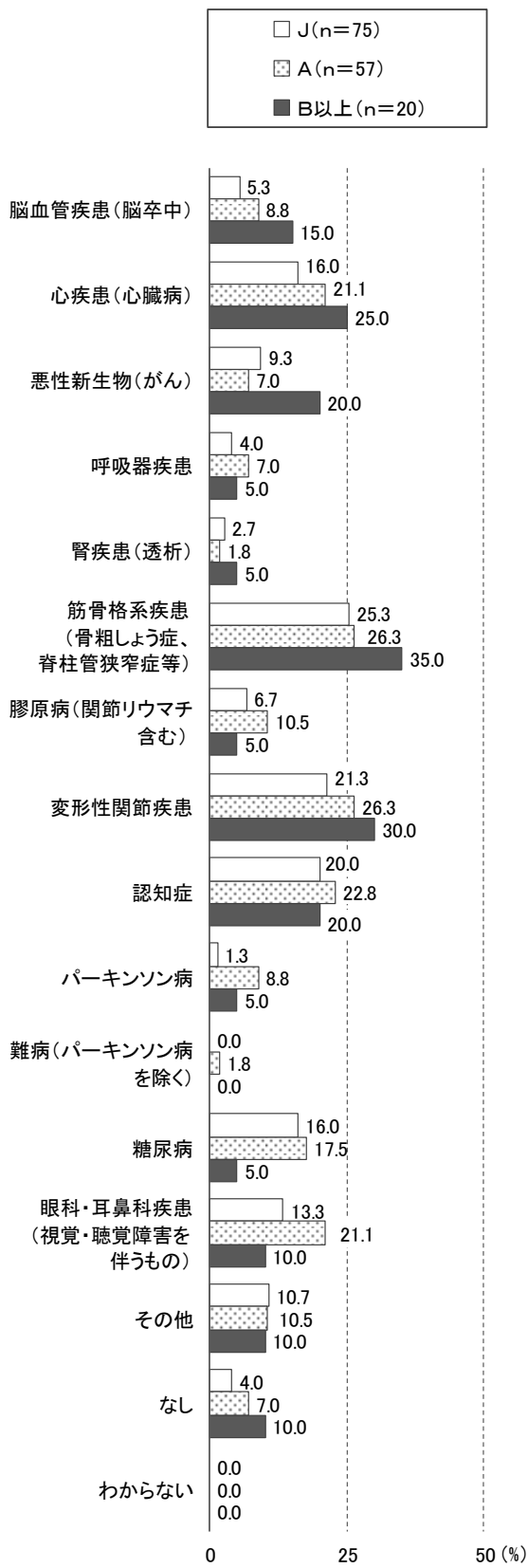
《主な介護者の勤務形態×A票・問11》



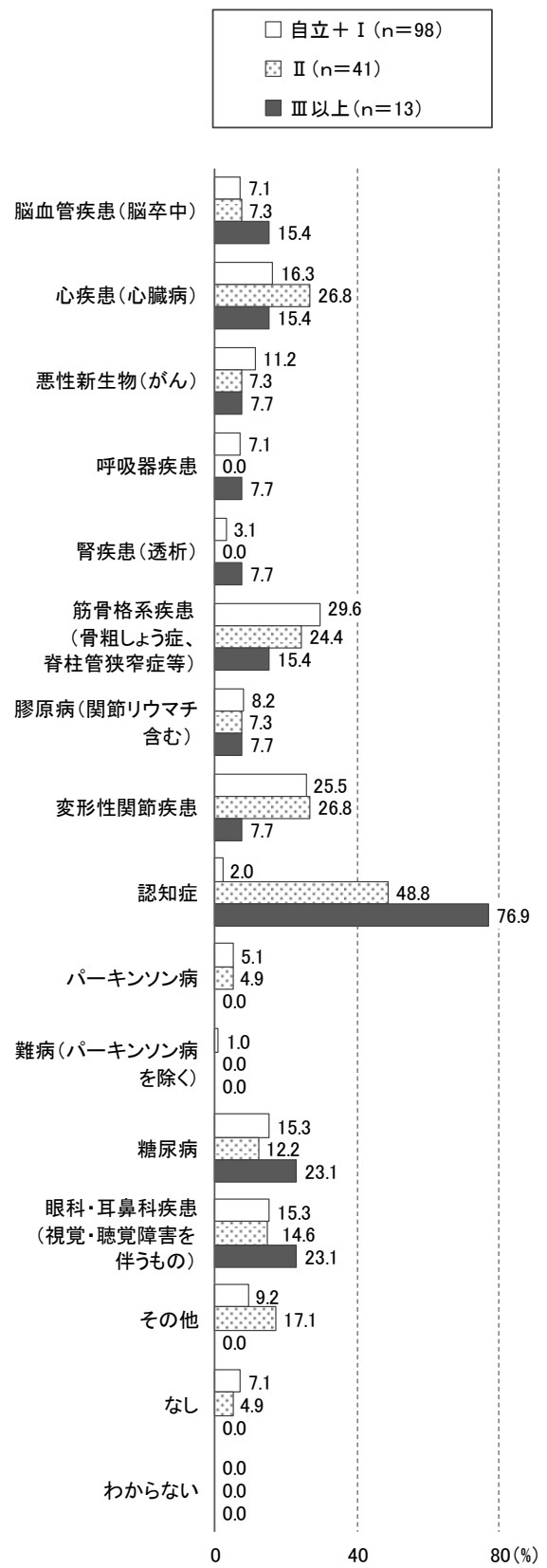
《要介護度×A票・問11》



《障害高齢者の日常生活自立度×A票・問11》



《認知症高齢者の日常生活自立度×A票・問11》



問 12 ご本人は、現在、訪問診療を利用していますか。

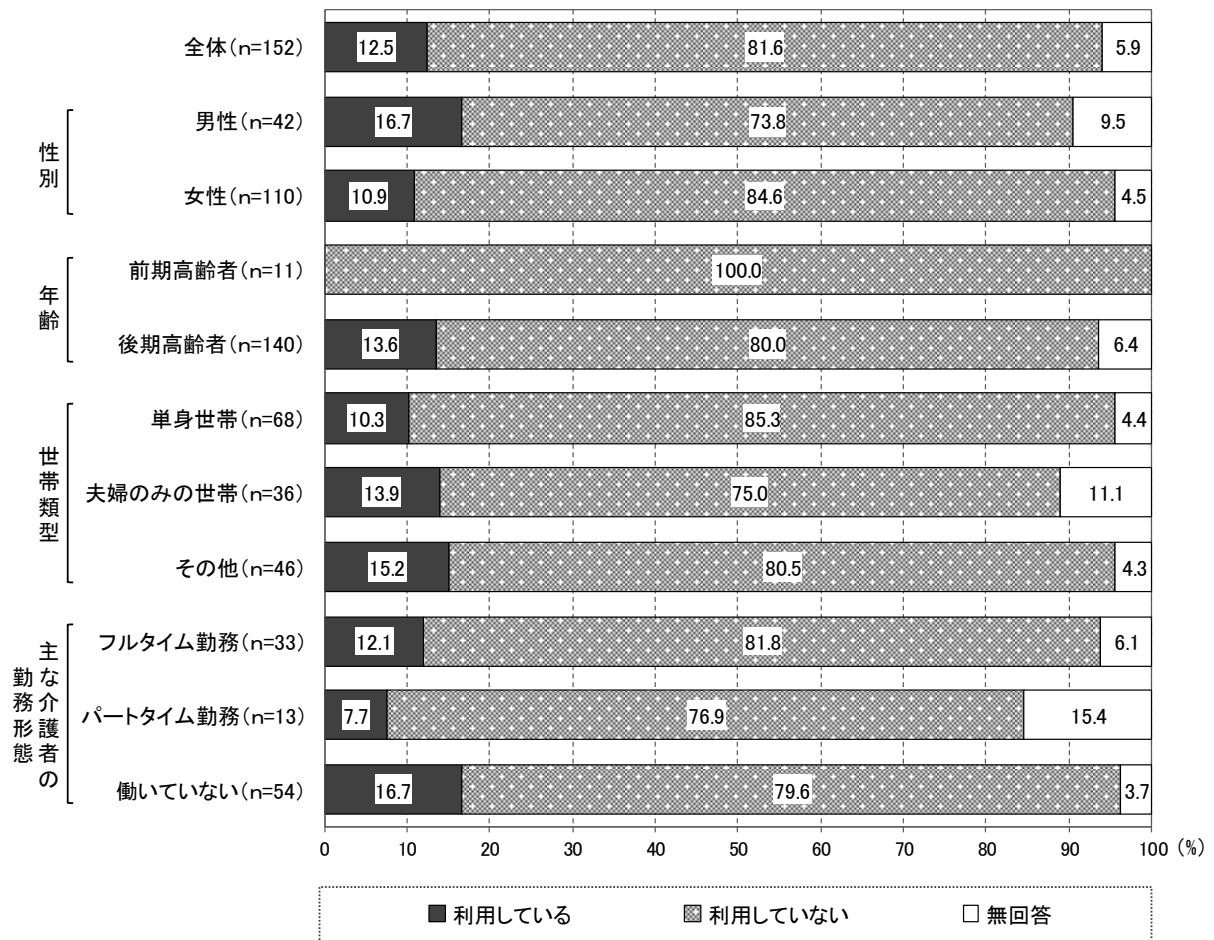
全体では、「利用していない」が 81.6%と高く、「利用している」は 12.5%となっています。性別で見ると、「利用している」では、男性が 16.7%と女性（10.9%）より高くなっています。

年齢層別で見ると、「利用している」では、後期高齢者が 13.6%となっており、前期高齢者は 0.0%となっています。

世帯類型別で見ると、他の世帯類型と比べて、単身世帯で「利用している」割合がやや低くなっています。

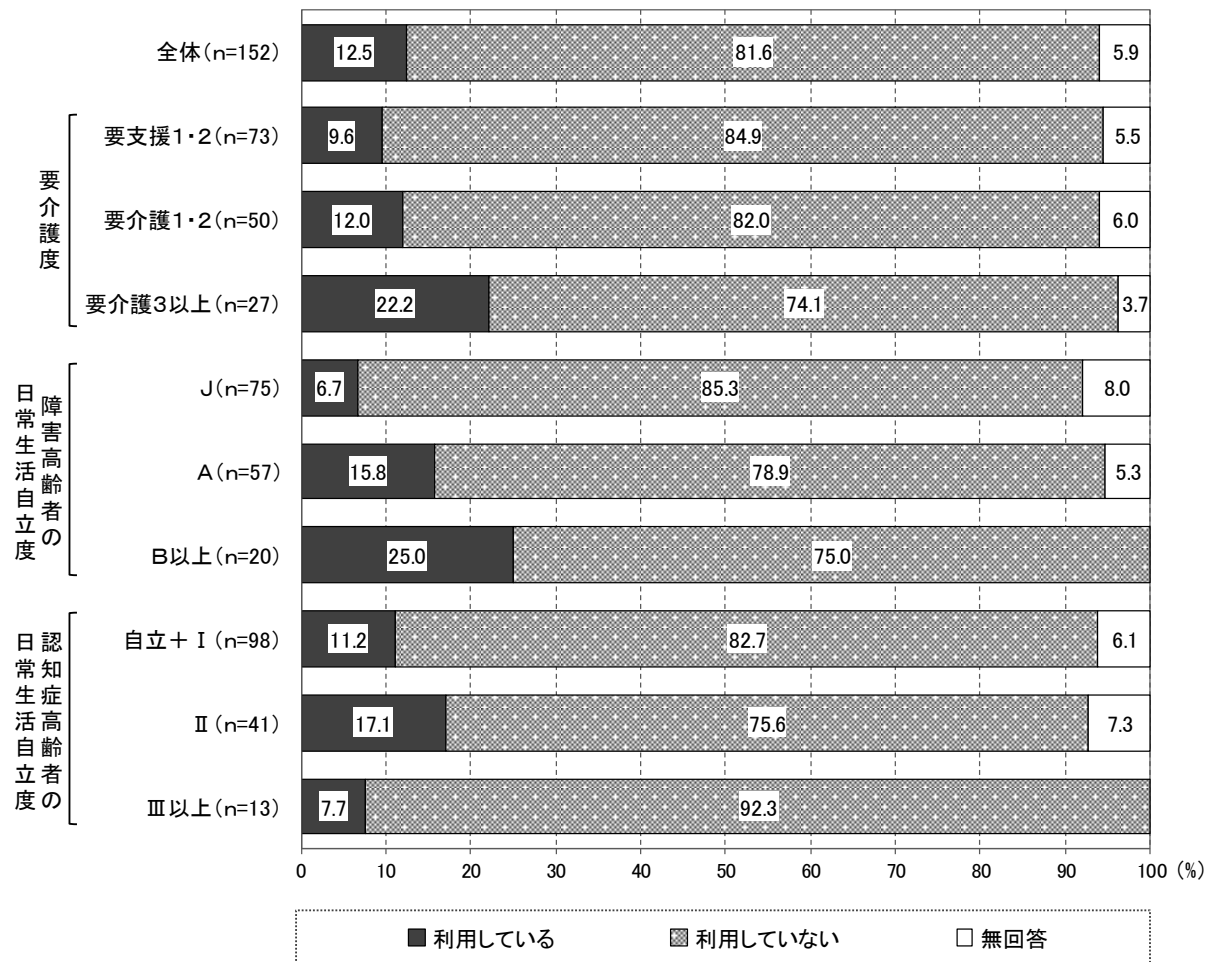
主な介護者の勤務形態別で見ると、他の勤務形態と比べて、パートタイム勤務で「利用している」割合が低くなっています。

◆ A票・問 12（全体／性別／年齢／世帯類型／主な介護者の勤務形態） ◆



要介護度、障害高齢者の日常生活自立度、認知症高齢者の日常生活自立度のそれぞれを見ると、認知症高齢者の日常生活自立度（Ⅲ以上）を除いて、いずれも重度になるほど、「利用している」割合が高くなっています。

◆ A票・問12（要介護度／障害高齢者の日常生活自立度／認知症高齢者の日常生活自立度） ◆



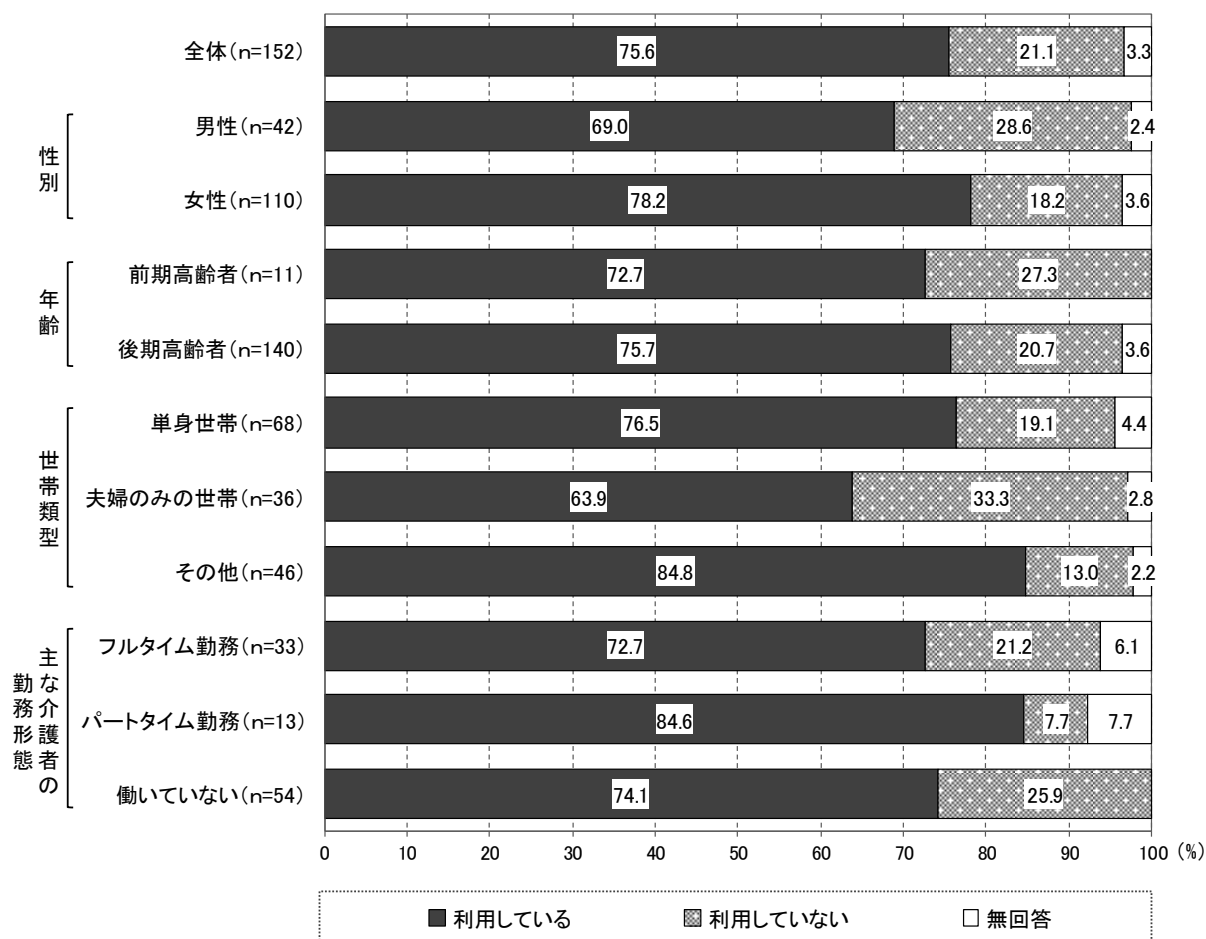
問 13 現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか。

全体では、「利用している」が75.6%と高く、「利用していない」は21.1%となっています。性別で見ると、「利用している」では、女性が78.2%と男性（69.0%）より高くなっています。

年齢層別では特に差異は見られませんが、世帯類型別で見ると、他の世帯類型と比べて、夫婦のみ世帯で「利用している」割合が低く、その他で「利用している」割合が高くなっています。

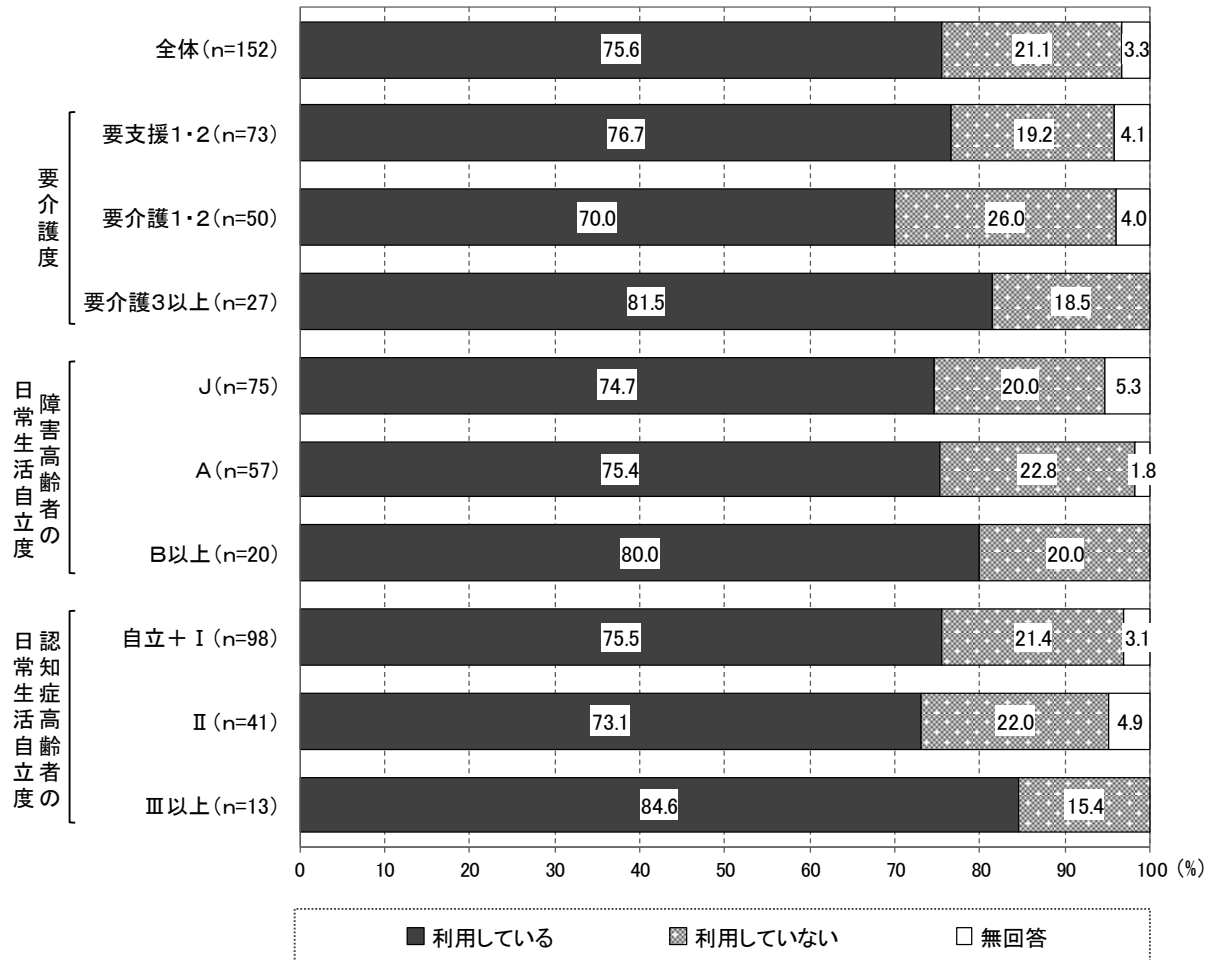
主な介護者の勤務形態別で見ると、他の勤務形態と比べて、パートタイム勤務で「利用している」割合が高くなっています。

◆ A票・問 13（全体／性別／年齢／世帯類型／主な介護者の勤務形態） ◆



要介護度、障害高齢者の日常生活自立度、認知症高齢者の日常生活自立度のそれぞれの結果から、いずれも重度であれば「利用している」割合が高くなっています。

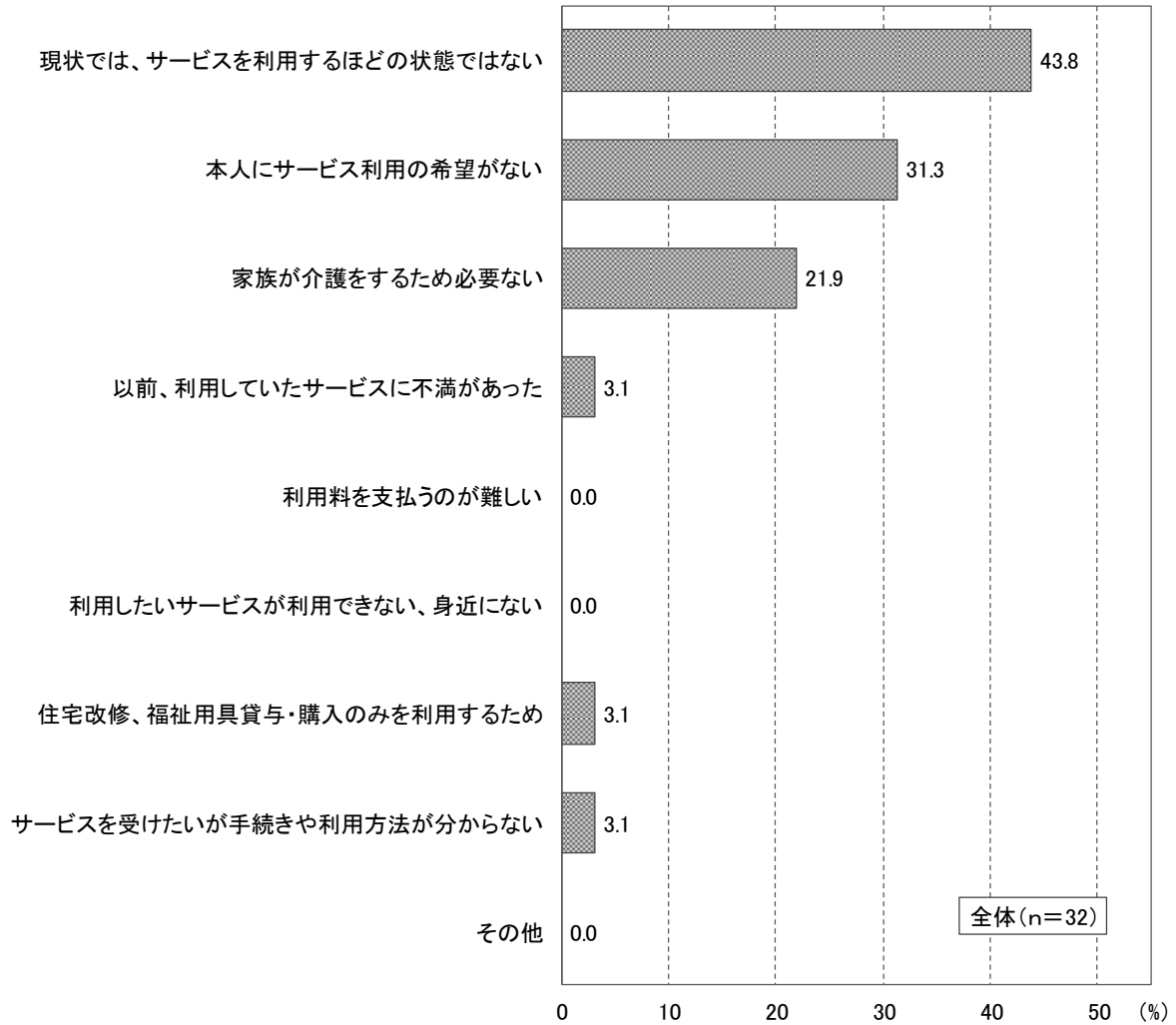
◆ A票・問13（要介護度／障害高齢者の日常生活自立度／認知症高齢者の日常生活自立度） ◆



【問13において「2. 利用していない」を答えた方のみ】

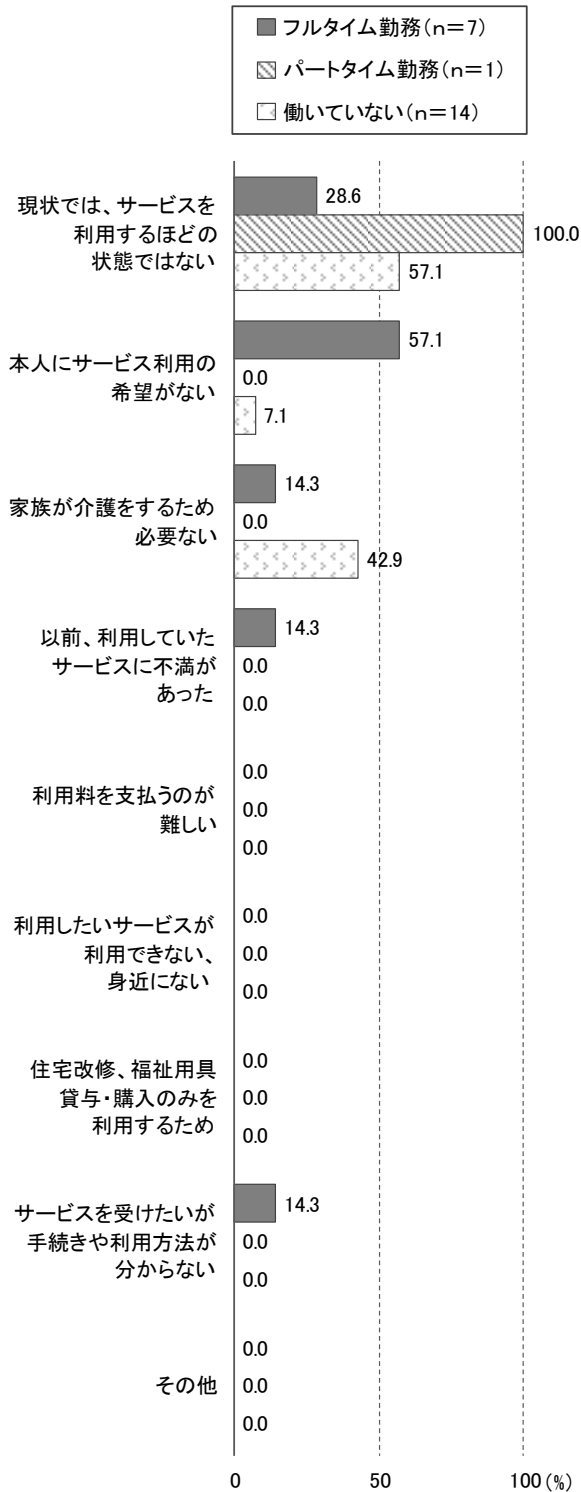
問14 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が43.8%と最も高く、次いで、「本人にサービス利用の希望がない」(31.3%)、「家族が介護をするため必要ない」(21.9%)の順となっています。

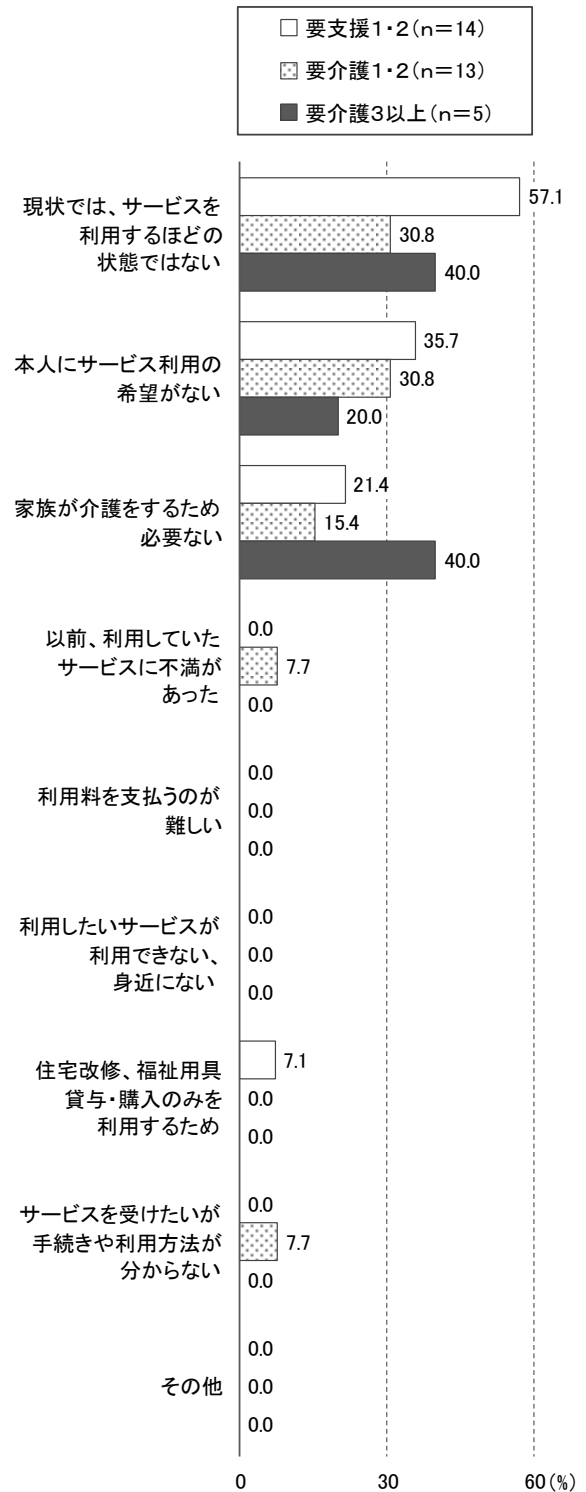


A票・問14の参考クロス

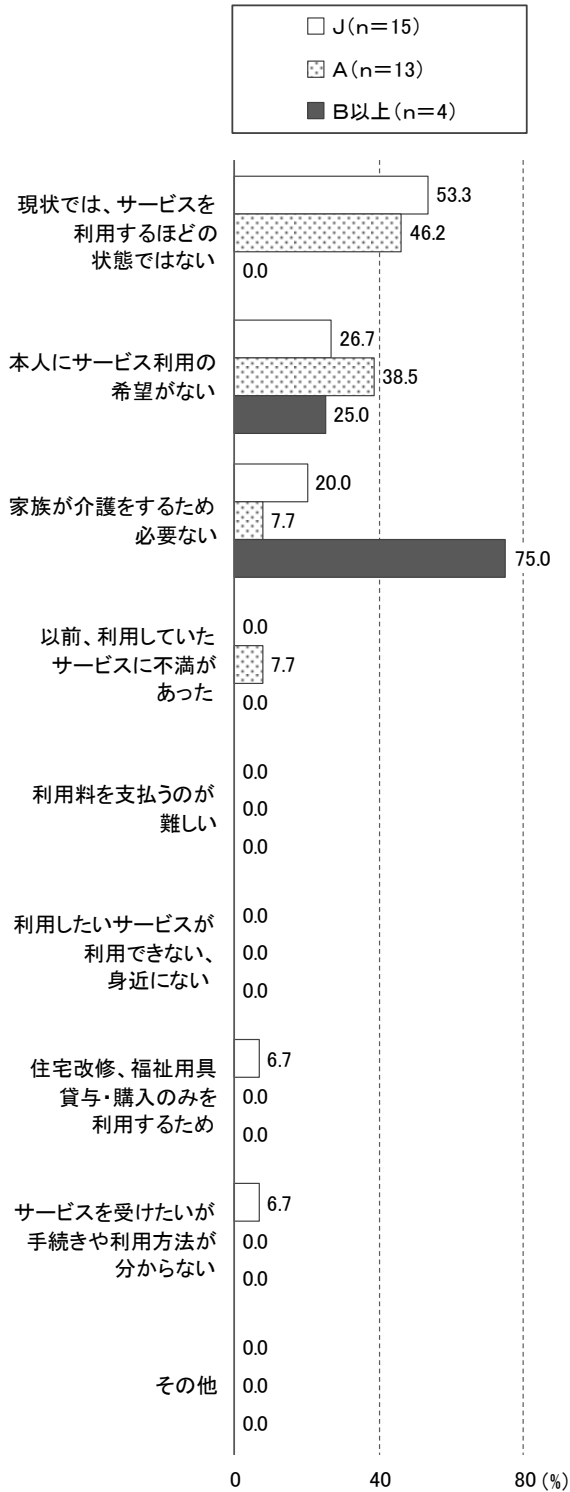
《主な介護者の勤務形態 × A票・問14》



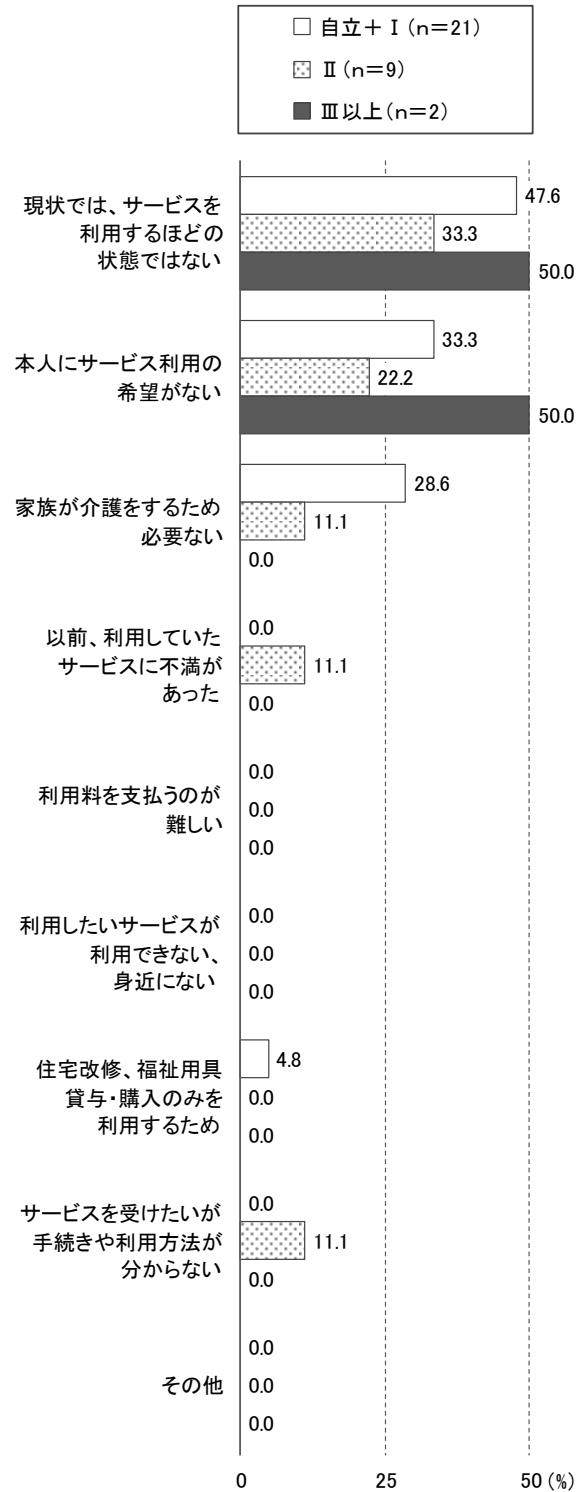
《要介護度 × A票・問14》



《障害高齢者の日常生活自立度×A票・問14》



《認知症高齢者の日常生活自立度×A票・問14》



B票 主な介護者様、もしくはご本人様にご回答・ご記入頂く項目

問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。

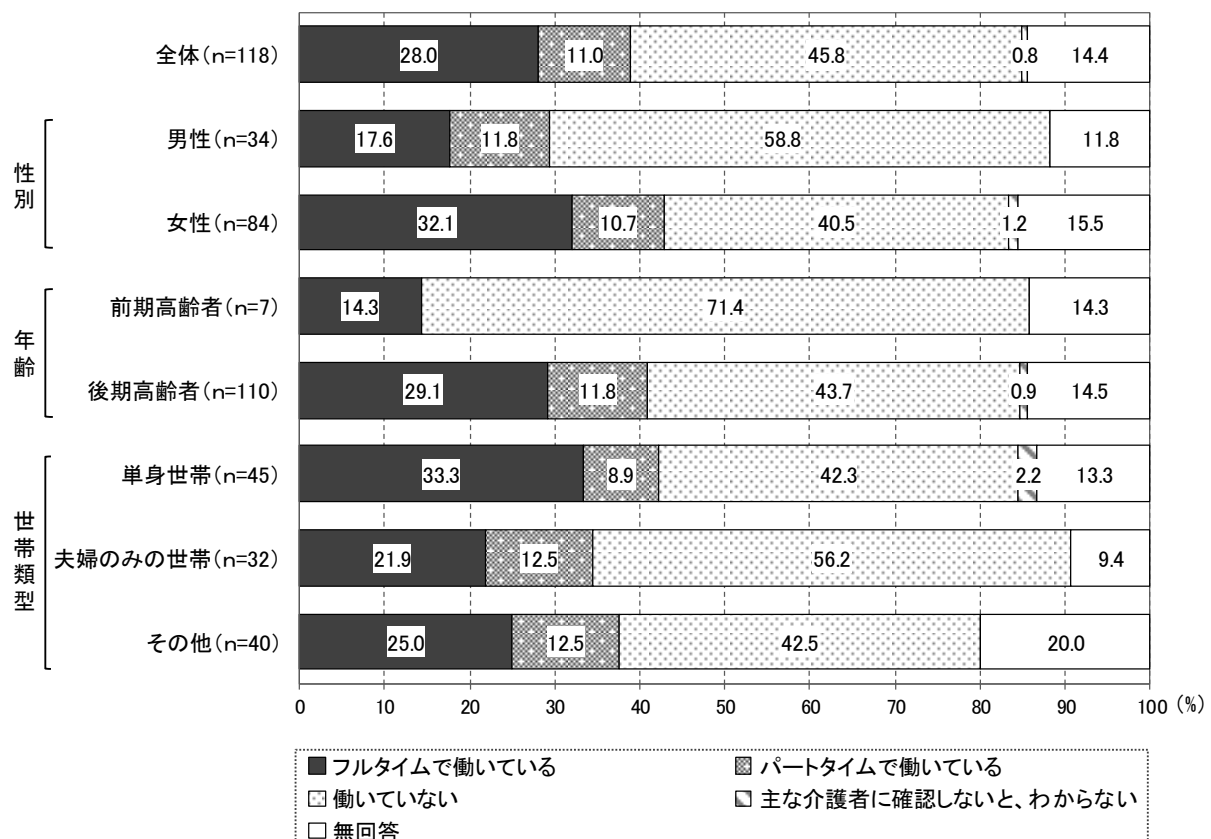
全体では、主な介護者は「働いていない」が45.8%と最も高く、次いで、「フルタイムで働いている」(28.0%)、「パートタイムで働いている」(11.0%)の順となっています。

性別で見ると、男性の方が、主な介護者が「フルタイムで働いている」割合が低く「働いていない」割合が高くなっています。

年齢層別で見ると、主な介護者が「フルタイムで働いている」では、後期高齢者が29.1%と前期高齢者(14.3%)より高くなっています。

世帯類型別で見ると、他の世帯類型と比べて、単身世帯で主な介護者が「フルタイムで働いている」割合が高く、夫婦のみ世帯で主な介護者が「働いていない」割合が高くなっています。

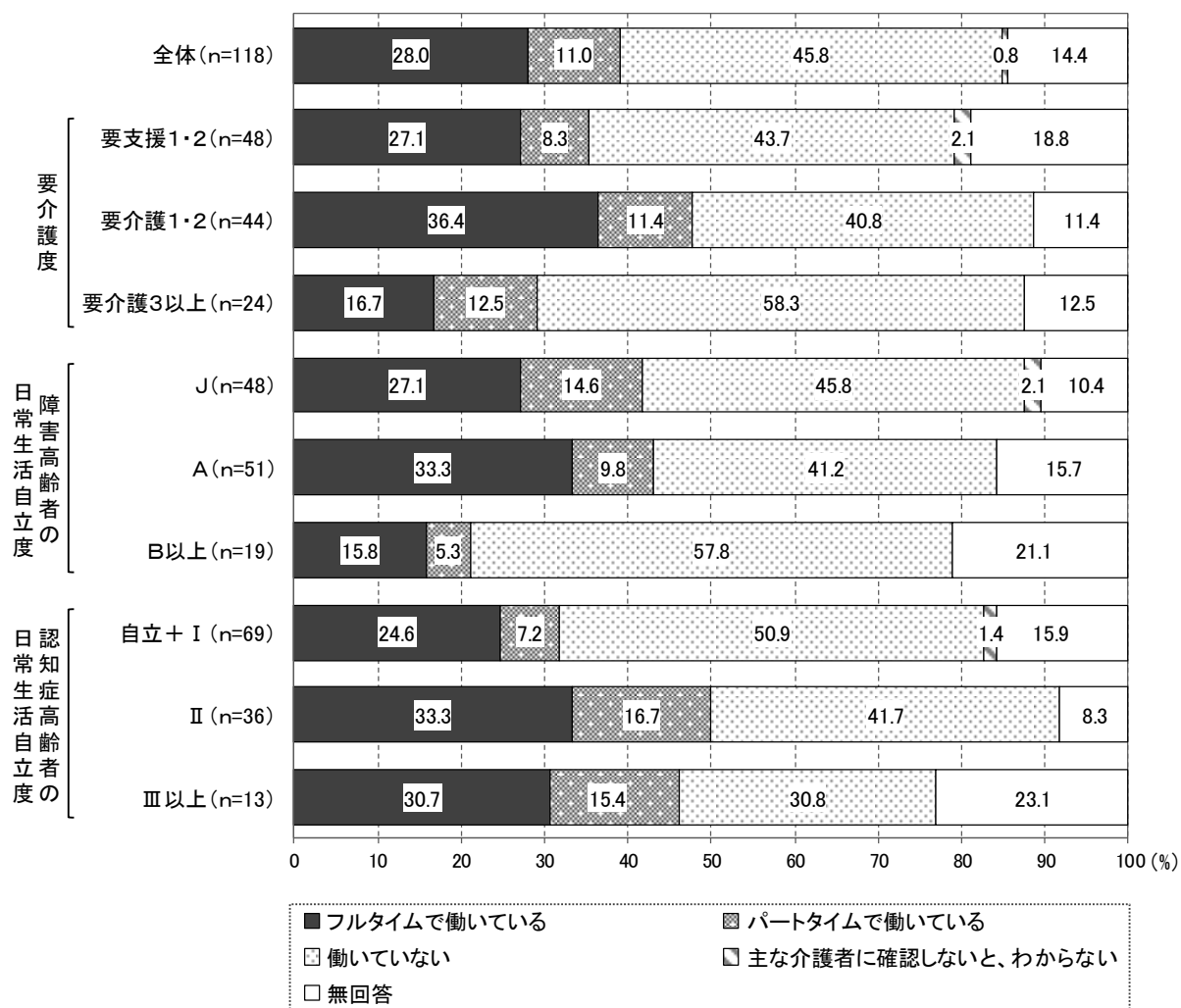
◆ B票・問1 (全体/性別/年齢/世帯類型) ◆



主な介護者が「フルタイムで働いている」と「パートタイムで働いている」を合わせた“主な介護者が働いている”では、要介護度、障害高齢者の日常生活自立度のそれぞれの結果から、いずれも重度であれば“働いている”割合が低くなっています。

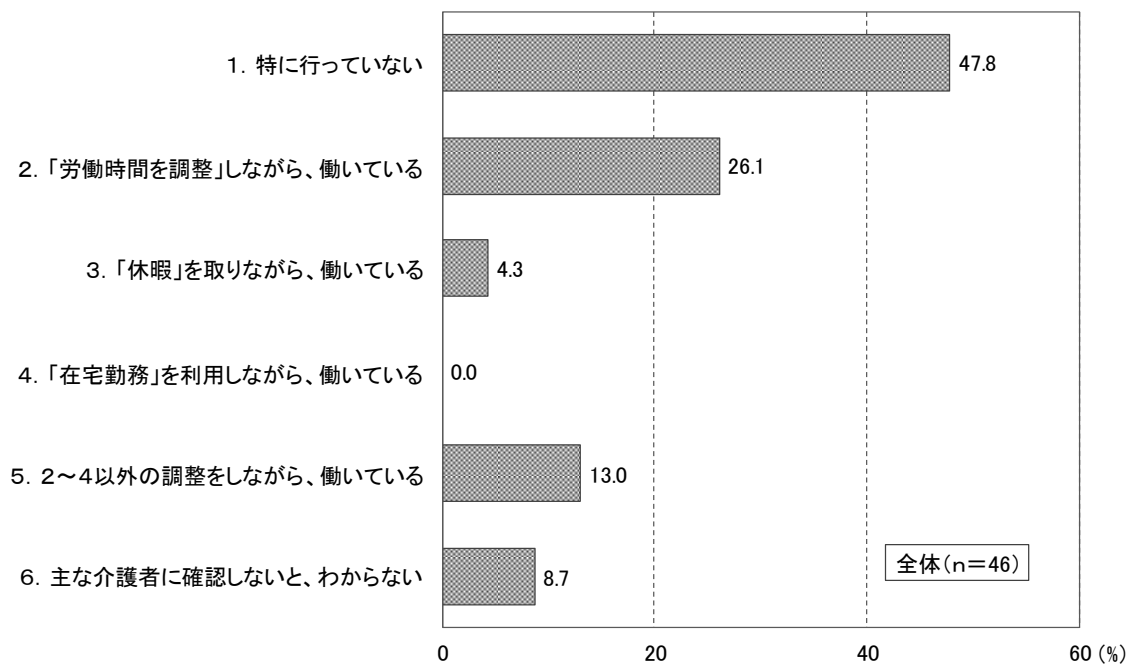
また、認知症高齢者の日常生活自立度で見ると、他の自立度と比べて、自立+ Iで“主な介護者が働いている”割合が低くなっています。

◆ B票・問1（要介護度／障害高齢者の日常生活自立度／認知症高齢者の日常生活自立度）◆



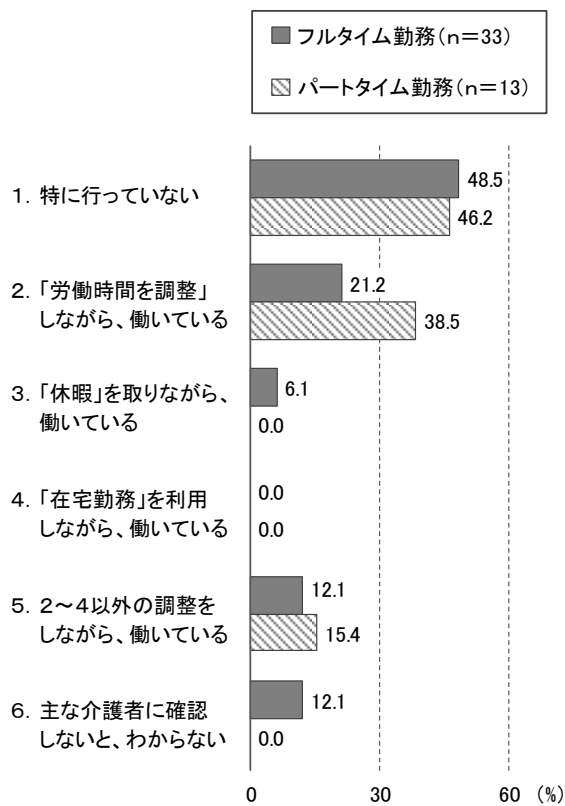
【問1で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と答えた方】
問2 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等
をしていますか。【MA】

「特に行っていない」が47.8%と最も高く、次いで、「労働時間を調整」しながら、働いている」(26.1%)、「2～4以外の調整をしながら、働いている」(13.0%)の順となっています。

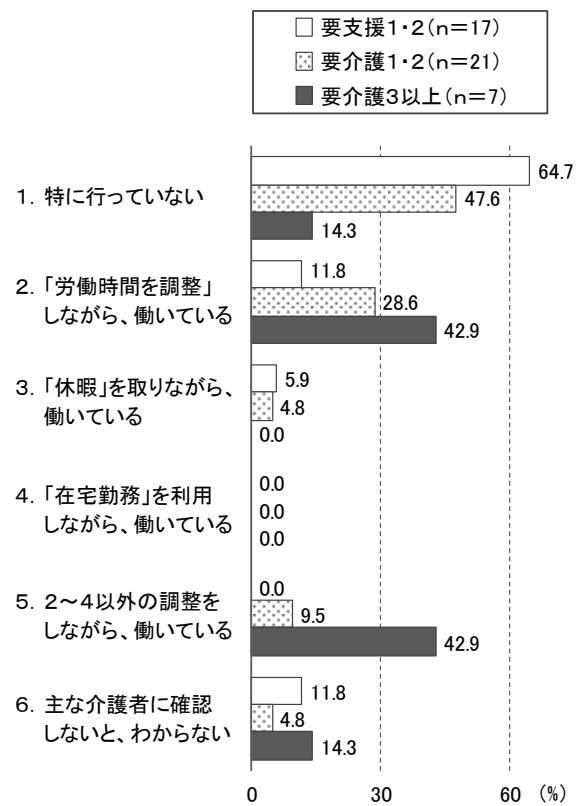


B票・問2の参考クロス

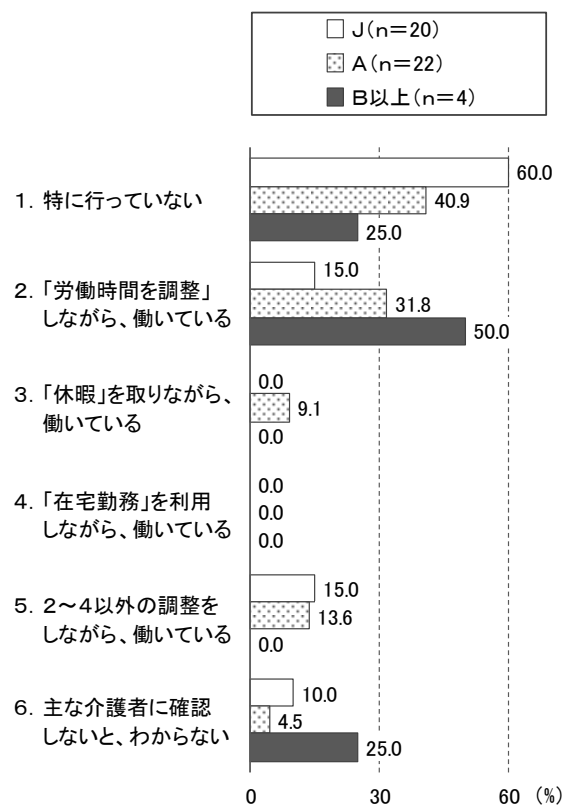
《主な介護者の勤務形態 × B票・問2》



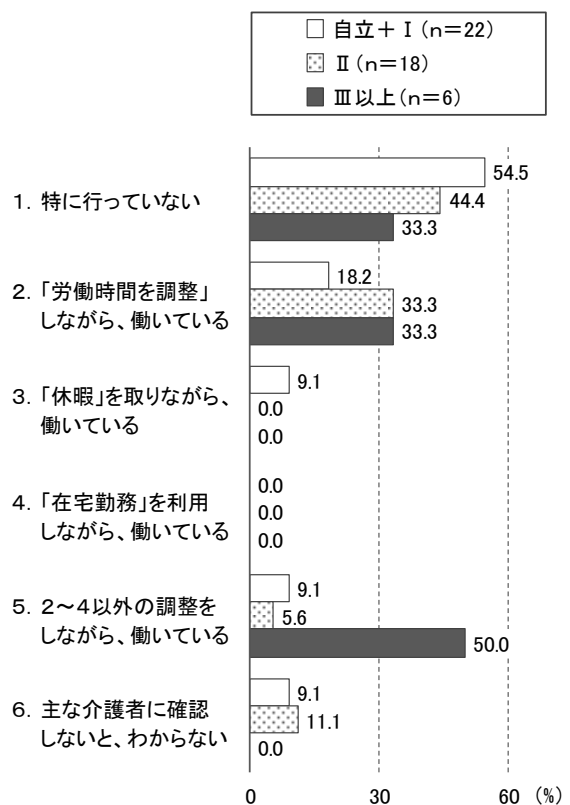
《要介護度 × B票・問2》



《障害高齢者の日常生活自立度 × B票・問2》

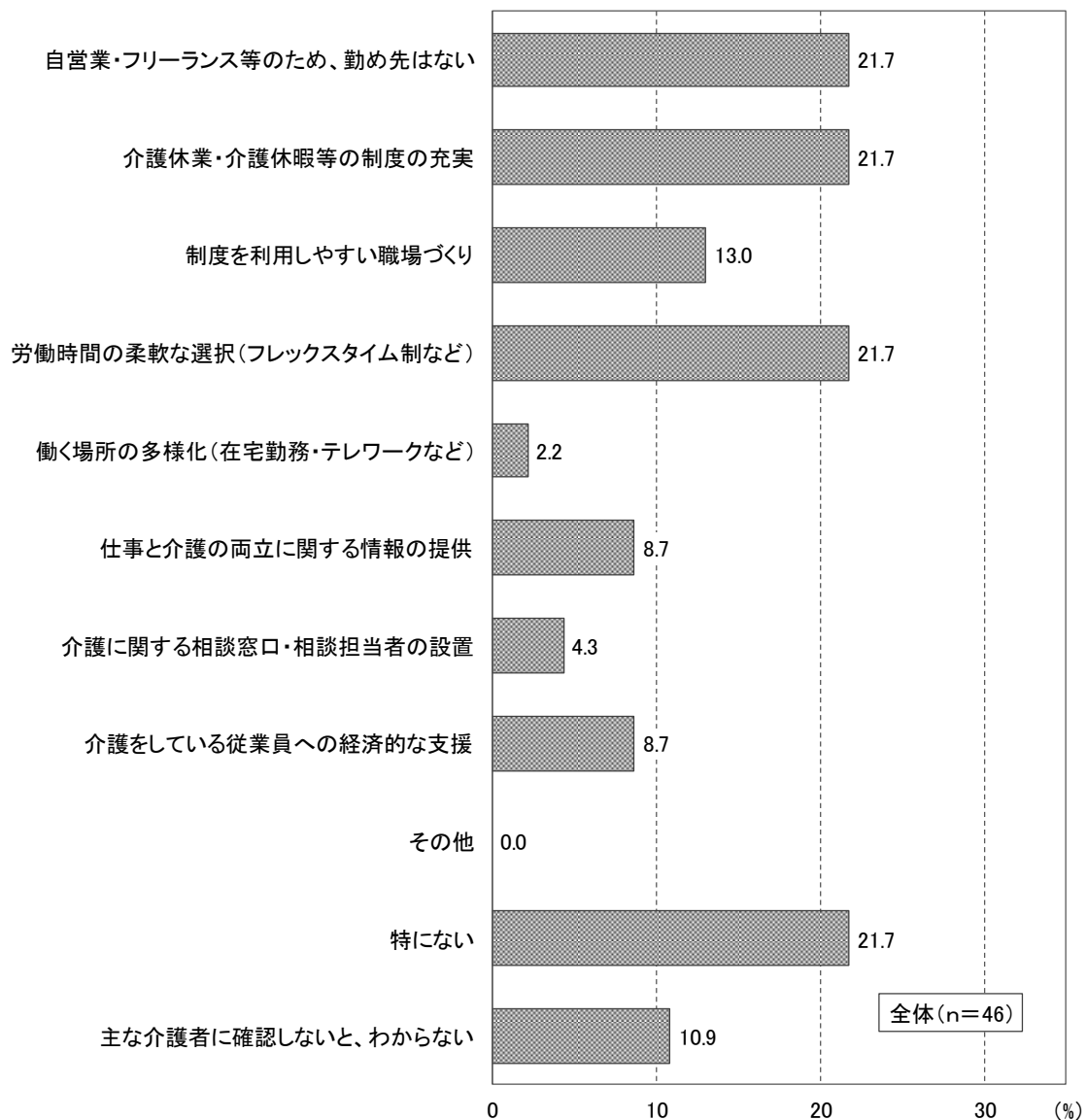


《認知症高齢者の日常生活自立度 × B票・問2》



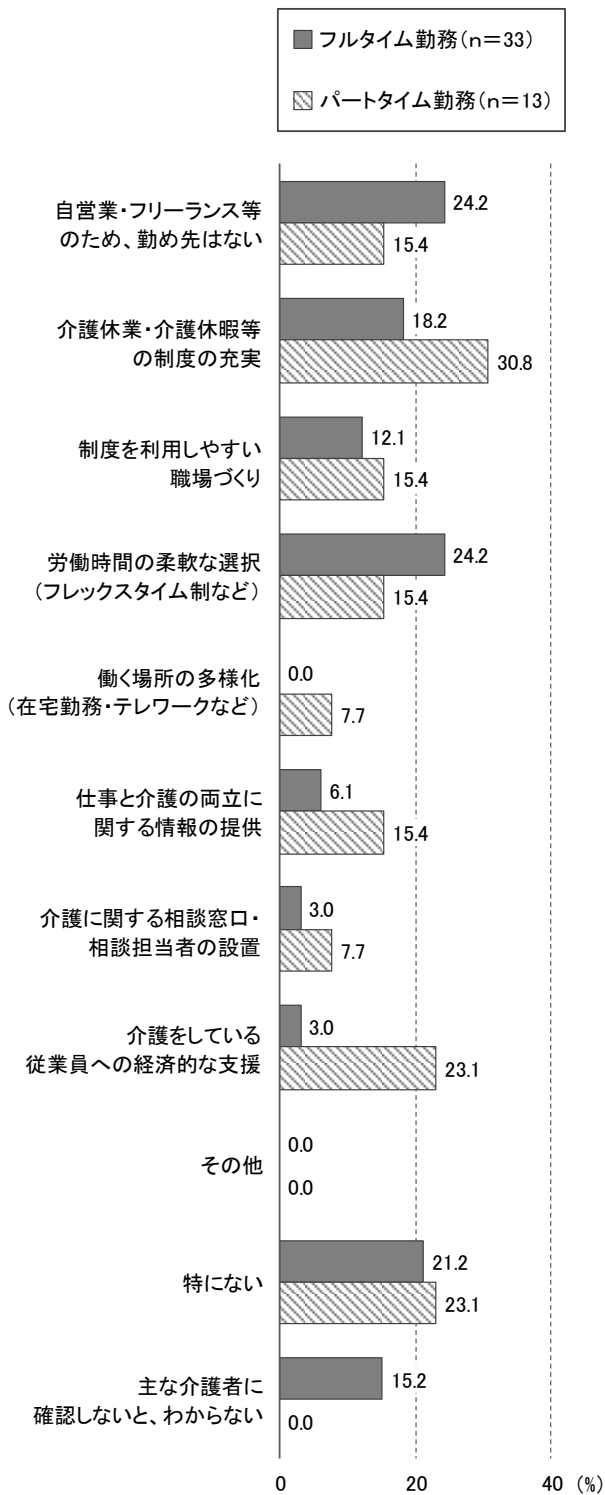
【問1で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と答えた方】
問3 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。【MA】

「特にない」や「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」がそれぞれ21.6%となっていますが、勤め先に求める支援として「介護休業・介護休暇等の制度の充実」・「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が21.7%と同率で最も高く、次いで、「制度を利用しやすい職場づくり」（13.0%）の順となっています。

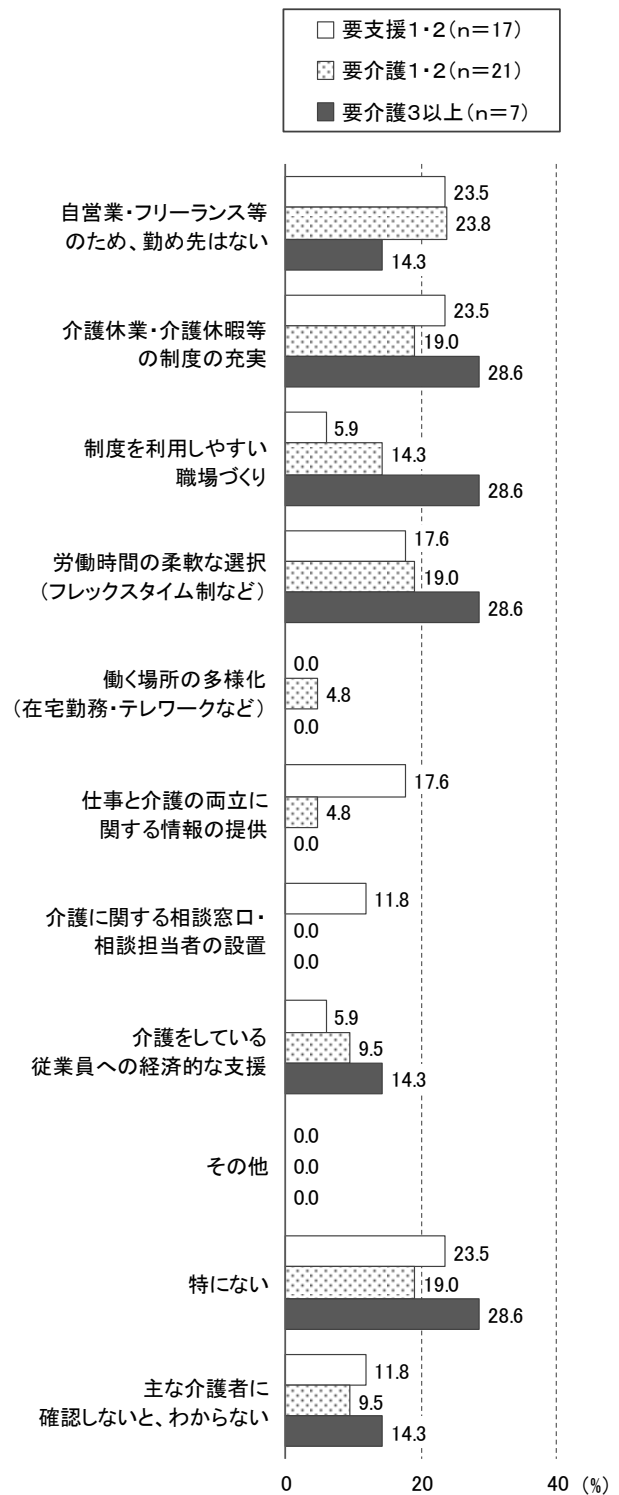


B票・問3の参考クロス

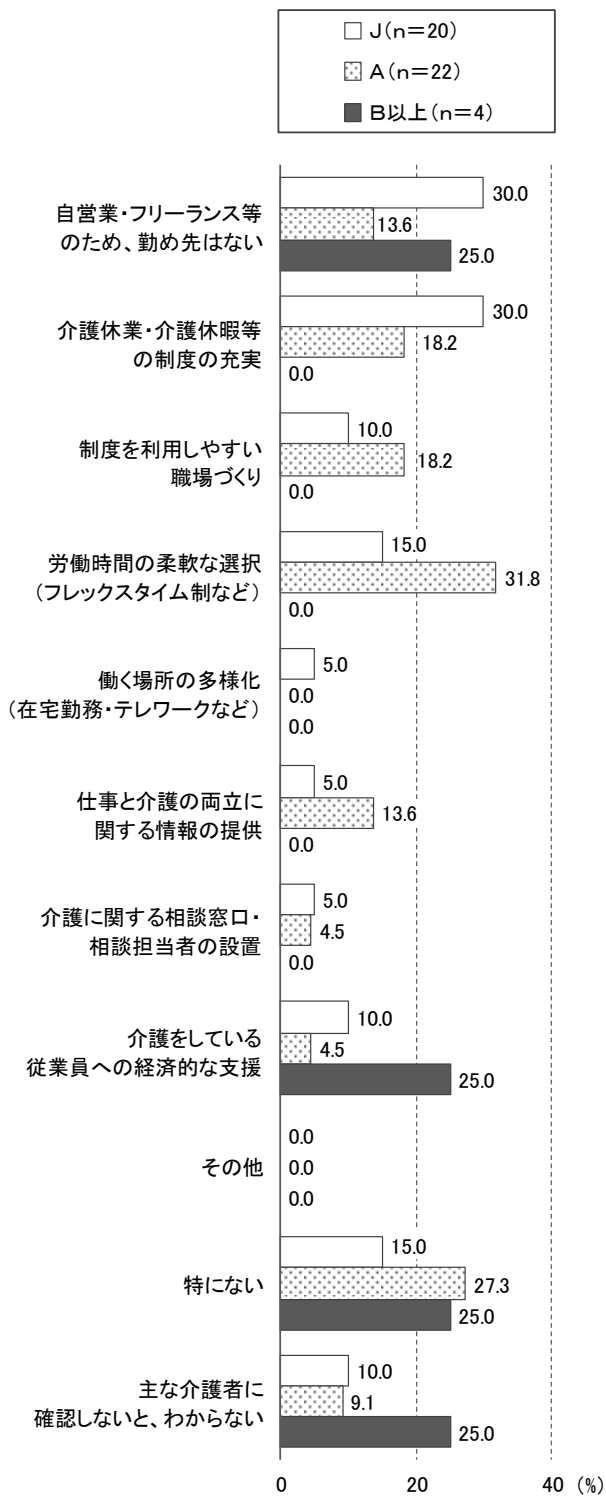
《主な介護者の勤務形態×B票・問3》



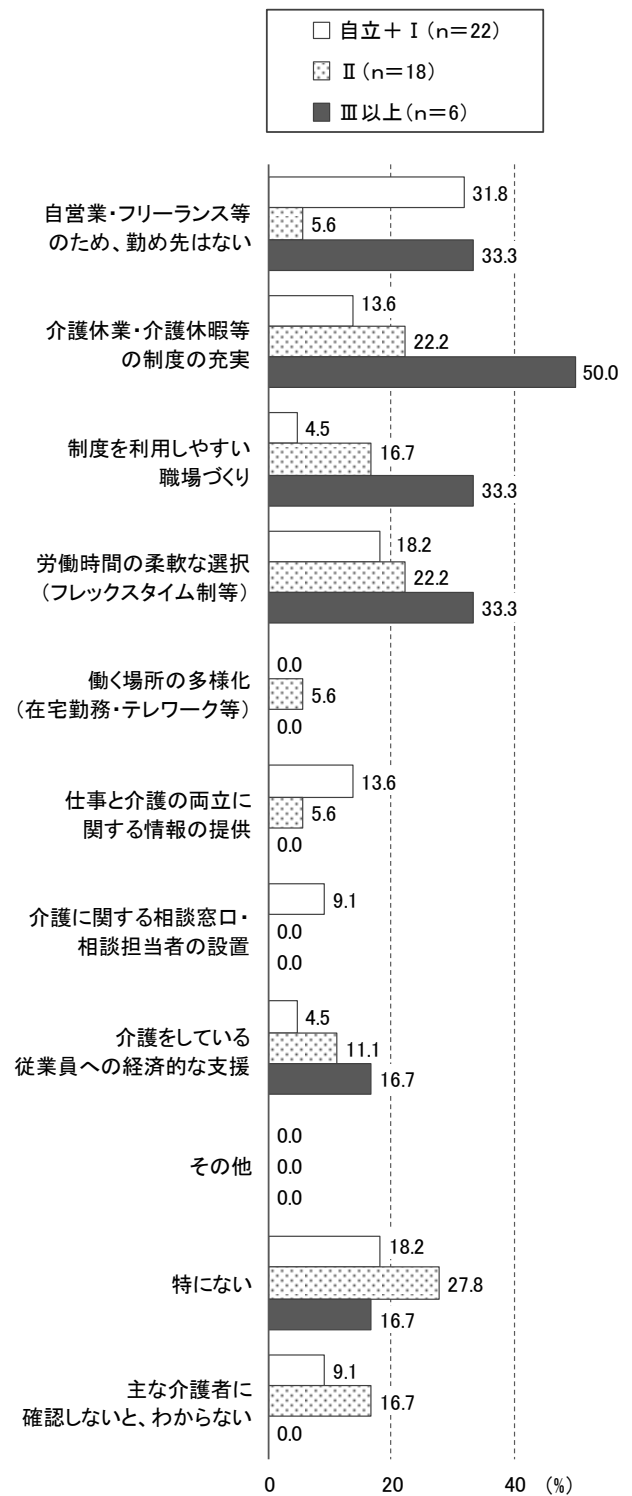
《要介護度×B票・問3》



《障害高齢者の日常生活自立度×B票・問3》



《認知症高齢者の日常生活自立度×B票・問3》



【問1で「1. フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と答えた方】

問4 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。

全体では、「問題はあるが、何とか続けていける」が49.9%と最も高く、次いで、「問題なく、続けていける」(23.9%)、「主な介護者に確認しないと、わからない」(10.9%)の順となっています。

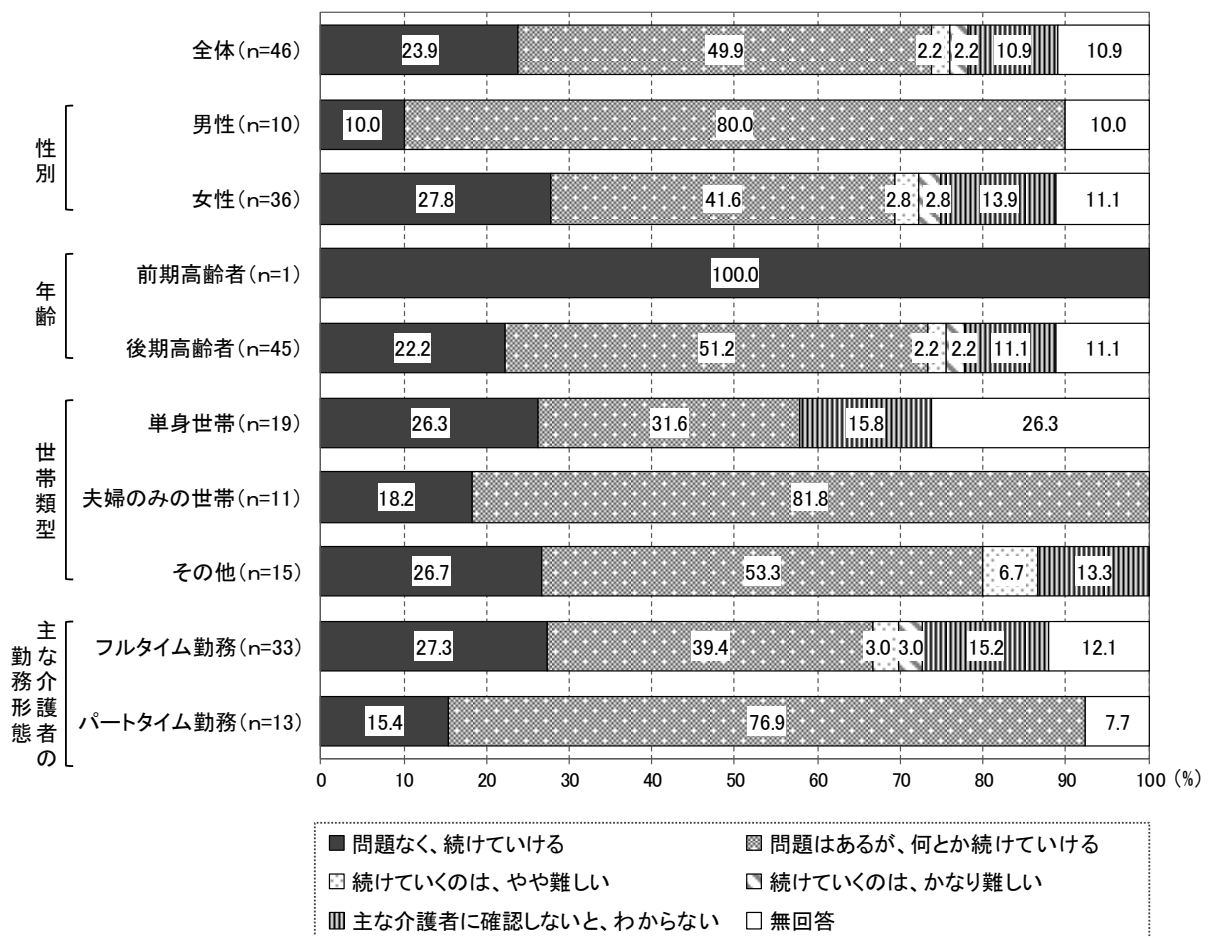
性別で見ると、男性の方が、主な介護者が勤務を「問題なく、続けていける」割合が低く「問題はあるが、何とか続けていける」割合が高くなっています。

年齢層別では、男性が1名のため比較することができません。

世帯類型別で見ると、他の世帯類型と比べて、夫婦のみ世帯で、主な介護者が勤務を「問題なく、続けていける」割合が低く、「問題はあるが、何とか続けていける」割合が高くなっています。

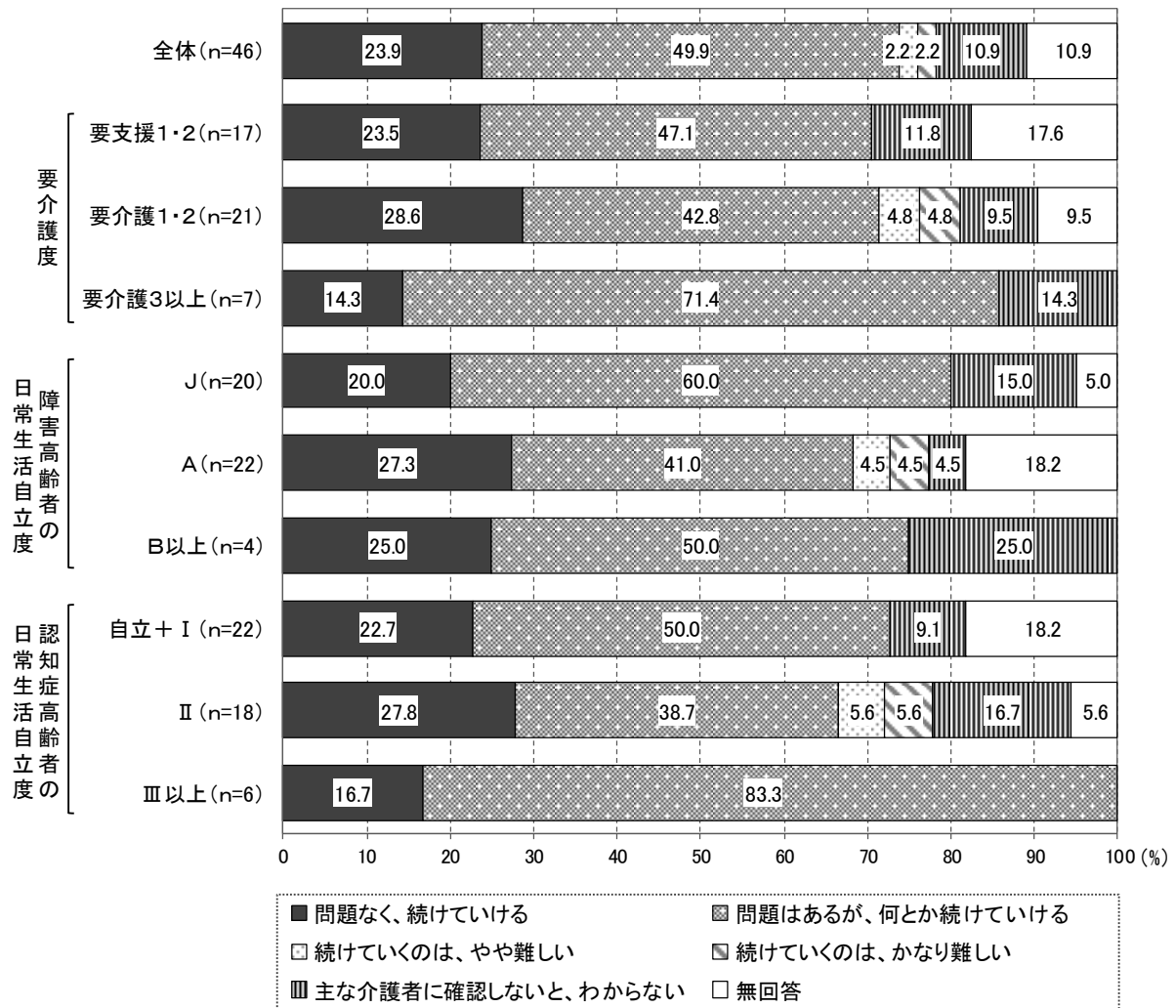
主な介護者の勤務形態別で見ると、「問題なく、続けていける」では、フルタイム勤務が27.3%とパートタイム勤務(15.4%)より高くなっています。

◆ B票・問4 (全体／性別／年齢／世帯類型／主な介護者の勤務形態) ◆



主な介護者が勤務を「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた“主な介護者が勤務を続けるのは難しい”は、要介護度、障害高齢者の日常生活自立度、認知症高齢者の日常生活自立度のそれぞれの結果から、いずれも中程度で高くなっています。

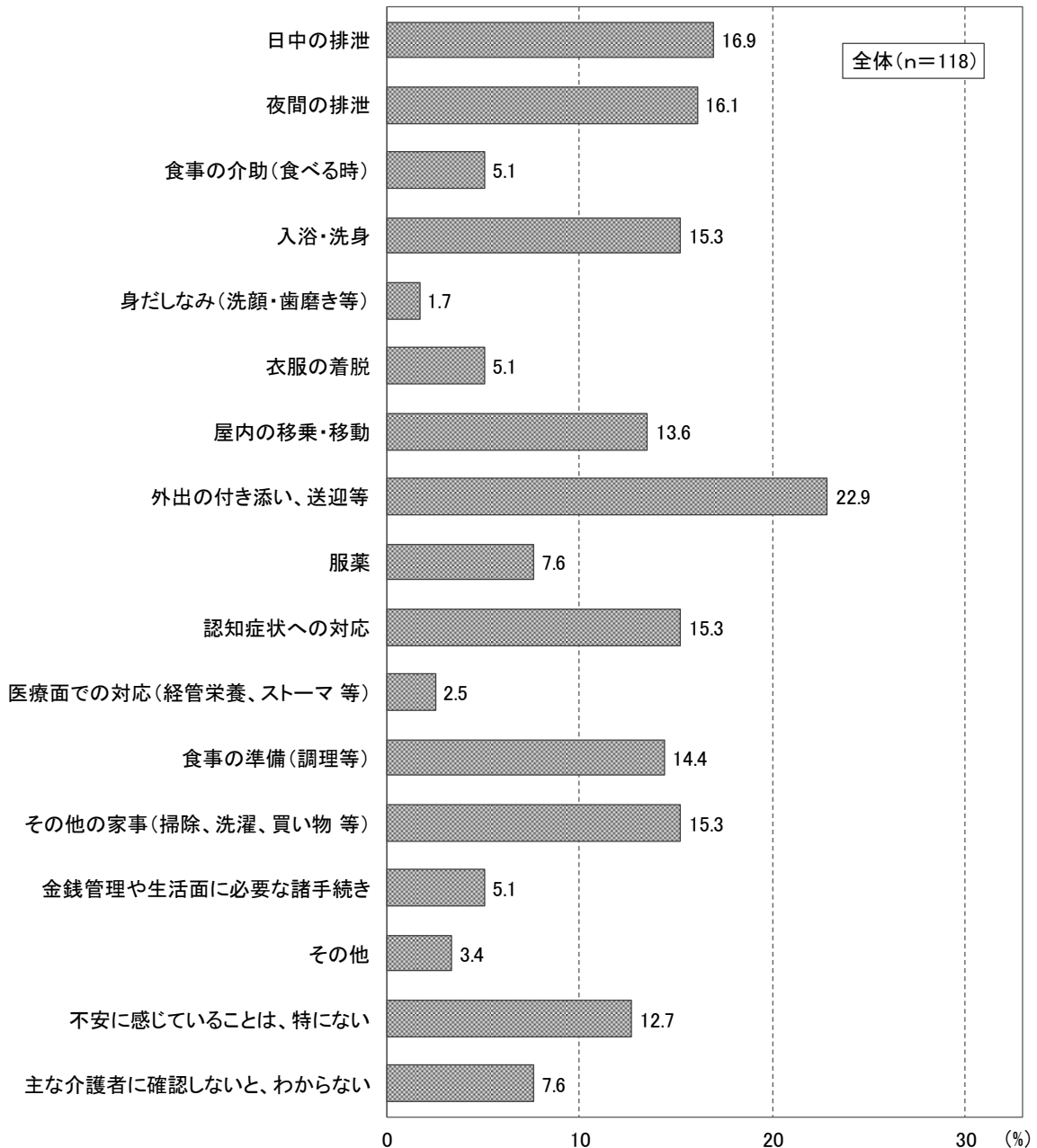
◆ B票・問4（要介護度／障害高齢者の日常生活自立度／認知症高齢者の日常生活自立度） ◆



【B票を回答されている全員の方】

問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください。【MA】

「不安に感じていることは、特にない」が12.7%となっていますが、主な介護者の方が不安に感じる介護等について見ると、「外出の付き添い、送迎等」が22.9%と最も高く、次いで、「日中の排泄」(16.9%)、「夜間の排泄」(16.1%)の順となっています。

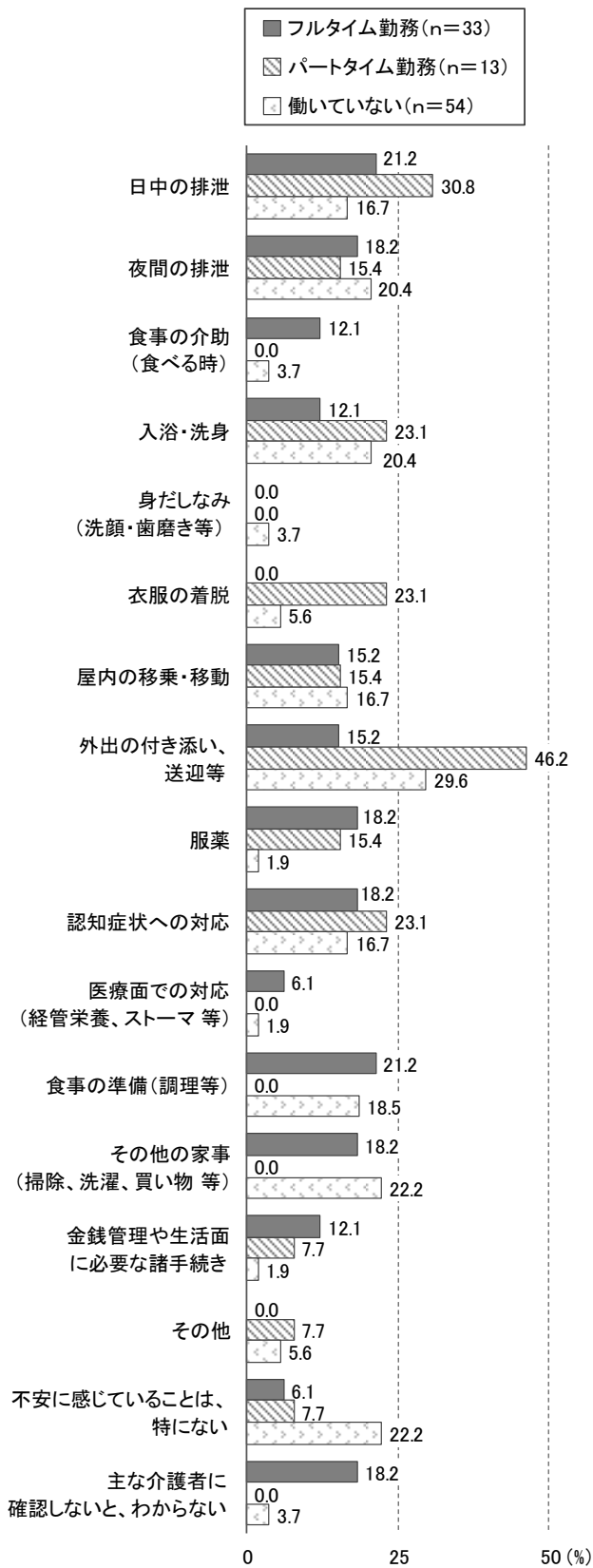


その他意見

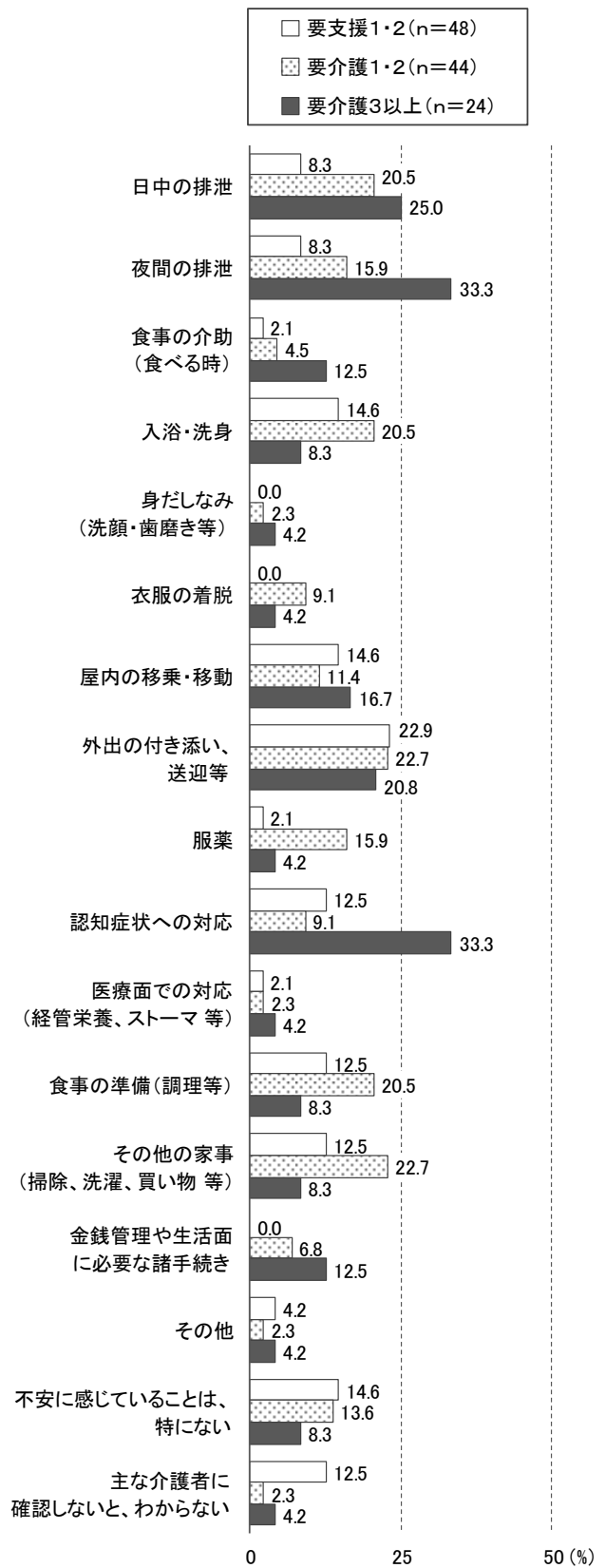
金銭面。忘れ物が多くなった。外出先での転倒。高齢で介助者の健康状態が悪くなって、家事が出来ないと心配。

B票・問5の参考クロス

《主な介護者の勤務形態×B票・問5》

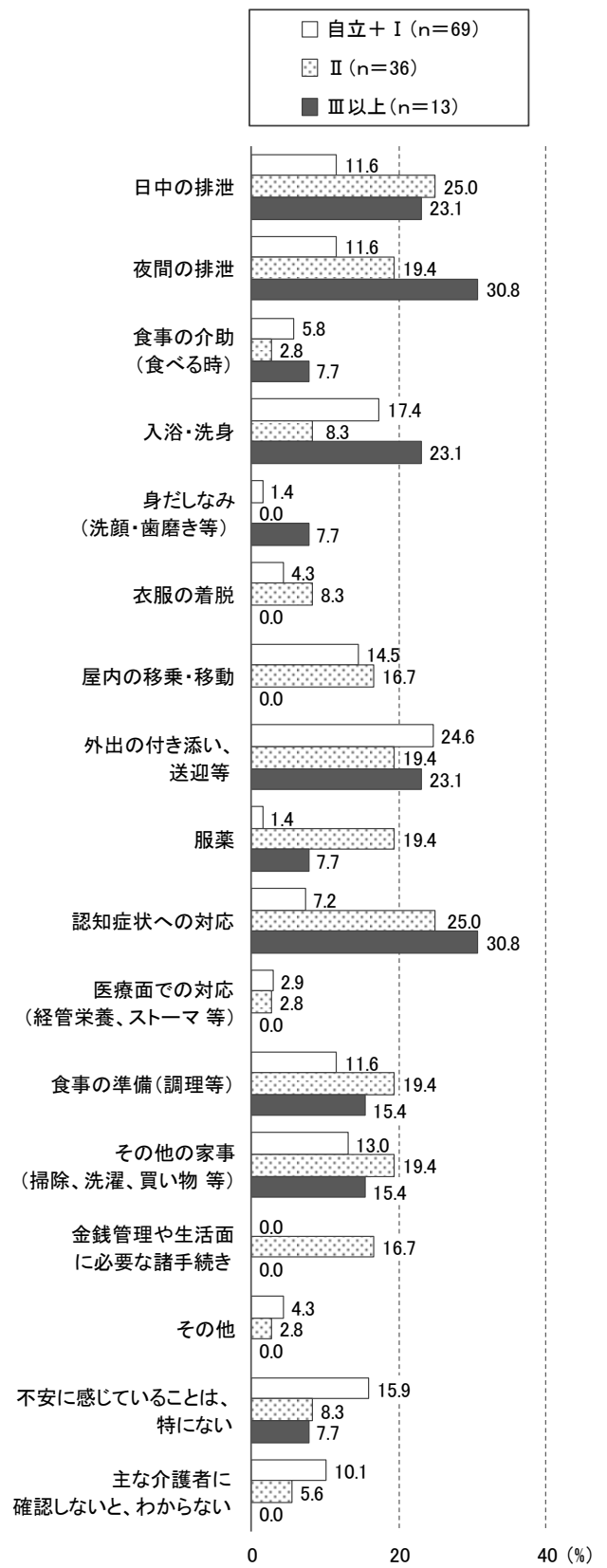
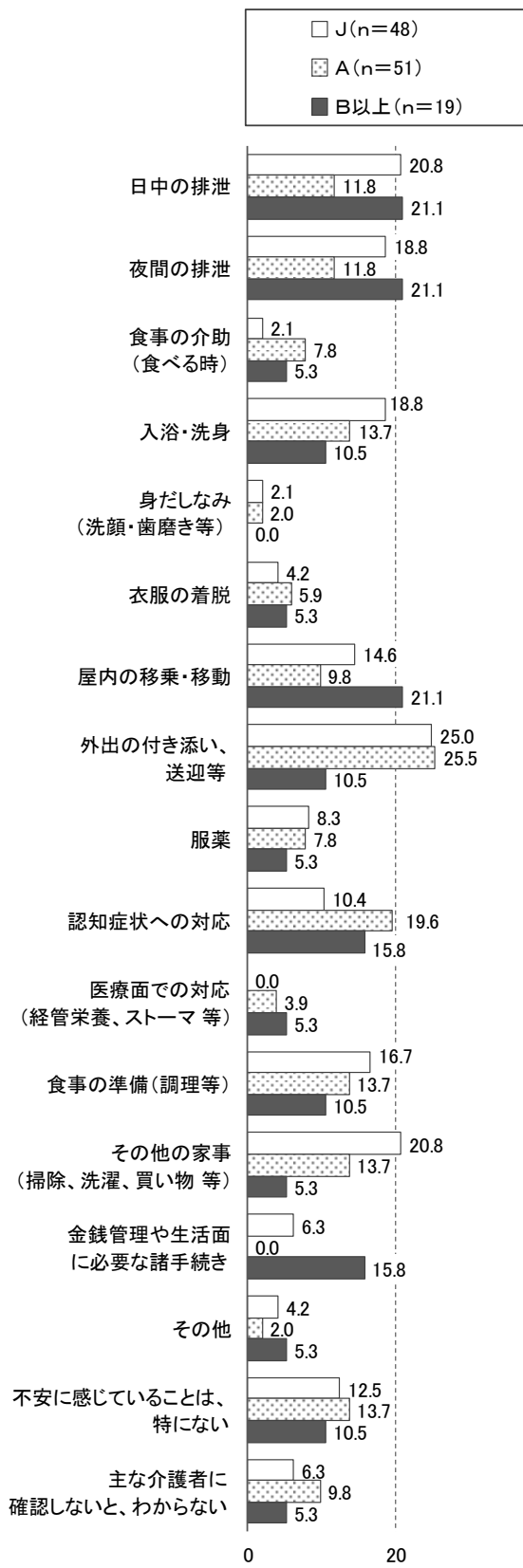


《要介護度×B票・問5》



《障害高齢者の日常生活自立度×B票・問5》

《認知症高齢者の日常生活自立度×B票・問5》



那智勝浦町第9次高齢者福祉計画・第8次介護保険事業計画策定のための

在宅介護実態調査

報告書

令和2年3月

企画・編集 那智勝浦町 福祉課 介護保険係